

取扱ガイドについて

■本書の見方

本書では、お車の運転操作や装備の基本的な操作、緊急時に必要な情報や、安全に関する重要な情報を抜粋して説明しています。詳しい取り扱いについては、日産ホームページに掲載されている取扱説明書をお読みください。

取扱説明書（電子）

https://www.nissan.co.jp/OPTIONAL-PARTS/NAVIOM/ELGRAND_SPECIAL/2607/index.html

スマートフォン、タブレットなどで右側の二次元コードを読み取ると、簡単にアクセスいただけます。



- お車を安全・快適にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。
- 「警告」「注意」は安全のために特に重要です。よく読んでお守りください。
- 印刷版の取扱説明書（詳細版）をご希望される方は、日産販売会社にお問い合わせください。
- 本書はお車の中に保管することをおすすめします。

■乗りはじめガイド(動画)のご案内

初めてこのお車にお乗りになる方にも安心してご利用いただけるよう、基本操作の説明動画をご用意しております。

スマートフォン、タブレットなどで右側の二次元コードを読み取ると、簡単にアクセスいただけます。



乗りはじめガイド

P.3

安全にお使いいただくために

P.39

トラブルがおきたときは

P.49

重要事項

P.67

メンテナンス

P.125

MEMO

運転席まわり

インストルメントパネル

運転する前に

インテリジェントキー	P.7
ドアのセンサー・スイッチ	P.7
ドア（接近時アンロック機能／降車時オートロック機能）	P.7
オートスライドドア	P.8
パワースイッチ	P.10
フロントシート	P.10
ハンドルの調節	P.11
ドアミラー	P.11
インテリジェントルームミラー	P.11
パーソナルポジションメモリーシステム	P.12
セカンドシート	P.12
サードシート	P.13

走行中の操作

シフトスイッチ	P.17
e-Pedal Step	P.17
ドライブモードセクター	P.18
オートブレーキホールド	P.18
EVモードスイッチ	P.18
先進事故自動通報システム	P.19
ドライブレコーダー★	P.19

視界、空調調整

ライトスイッチ	P.20
ワイパー	P.20
エアコンの操作	P.21
ステアリングヒーター	P.22

走行支援機能

プロパイロットの使いかた	P.24
--------------	------

メーターの見かた

ヘッドアップディスプレイ★	P.25
アドバンスドドライブアシストディスプレイ	P.25
メーター警告灯・表示灯・警告メッセージ	P.25

その他室内装備

USB電源ポート	P.29
ワイヤレス充電器	P.29
100V AC電源（1500W）★	P.29

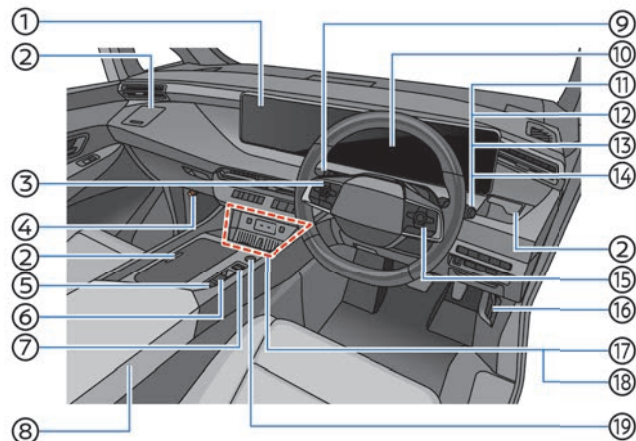
駐車する／給油する

電動パーキングブレーキ	P.31
インテリジェントアラウンドビューモニター	P.31
プロパイロットパーキング★	P.32
プロパイロットリモートパーキング★	P.32
リモコンオートバックドア	P.32
給油口	P.33

NissanConnectインフォテインメントシステム

各部の名称と機能	P.34
機器接続（Bluetooth®対応機器の接続）	P.36
Google アプリおよびサービスについて	P.36
Google アプリおよびサービスの利用にあたって必要なこと	P.36

運転席まわり

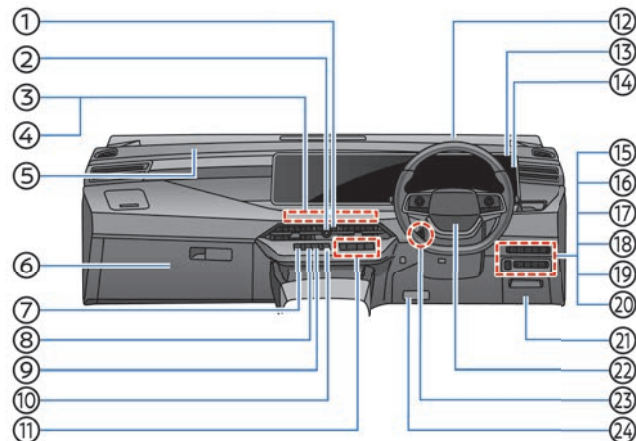


- ① センターディスプレイ (NissanConnectインフォテインメントシステム) (➡P.34)
- ② カップホルダー
- ③ ステアリングスイッチ (左)
- プロパイロット (➡P.24)
- オーディオ (➡P.34)
- ④ 発炎筒
- ⑤ オートブレーキホールドスイッチ (➡P.18)
- ⑥ 電動パーキングブレーキスイッチ (➡P.31)
- ⑦ ドライブモードセレクター (➡P.18)
- ⑧ センターコンソールボックス
- 電源ソケット
- USB電源ポート (➡P.29)
- HDMI端子★ (➡P.35)
- ⑨ ワイパー・ウォッシャースイッチ (➡P.20)
- ⑩ メーター (➡P.25)

- ⑪ ライトスイッチ (➡P.20)
- ⑫ 方向指示器スイッチ
- ⑬ フォグランプスイッチ
- ⑭ リヤフォグランプスイッチ★
- ⑮ ステアリングスイッチ (右)
- アドバンスドドライブアシストディスプレイ (➡P.25)
- オーディオ (➡P.34)
- ボイスアシスタント (➡P.34)
- ⑯ ボンネットオープナー
- ⑰ ワイヤレス充電器 (➡P.29)
- ⑱ USB電源ポート (➡P.29)
- ⑲ パワースイッチ (➡P.10)

※参照ページがない装備については、取扱説明書（電子）をご確認ください。

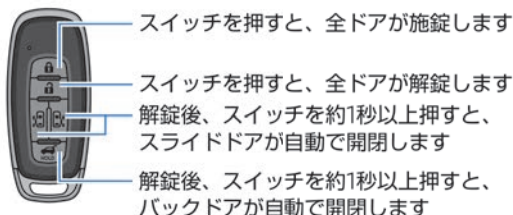
インストルメントパネル



- ①⑦ VDC OFFスイッチ
 - ①⑧ ヘッドアップディスプレイスイッチ★ (➡P.25)
 - ①⑨ オートスライドドア運転席スイッチ (➡P.8)
 - ②⑩ オートドアメインスイッチ (➡P.8)
 - ③⑪ 運転席コインポケット
 - ④⑫ 運転席SRSエアバッグ
 - ⑤⑬ ハンドル位置調節スイッチ (➡P.11)
 - ⑥⑭ ETCユニット★
- ※参照ページがない装備については、取扱説明書（電子）をご確認ください。

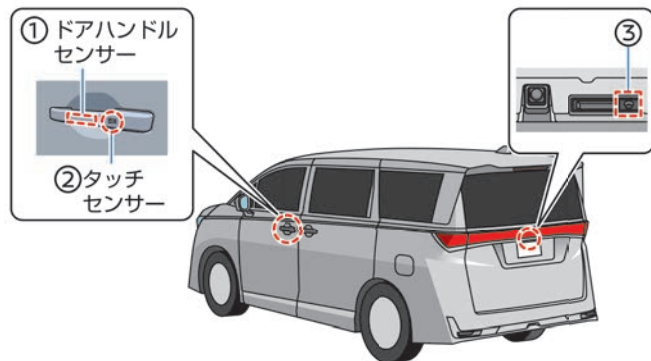
- ① CAMERAスイッチ
- ② オーディオスイッチ (< ① >ダイヤル) (➡P.34)
- ③ フロントオートエアコン (➡P.21)
- ④ リヤデフォグガススイッチ (➡P.21)
- ⑤ 助手席SRSエアバッグ
- ⑥ グローブボックス
- ⑦ プロパイロットパーキングスイッチ★ (➡P.32)
- ⑧ EVモードスイッチ (➡P.18)
- ⑨ e-Pedalスイッチ (➡P.17)
- ⑩ 非常点滅表示灯スイッチ
- ⑪ シフトスイッチ (➡P.17)
- ⑫ ヘッドアップディスプレイ★ (➡P.25)
- ⑬ イルミネーションコントロールスイッチ
- ⑭ ODO TRIPスイッチ
- ⑮ 100V AC電源 (1500W) メインスイッチ★ (➡P.29)
- ⑯ リモコンオートバックドア運転席スイッチ (➡P.8)

インテリジェントキー



インテリジェントキーの形状は車両仕様により異なります。

ドアのセンサー・スイッチ



- ① ドアハンドルセンサー
インテリジェントキーを携帯している状態でドアハンドルを握りセンサーに触れると、ドアを解錠できます。

- ② タッチセンサー
インテリジェントキーを携帯している状態でセンサーに触れると施錠できます。
- ③ バックドアスイッチ
インテリジェントキーを携帯している状態で押すと施錠・解錠できます。

ドア（接近時アンロック機能／降車時オートロック機能）

接近時アンロック機能

インテリジェントキーを携帯して車に近づくると自動で車両が解錠されます。

降車時オートロック機能

＜パワースイッチ＞をOFFにしたあと、ドア開閉をしてからインテリジェントキーを携帯して車から離れると自動で車両が施錠されます。

降車時オートロック機能によりドアが施錠されると、アンサーバック機能で非常点滅表示灯が1回点滅します。車両から離れるときは、アンサーバック機能で施錠されていることを確認してください。

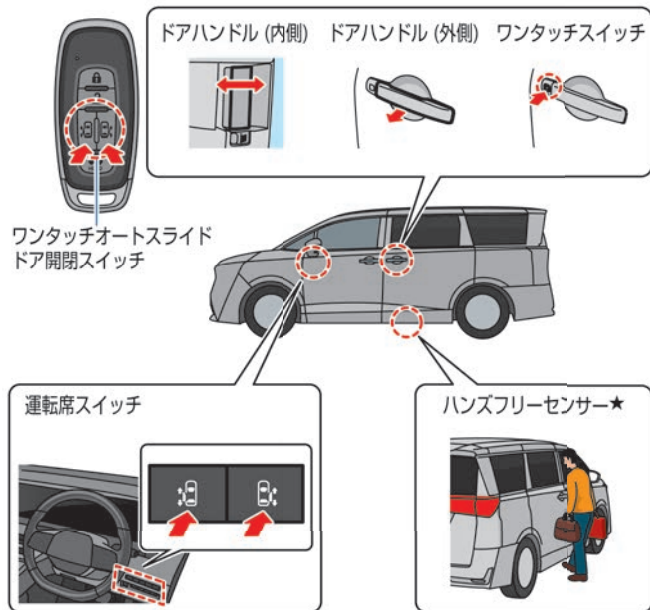
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで、接近時アンロック機能と降車時オートロック機能のON・OFFを切り替えます。

運転する前に

オートスライドドア

オートスライドドアは、スイッチの操作やハンズフリー機能★でスライドドアを自動（電動）開閉することができます。

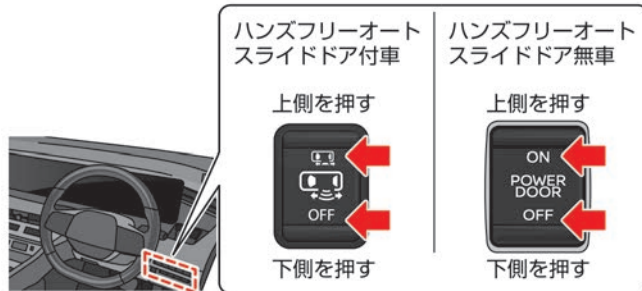
オートスライドドアの使いかた



スライドドアが自動（電動）開閉中にスイッチを押すと、その位置で停止します。もう一度スイッチを操作すると、停止前とは反対の方向に動き、全開または全閉します。

オートドアメインスイッチ

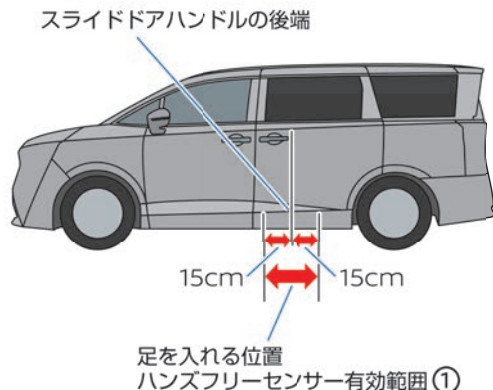
ハンズフリーセンサー★と自動（電動）開閉機能のON・OFFが切り替わります。



スイッチ位置	作動
<ON>/ <🚗>	自動（電動）開閉機能を使うときの位置
<👤>★ 中立	ハンズフリーセンサーおよび自動（電動）開閉機能を使うときの位置（ハンズフリーオートスライドドア付車）
<OFF>	ハンズフリーセンサー★および自動（電動）開閉機能を停止する位置

ハンズフリーセンサー★

ドア下側のモールに設けられたセンサーによって足の動きを感知し、スライドドアの開閉を自動（電動）で行います。スライドドアハンドル後端部の下にあるハンズフリーセンサー有効範囲①の間で、足先の出し入れを行ってください。



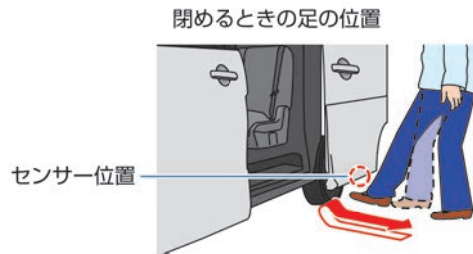
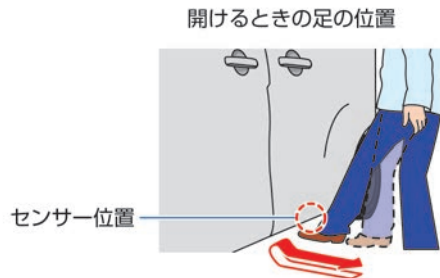
- 足を入れたままにしていると作動しません。
- スライドドアが自動（電動）開閉中に、再度、足先を入れて引く動作を行ってもスライドドアは停止しません。また、自動（電動）開閉中にスイッチ操作などにより任意で停止させた位置から、足先を入れて引く動作を行っても自動（電動）開閉動作はしません。

■ 操作前の確認

インテリジェントキーを携帯します。
オートドアメインスイッチが中立位置にあることを確認します。

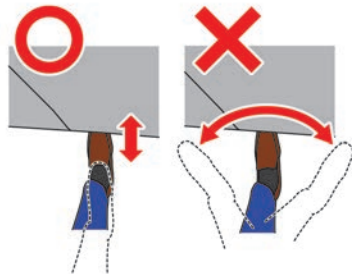
■ 操作のしかた

1. スライドドアハンドル後端部の真下あたりを狙って足を入れ止めずにすぐに引くとスライドドアが自動的に全開、または全閉します。
（ひざを曲げずに振り子のように足を振りあげると、センサーが反応しやすくなります）



- 足のつま先とすねの両方をセンサーに近づけてください。
- 足はスライドドアに対して垂直方向に動かしてください。

運転する前に

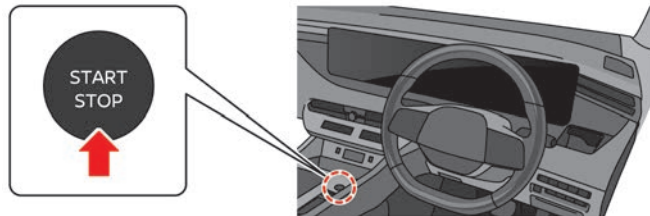


- 足先を出し入れしたあと、スライドドアが動き出すまで少しお待ちください。「ピッピッ」というブザー音が鳴りドアが自動的に開閉します。

パワースイッチ

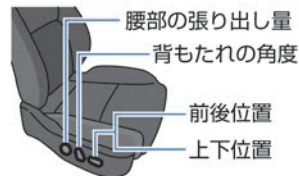
インテリジェントキーを携帯しているときに、次の作動をします。

- ブレーキペダルを踏まずに<パワースイッチ>を押すと、モードが切り替わります。
- ブレーキペダルを踏みながら<パワースイッチ>を押すと、e-POWERシステムが始動します。
- e-POWERシステムが始動中に<パワースイッチ>を押すと、e-POWERシステムが停止します。



フロントシート

シート調節



■ 前後位置の調節 (スライド)



- 調節したい方向にスイッチを動かします。

■ 背もたれの角度調節 (リクライニング)



- 調節したい方向にスイッチを動かします。

■ 上下位置の調節 (リフター/サイサポート)



- シート全体を調節するときはスイッチの後ろ側を、シートの前側を調節するときはスイッチの前側を動かします。

■ 上下位置の調節 (オットマン)



- 調節したい方向にスイッチを動かします。

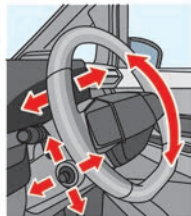
■ 腰部の張り出し量 (ランバーサポート) (運転席)



- 調節したい方向にスイッチを動かします。

ハンドルの調節

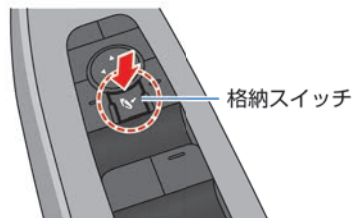
- スイッチを前後上下に押して調節します。



ドアミラー

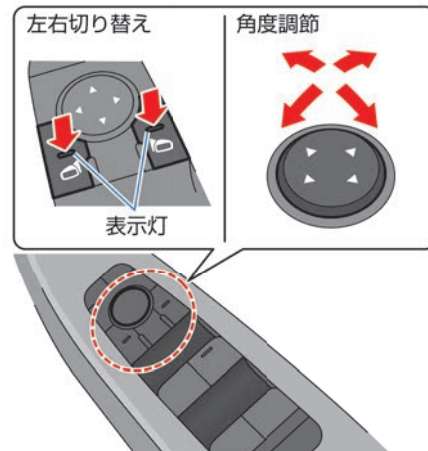
ドアミラーの格納のしかた

- <格納スイッチ>を押すと、左右のミラーが格納されます。
- <格納スイッチ>をもう一度押すと、元の位置に戻ります。



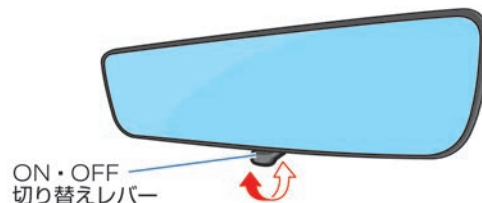
ドアミラーの角度調節のしかた

- 調節したいミラー側の<左右切り替えスイッチ>を押します。
(スイッチの表示灯が点灯)
- <角度調節スイッチ>を前後左右に押して、鏡面角度を調節します。



インテリジェントルームミラー

インテリジェントルームミラーモードに切り替えると、車両後方にあるカメラで映し出された映像（モニター表示）に切り替わります。



運転する前に

パーソナルポジションメモリーシステム

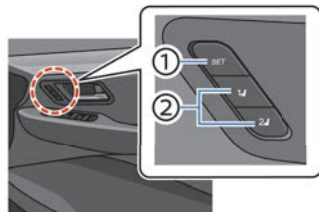
あらかじめ運転席シートおよびセカンドシートのシート位置、ならびに運転席のハンドル位置を記憶させておくことで、記憶したポジションを<メモリースイッチ>の操作により呼び出すことができます。

スイッチメモリー機能の使いかた

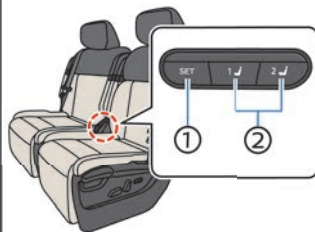
2名分のポジションを記憶させて呼び出すことができます。

1. 記憶したい位置に調節します。
2. スイッチ①を押し、5秒以内に記憶させたい方のスイッチ②を押します。
記憶が完了すると、記憶されたスイッチの表示灯が数秒間点灯します。運転席はブザーが鳴ります。

運転席



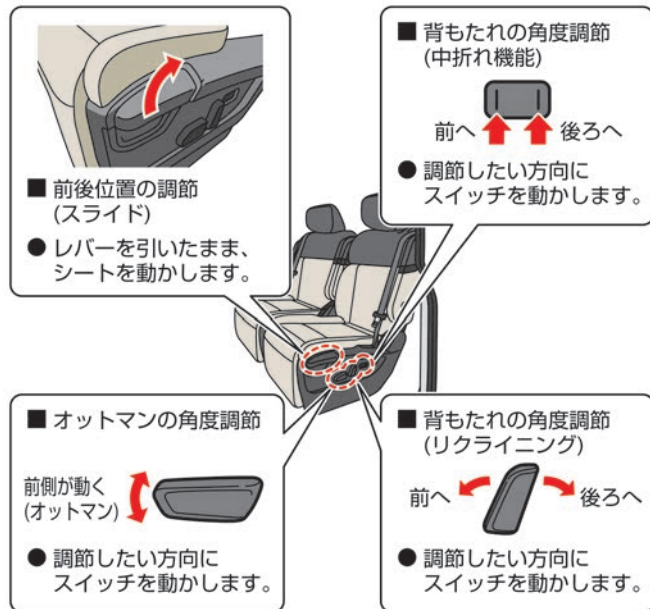
セカンドシート



3. 呼び出すときは、記憶を呼び出したい方のスイッチ②を押します。

セカンドシート

シート調節



サードシート

シート調節

- 前後位置の調節 (スライド)



- シート前面または後面のレバーを引いたまま、シートを動かします。



- 背もたれの角度調節 (リクライニング)

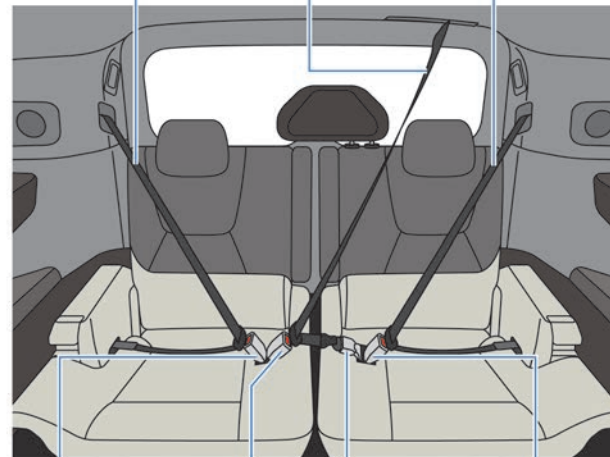


- レバーを引いたまま、背もたれを傾けます。

シートベルトの着用

■ サードシートのベルト位置

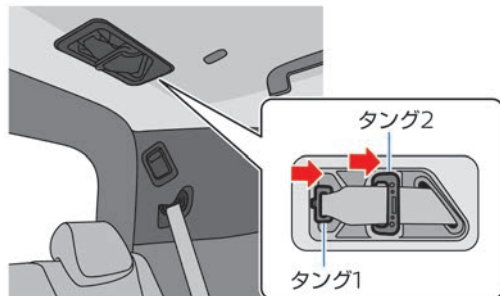
右席シートベルト 中央席シートベルト 左席シートベルト



右席シート 中央席シート 中央席シート 左席シート
ベルト用バックル ベルト用バックル2 ベルト用バックル1 ベルト用バックル

■ サードシート中央席シートベルトの着用のしかた

1. タング1を格納部から抜き出したあと、タング2を格納部から抜き出します。



2. タング1をバックル1に「カチッ」と音がするまで確実に差し込みます。

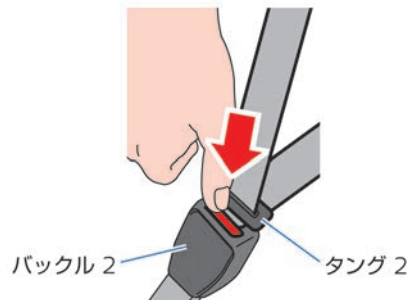


3. 正しい姿勢でシートに座り、タング2を持ってベルトをゆっくり引き出します。
ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。
ベルトがねじれないようにして、タング2をバックル2に「カチッ」と音がするまで確実に差し込みます。
バックル2に、「CENTER」と表示されているものをご使用ください。

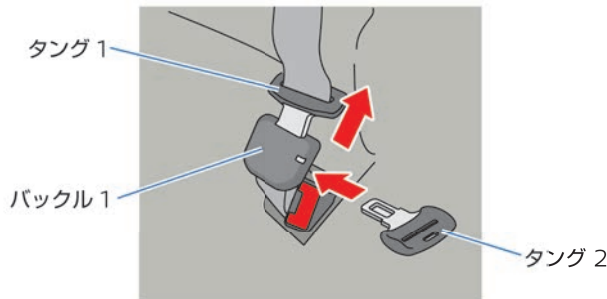


■ サードシート中央席シートベルトの収納のしかた

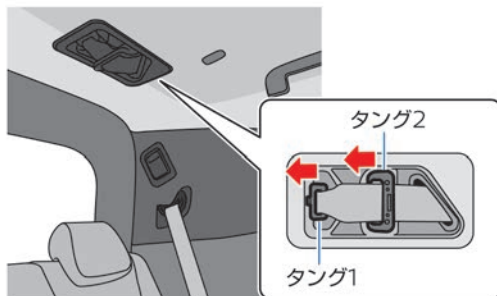
1. 外すときは、バックル2のボタン（赤色部）を押し、タング2を持ってゆっくり戻します。



2. 収納するときはタング1を持って、バックル1のボタンをタング2で押し込んでロックを解除します。



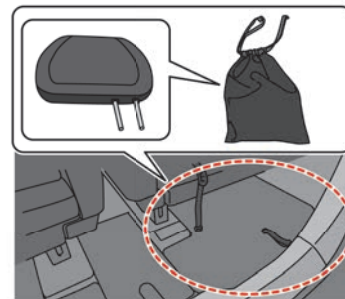
3. タング2を格納部に差し込んだあと、タング1を格納部に差し込みます。



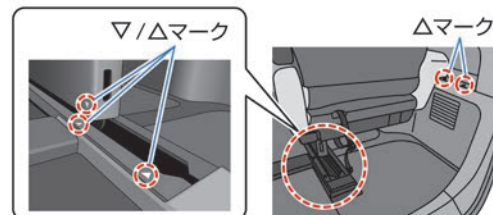
サードシートの格納のしかた

サードシートを跳ね上げ、ラゲッジスペースを広げることができます。

1. サードシートを格納する前に、中央席のシートベルトを格納してください。また、中央席ヘッドレストを外し、ラゲッジルームの格納場所に格納してください。

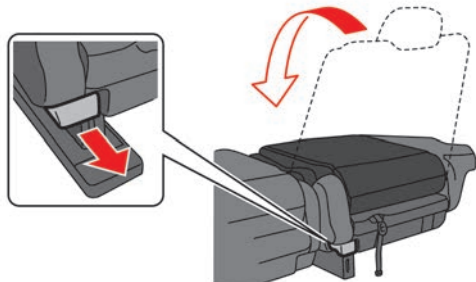


2. 左右席のヘッドレストを一番下に下げます。シートの▽マークをシートレールの△マークと合わせるか、シート後端を壁面の△マークと合わせます。（2箇所あります）

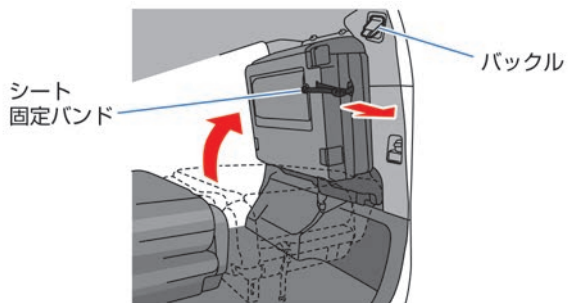


3. レバーを引いてシート脚部（レッグ部）のロックを解除します。
（同時に背もたれが前に倒れ、シート全体がはね上がります。シートのはね上げと連動してシート脚部が格納されます）

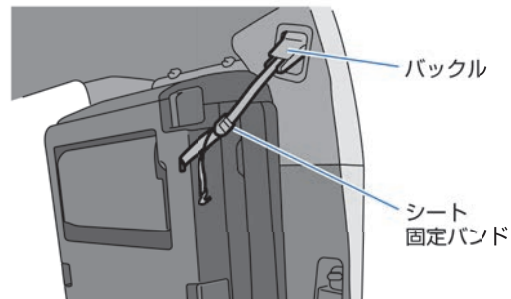
運転する前に



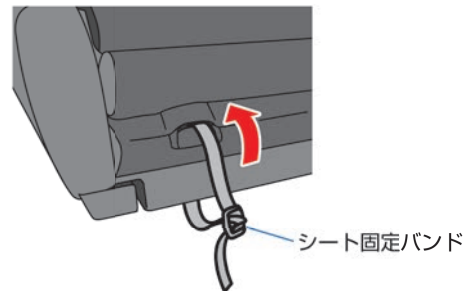
4. 車両側面のバックルを、上部を押して引き出します。シート固定バンドをシート後端から引き出し、シートを窓側へ折りたたみます。



5. シート固定バンドを車両側面のバックルに確実に留めます。シート固定バンドの長さを調節して、シートをしっかりと固定します。

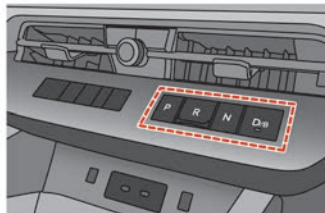


6. 元に戻すときは折りたたんだときと逆の手順で操作します。シートを元に戻してから、シート固定バンドをシートに格納します。背もたれを戻すときは、レバーは引かずに背もたれを起こします。



シフトスイッチ

シフトスイッチの使いかた



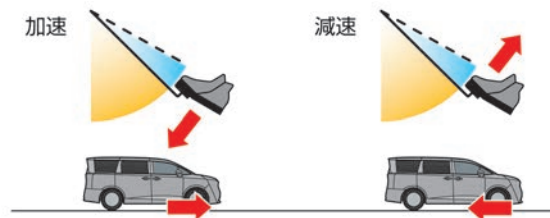
シフトポジション	操作方法	役割
P	ブレーキペダルを踏みながら、<P>スイッチを押します。	駐車およびe-POWERシステムを始動するとき
R	ブレーキペダルを踏みながら、<R>スイッチを押します。	後退するとき
N	ブレーキペダルを踏みながら、<N>スイッチを押します。	動力が伝わらない状態
D	ブレーキペダルを踏みながら、<D/B>スイッチを押します。	通常走行するとき
B	D のときに<D/B>スイッチを押すと B に切り替わります。もう一度<D/B>スイッチを押すと D に戻ります。	下り坂などで、強い回生ブレーキが必要なとき

e-Pedal Step

アクセルペダルの操作のみで加減速を行い、ブレーキペダルへ踏み替える頻度を大幅に減らすことができます。

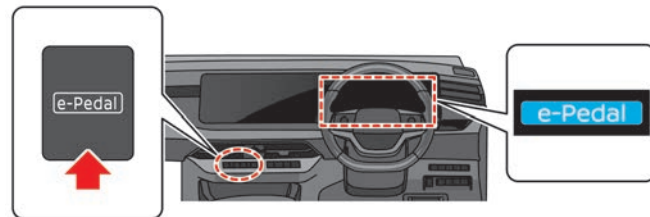
e-Pedal Stepについて

- e-Pedal StepをONにすると、回生ブレーキの効きが強くなり、アクセルペダルの操作のみで速度調整することができるようになります。
- e-Pedal Stepはアクセルペダルを離れたときの減速度が従来の車より強いいため、アクセルペダルを完全に離さずゆっくりと緩めることで、なめらかに減速することができます。
- アクセルペダルを離しても減速度が足りないときおよび停車に向けて減速するときや停車時は必ずしっかりとブレーキペダルを踏んでください。



e-Pedal Stepの使いかた

<パワースイッチ>がONのとき<e-Pedal>スイッチを操作することによりON・OFFが切り替わります。（メーター内のe-Pedalインジケータに状態を表示します。）

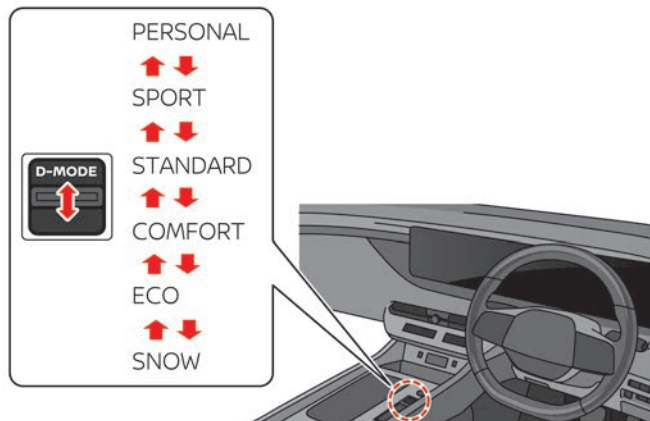


走行中の操作

ドライブモードセレクト

複数のドライブモードがあります。目的に応じて使い分けてください。

ドライブモードは、PERSONAL、SPORT、STANDARD、COMFORT、ECO、SNOWから選択することができます。



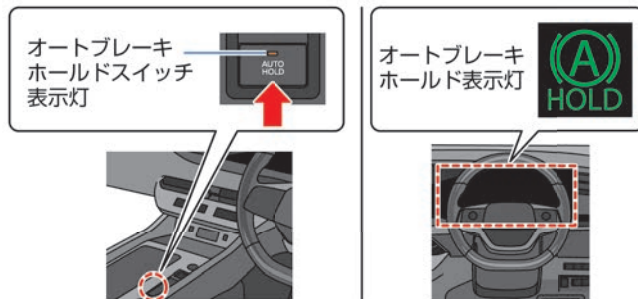
オートブレーキホールド

オートブレーキホールド機能は、信号待ちなどの停車中にブレーキペダルを踏み続けなくても、ブレーキ力を保持する機能です。

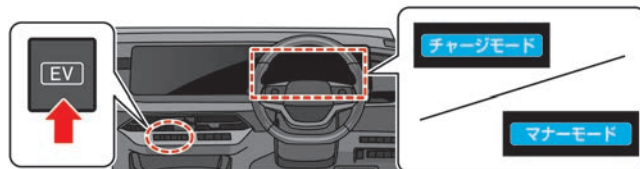
オートブレーキホールド機能のON・OFFのしかた

- <パワースイッチ>がONのとき<オートブレーキホールドスイッチ>を操作することによりON・OFFが切り替わります。（ONにすると、スイッチの表示灯が点灯します。）
- 使用できる条件になると、オートブレーキホールド表示灯（白色）が点灯し、待機状態になります。

- ブレーキ力が保持されているときは、オートブレーキホールド表示灯（緑色）が点灯します。



EVモードスイッチ



チャージモード

強制的にエンジンを始動し、リチウムイオンバッテリーの充電を行います。マナーモードによる走行距離を長くしたいとき、あらかじめリチウムイオンバッテリーを充電するモードです。

- 走行可能表示灯が点灯しているとき、<EVモードスイッチ>を押し続けるたびにチャージモードのON・OFFが切り替わります。

マナーモード

エンジンの始動を極力抑えて走行することができます。リチウムイオンバッテリーの電力だけで走行するので、早朝や深夜の住宅街など、静かに走行したいときに使用するモードです。

- 走行可能表示灯が点灯しているとき、＜EVモードスイッチ＞を押すたびにマナーモードのON・OFFが切り替わります。

先進事故自動通報システム

＜SOSコールスイッチ＞を約1秒間押すことでSOSコールを開始できます。また、エアバッグやプリテンショナーシートベルトが作動するレベルの事故では、自動でSOSコールを開始します。



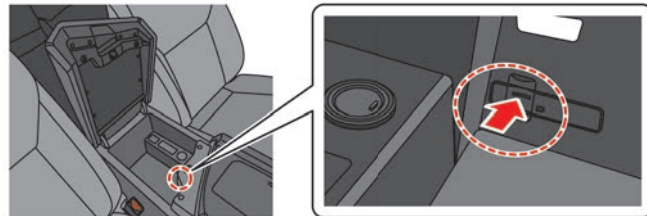
ドライブレコーダー★

車両前方および後方の映像を動画や写真で保存し、NissanConnectインフォテインメントシステムやスマートフォンで確認することができます。ドライブレコーダーで保存した動画や静止画は、コンソールボックス内のカードスロットに挿入されているmicroSDカードに保管されています。

初めてドライブレコーダーをご使用になるときに録画設定がOFFになっていた場合は、ドライブレコーダーの初期化を行ってください。

microSDカードの取り出し方

コンソールボックス内のカードスロットから、microSDカードを押し込んで取り出します。



ライトスイッチ

ランプの点灯・消灯

スイッチを回してスイッチ位置をマークに合わせます。通常時は<AUTO>の位置で使用してください。

ライトの点灯・消灯状態は、ライトスイッチを操作したときにメーターに表示されるガイダンスとメーター内の表示灯で確認してください。



スイッチ位置	点灯するランプ
< 1x >	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯
< AUTO >	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯、アクセントランプが自動点灯・消灯 ● <AUTO>の位置でヘッドランプが点灯しているときに、ライトスイッチ横のボタンを押すとアダプティブLEDヘッドライトシステムのON・OFFをすることができます。

スイッチ位置

点灯するランプ

< 1x >/OFF<
(< 1x >/OFF<の位置にしても手を離すと自動で<AUTO>の位置に戻ります)

走行状態やランプの点灯状態に応じてヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯、アクセントランプが点灯または消灯

- シフトポジションがPのとき、またはパーキングブレーキが作動しているときにスイッチをこの位置に回して保持するとランプを消灯させることができます。ただし、走行を開始すると周囲の明るさに応じてランプは自動点灯します。

ワイパー

フロントワイパー



スイッチ位置

作動

< 1x >	スイッチを上げている間作動 手を離すとOFF
< OFF >	停止
< AUTO >	自動制御 (スイッチを回して雨滴感知センサー感度の高い、低いを調節)
< — >	低速連続作動
< — >	高速連続作動

視界、空調調整

- スイッチを手前に引くとフロントウォッシャー液が噴射し、ワイパーが数回作動します。

リヤワイパー



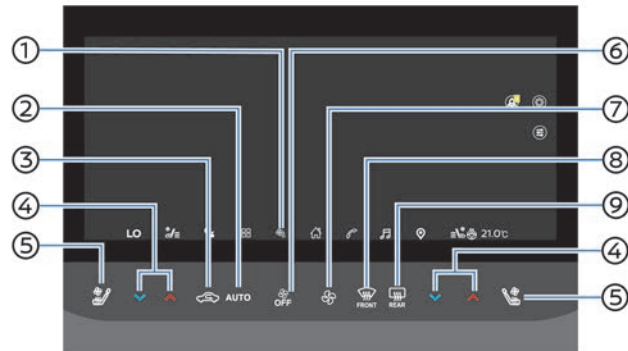
スイッチ位置	作動
<OFF>	停止
< -- >	間けつ作動（調節機能なし）
< — >	連続作動

- スイッチを車両前方に押すとリヤウォッシャー液が噴射し、ワイパーが数回作動します。
- フロントワイパー作動中にシフトポジションを**R**に切り替えると、リヤワイパーが作動します。

エアコンの操作

各スイッチの名称と機能

センターディスプレイおよび下部のスイッチでエアコンを操作することができます。



- ① [風量] スイッチ
エアコンシステム操作画面が表示されます。
- ② AUTO スイッチ
吹き出し温度、吹き出し口、風量、ステアリングヒーター、前席ベンチレーションシート★、前席ヒーターシートの切り替えを自動で制御して設定した温度に保ちます。
- ③ 内外気切り替えスイッチ
外気導入／内気循環モードが切り替わります。
- ④ 温度調節スイッチ
設定温度が切り替わります。
- ⑤ 前席ベンチレーションシートスイッチ★／前席ヒーターシートスイッチ
前席ベンチレーションシート★、前席ヒーターシートのON・OFFおよび温度調節をします。
- ⑥ 風量調節スイッチ／OFFスイッチ
風量が切り替わります。エアコンをOFFにします。

- ⑦ 風量調節スイッチ
風量が切り替わります。
- ⑧ デフロスタースイッチ
フロントガラスのくもりが取れます。
- ⑨ リヤデフォッガースイッチ
バックドアガラスのくもりが取れます。また、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりを取ります。

各スイッチの名称と機能（リヤオートエアコン）

- フロントオートエアコン作動時に使えます。
- リヤオートエアコン操作部は、セカンドシートの天井部中央にあります。
- センターディスプレイからも操作することができます。



- ① 吹き出し口切り替えスイッチ
- ② ON・OFFスイッチ
- ③ AUTOスイッチ
- ④ 風量調節スイッチ
- ⑤ 温度調節スイッチ

ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部分を温かく保ちます。

ステアリングヒーターの使いかた

センターディスプレイの [ⓘ] をタッチしてオートエアコンシステム操作画面を表示させたあと、[ステアリングヒータースイッチ] をタッチします。

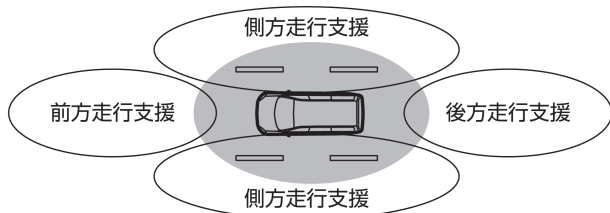
スイッチをタッチすることにより、AUTO⇒OFF⇒ON⇒AUTOの順に切り替わります。



走行支援機能

⚠ 警告

- 走行支援機能は運転者の安全運転を補助するものであり、あらゆる状況での衝突を回避するものではありません。運転者はシステムに頼った運転をせず、周囲の状況に注意して常に安全運転を心がけてください。
- ※重要な警告・注意事項がありますので、ご使用の前には必ず取扱説明書（電子）をお読みください。



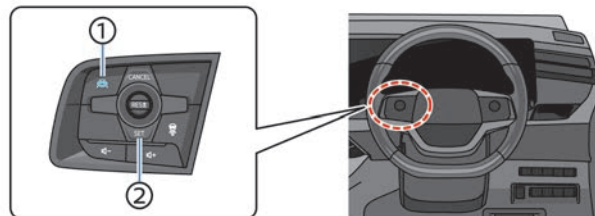
範囲	機能名	機能	支援内容
前方 側方	プロパイロット2.0★ プロパイロット（ナビリンク機能付）★ プロパイロット	前方車両との車間距離を制御し、前方車両停車時は停車してその状態を保持します。また、走行車線内を走行するようにハンドルを自動制御することで運転操作の負担を減らします。	支援

範囲	機能名	機能	支援内容
前方	インテリジェントディスタンスコントロール★	先行車との車間距離や相対速度に応じて減速度を制御し、運転者の車間距離維持操作を支援します。	支援
	インテリジェントエマージェンシーブレーキ	前方の車両や歩行者、自転車と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。	
	衝突回避ステアリングアシスト	前方の障害物に対するステアリングによる回避操作を検出した場合、運転者のハンドル操作を支援します。	
前方 後方	踏み間違い衝突防止アシスト	ブレーキペダルとアクセルペダルの踏み間違いや、ブレーキ操作遅れが起きたときに警報音と表示で警告し、さらに過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。	支援
前方	インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）	前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合に警報します。	情報提供 警報
	標識検知機能	運転者に最高速度標識／はみ出し通行禁止標識／車両進入禁止標識／一時停止標識があることを知らせます。	
	先行車発進お知らせ	先行車が発進しても自車が停止し続けた場合に、音と表示でお知らせする機能です。	

範囲	機能名	機能	支援内容
側方	インテリジェント BSI (後側方衝突防止支援システム)	隣車線に車両がいる時に車線変更を開始した場合、警報とともに車両を元の車線内に戻すよう支援します。	支援
	インテリジェント LI (車線逸脱防止支援システム)	運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、車線内に戻す操作を支援します。	
	BSW (後側方車両検知警報) 降車時警報機能付	車両後部のレーダーセンサーにより、隣車線の車両や降車時の後方からの車両や人が乗車している自転車を検知します。	警報
	LDW (車線逸脱警報)	運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報します。	
	インテリジェント DA (ふらつき警報)	ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したとき、警報音と表示により運転者に休憩を促します。	
後方	RCTA (後退時車両検知警報)	後退時、後方を横切ろうとする車両があるとき、警報します。	警報

プロパイロットの使いかた

1. <プロパイロットスイッチ>①を押します。
●プロパイロットがONになります。
●アドバンスドドライブアシストディスプレイにプロパイロットの状態が表示されます。
2. <SETスイッチ>②を押したときの車速でプロパイロットを開始します。



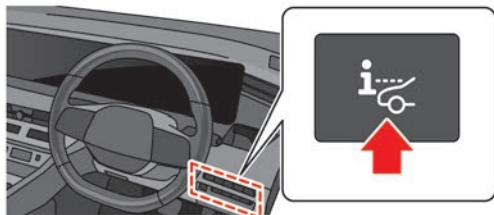
ステアリングスイッチの形状は車両仕様により異なります。

メーターの見かた

ヘッドアップディスプレイ★

ヘッドアップディスプレイは車速、走行支援システム、ナビゲーションなどのルートガイドなど、様々な機能の作動状態をフロントガラスに投影することができます。

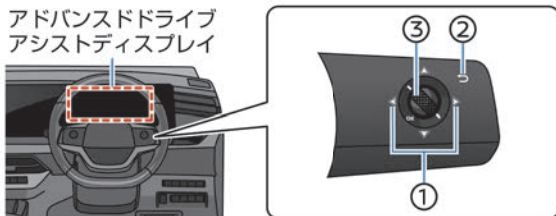
＜ヘッドアップディスプレイスイッチ＞で ON・OFF を切り替えることができます。



アドバンスドドライブアシストディスプレイ

ディスプレイの切り替えかた（メインメニュー）

ステアリングスイッチでメーター内の画面表示が切り替わります。



- ①を押すと「項目」が切り替わります。
 - ②を押すと前のメニューに戻ります。
 - ③を回すと各項目の表示メニューが選択できます。
- ステアリングスイッチの形状は車両仕様により異なります。

メーター警告灯・表示灯・警告メッセージ

警告灯・表示灯

警告灯が点灯または点滅し続けたときは、取扱説明書（電子）の「警告灯がついたときは」を確認のうえ、「説明・対処方法」に従ってください。あわせて、日産販売会社にご相談ください。次の表示は代表例です。

	12V系充電警告灯 ● e-POWERシステムが作動しているとき、12Vバッテリーの充電系統に異常があると点灯します。
	SRSエアバッグ警告灯 ● ＜パワースイッチ＞がONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると点灯します。
	ブレーキ警告灯 ● ＜パワースイッチ＞がON のとき、次の場合は点灯し続けます。 - ー ブレーキ液が不足しているとき - ー ブレーキシステムに異常があるとき
	電動パーキングブレーキ警告灯 ● 電動パーキングブレーキがかかっていると点灯し、電動パーキングブレーキを解除すると消灯します ● ＜パワースイッチ＞がONのとき、電動パーキングブレーキのシステムに異常があると点滅します。
	電制シフト警告灯 ● ＜パワースイッチ＞がONのとき、電制シフトに異常があると点灯します。
	油圧警告灯 ● e-POWERシステムが作動しているとき、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。

メーターの見かた

	シートベルト警告灯 ● <パワースイッチ>がONのとき、シートベルトが装着されていないと点灯します。
	手放し警告灯 ● プロパイロットで車線維持機能（ハンドル支援）を行っているとき、ハンドルを持っていない、またはハンドル操作が検出されないと点灯します。 ● 手放し警告灯が点灯しているにもかかわらず、運転者のハンドル操作が検出されない場合は、警告音とともに手放し警告灯が点滅し、車線維持機能（ハンドル支援）は解除されます。 ● プロパイロットのシステムに異常があると点灯します。
	緊急停止支援システム警告灯（赤色） ● プロパイロットでハンドル支援を行っているとき、手放し警告による警告後も運転者によるハンドル操作が行われていない状態が継続した場合に赤く点滅します。
	マスターウォーニング ● メーターに警告メッセージが表示されると同時に点灯します。
	EPS（電動パワーステアリング）警告灯 ● e-POWERシステムが作動しているとき、電動パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。
	緊急停止支援システム警告灯（黄色） ● 緊急停止支援システムに異常があるときは黄色く点灯します。
	VDC OFF表示灯 ● <パワースイッチ>がONのとき、VDCをOFFにしていると点灯します。

	VDC警告灯 ● <パワースイッチ>がONのとき、VDCが作動すると点滅します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、VDCシステムに異常があると点灯します。
	e-POWERシステム警告灯 ● <パワースイッチ>がONのとき、モーターや高電圧システムなどに異常が発生すると点灯します。
	ABS警告灯 ● <パワースイッチ>がONのとき、ABSのシステムに異常があると点灯します。
	ブレーキシステム警告灯（黄色） ● <パワースイッチ>がONのとき、次の機能に異常があると点灯します。 - ー 電動パーキングブレーキ - ー ブレーキシステム - ー 回生ブレーキ
	リヤフォグランプ表示灯★ ● リヤフォグランプを点灯させると点灯します。
	踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 ● 踏み間違い衝突防止アシストをOFFにしていると点灯します。
	インテリジェントエマージェンシーブレーキ警告灯 ● インテリジェントエマージェンシーブレーキをOFFにしていると点灯します。

	ドライバーモニターシステム警告灯 ● 走行中に運転者が一定時間以上、目を閉じたり顔の向きや視線を前方から大きく外したりするなどして、居眠りや脇見などをしてしているとシステムが判断した場合に黄色く点滅します。 ● ドライバーモニターシステムに異常があるときは黄色く点灯します。
	故障警告灯 (MIL) ● e-POWERシステムが作動しているとき、エンジン電子制御システムに異常があると点灯または点滅します。
	燃料残量警告灯 ● <パワースイッチ>がONのとき、燃料の残量が少ないと黄色に点灯します。
	タイヤ空気圧警告灯 ● タイヤ空気圧警報システムに異常があると、約1分間点滅したあと点灯します。 ● タイヤ空気圧が低下すると点灯します。
	出力制限表示灯 ● <パワースイッチ>がONのとき、リチウムイオンバッテリーの残量が極端に低下していると点灯します。 ● 上り坂の連続走行などで、走行用モーターやリチウムイオンバッテリーなどの温度が極端に高くなると点灯します。
	車両接近通報システム警告灯 ● 車両接近通報装置に異常があると点灯します。
	方向指示表示灯 ● 非常点滅表示灯を作動させると左右同時に点滅します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、方向指示器を作動させると、作動させた側のみ点滅します。

	アダプティブ LED ヘッドライト表示灯 ● アダプティブLEDヘッドライトシステムをONにすると点灯します。
	ヘッドランプ下向き表示灯 ● ヘッドランプのロービーム（下向き）を点灯させると点灯します。
	テールランプ表示灯 ● 車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させると点灯します。
	フォグラмп表示灯 ● フォグランプを点灯させると点灯します。
	オートブレーキホールド表示灯（緑色） ● オートブレーキホールド機能が作動しているとき緑色に点灯します。
	走行可能表示灯 ● 走行できる状態になると点灯します。（走行中も点灯し続けます。） ● e-POWERシステム始動時、走行可能な状態になるまで点滅します。
	ヘッドランプ上向き表示灯 ● ヘッドランプのハイビーム（上向き）を点灯させると点灯します。
	低水温表示灯 ● エンジン冷却水の温度が低いと点灯します。
	オートブレーキホールド表示灯（白色） ● オートブレーキホールド機能が待機状態のとき白色に点灯します。

警告メッセージが表示されたとき

メーター内のディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、取扱説明書（電子）の「警告メッセージが表示されたときは」を確認のうえ、「説明・対処方法」に従ってください。あわせて、日産販売会社にご相談ください。

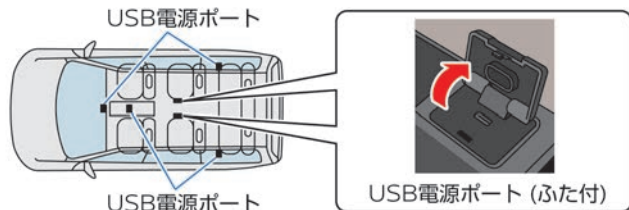
次の表示は代表例です。

画面表示	名称	表示する条件
オーバーヒート 安全な場所に車を止め 取扱説明書を見てください	オーバーヒート警告	● エンジン冷却水の温度が異常に高くなると表示します。
ヘッドランプシステム異常 取扱説明書を見てください	ヘッドランプ警告	● LEDヘッドランプに異常があると表示します。
運転支援機能が作動できません 駐車した際に取扱説明書を見て車両再始動してください 標識検知機能が作動できません 駐車した際に取扱説明書を見て車両再始動してください 一部の衝突防止アシストが作動できません 駐車した際に取扱説明書を見て車両再始動してください	システム故障警告	● プロパイロット、インテリジェントディスタンスコントロール、踏み間違い衝突防止アシスト、BSW（後側方車両検知警報）、インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）、LDW（車線逸脱警報）、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）、RCTA（後退時車両検知警報）標識検知機能が故障すると表示します。
ふらつき警報機能が作動できません 駐車した際に取扱説明書を見て車両再始動してください	インテリジェントDA（ふらつき警報）システム異常警告	● インテリジェントDA（ふらつき警報）に異常があると表示します。
ソナー機能が作動できません 駐車した際に取扱説明書を見て車両再始動してください	ソナーシステム異常警告	● ソナーが故障したときに表示します。
システム保護のため 一時的に出力制限中 安全な場所に車を止め 取扱説明書を見てください	出力制限警告	● 出力制限表示灯 [] が点灯すると同時に表示します。

その他室内装備

USB電源ポート

USB電源ポートでモバイル機器などを充電できます。
インストルメントパネル下部のUSB電源ポートで通信も可能です。

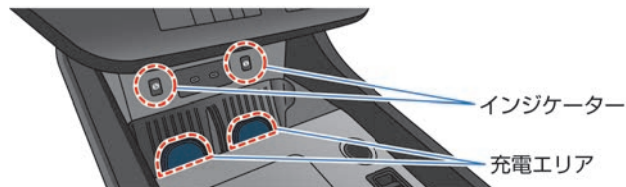


ワイヤレス充電器

ワイヤレス充電器はQi規格、もしくはQi2規格に対応したスマートフォンの充電専用です。

ワイヤレス充電器の使いかた

- ワイヤレス充電器はインストルメントパネル下部にあります。
- スマートフォンを充電エリア内に置くと充電が始まります。（インジケーターがオレンジ色に点灯）
- 充電が完了するとインジケーターが緑色に点灯します。



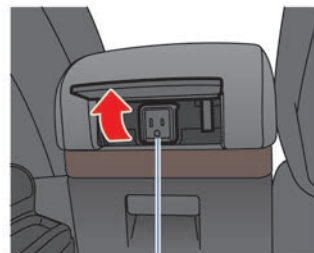
100V AC電源 (1500W) ★

電気製品の電源をとるときに使います。

100V AC電源 (1500W) について

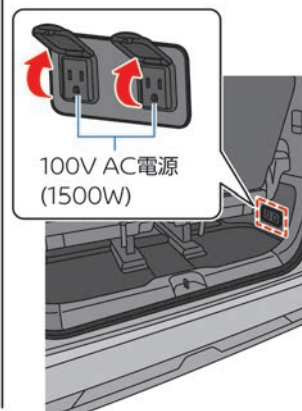
- 電源周波数は50Hzに設定されています。周波数を切り替えたい場合は、日産販売会社にお問い合わせください。

<センターコンソールボックス>



100V AC電源
(1500W)

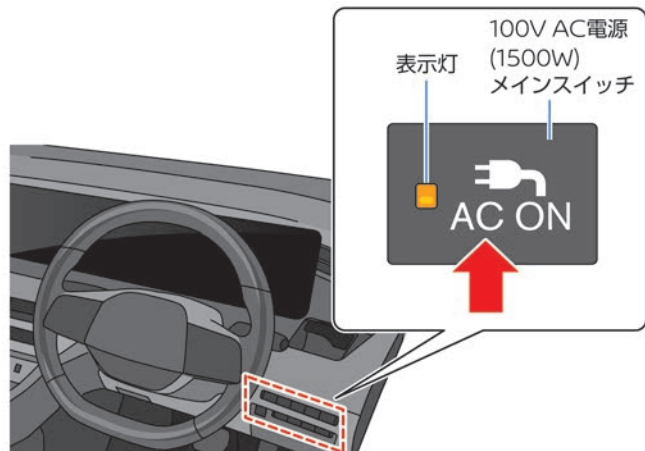
<ラゲッジルーム>



100V AC電源
(1500W)

100V AC電源 (1500W) の使いかた

- 走行可能表示灯 [READY] が点灯しているときに<100V AC電源 (1500W) メインスイッチ>を押すと、100V AC電源 (1500W) を使用できます。（スイッチの表示灯が点灯）

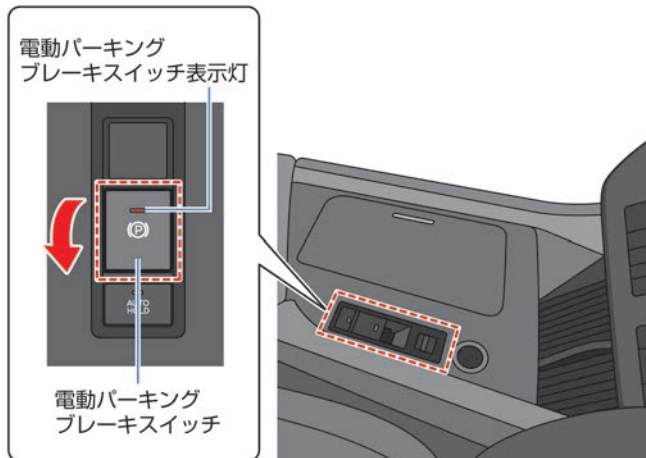


電動パーキングブレーキ

スイッチ操作で、パーキングブレーキをかけることができます。

電動パーキングブレーキの使いかた

- ブレーキペダルをしっかりと踏んでスイッチを操作します。
- 作動させるとき：スイッチを引きます。
電動パーキングブレーキスイッチ表示灯：点灯
電動パーキングブレーキ警告灯：一定時間後に点灯
- 解除するとき：スイッチを押します。
電動パーキングブレーキスイッチ表示灯：消灯
電動パーキングブレーキ警告灯：消灯



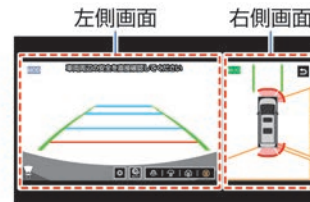
自動解除のしかた

電動パーキングブレーキがかかっている状態でシフトポジションを**D**、**B**または**R**にし、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

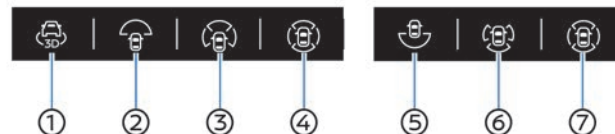
パーキングブレーキが解除され、電動パーキングブレーキ警告灯が消灯します。

インテリジェントアラウンドビューモニター

- インテリジェントアラウンドビューモニターは自車位置周辺の状況を映し出すことにより、駐車スペースへの駐車時や縦列駐車時に運転者を補助します。
<パワースイッチ>がONのときに、<CAMERA>スイッチを押すか、シフトポジションを**R**にすると表示します。



- 画面下部にあるアイコンをタッチすると、画面を切り替えられます。



- ① 3Dビュー
- ② フロントワイドビュー
- ③ フロントビュー／サイドブラインドビュー
- ④ トップビュー／フロントビュー
- ⑤ リヤワイドビュー※
- ⑥ リヤビュー／サイドブラインドビュー※

駐車する／給油する

⑦ トップビュー／リヤビュー※

※：シフトポジションをRにしたときに表示します。

プロパイロット パーキング★

プロパイロットパーキングは、車庫入れや縦列駐車時の運転操作を支援するシステムです。

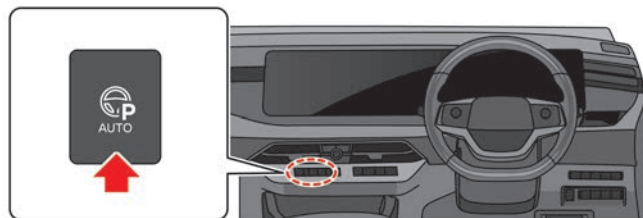
プロパイロットパーキングは2つの機能があります。

駐車枠線検出機能

- 車線枠がある駐車位置、もしくは縦列駐車スペースへの駐車操作を支援します。

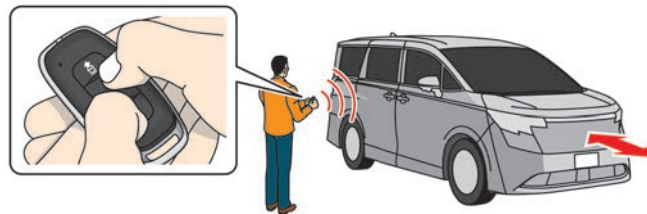
メモリー機能

- 事前に登録した駐車位置への後退駐車のを支援します。
- 車線枠がない場所でも使用できます。



プロパイロット リモート パーキング★

プロパイロットリモートパーキングは、車外からプロパイロットリモートパーキング用インテリジェントキーのスイッチを操作して、車両を前進または後退させ駐車操作を支援します。

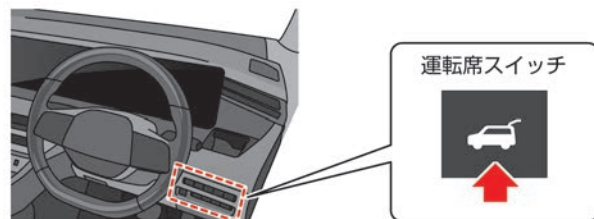


リモコンオートバックドア

リモコンオートバックドアは、バックドアを自動（電動）開閉することができます。

リモコンオートバックドア運転席スイッチ

<運転席スイッチ>を約1秒間押すことでバックドアを自動（電動）で開閉することができます。



リモコンオートバックドア開閉スイッチ（自動開閉）

ドアを解錠してからリモコンスイッチのボタンを約1秒間押すとバックドアを自動（電動）で開閉することができます。

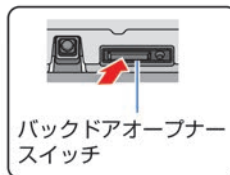
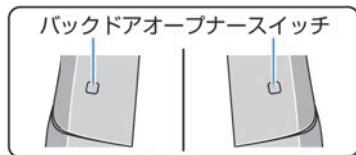


リモコンオートバックドア
開閉スイッチ

インテリジェントキーの形状は車両仕様により異なります。

バックドアオープナースイッチ（自動開）

インテリジェントキーを携帯してスイッチを押すと自動（電動）でバックドアが開きます。



バックドアインナースイッチ、オートクローズ&ロックスイッチ（自動閉）

＜バックドアインナースイッチ＞を押すと自動（電動）でバックドアが閉まります。

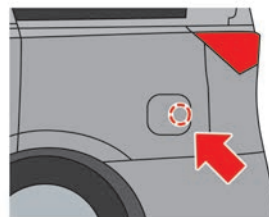
＜オートクローズ&ロックスイッチ＞を押して車両から離れると、バックドアが自動で全閉し、全ドアが施錠されます。



給油口

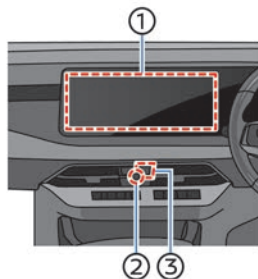
ドア解錠時にリッドの車両後方側中央部あたり（イラストの点線部分）を押すとリッドが少し開きます。

給油口にキャップはありません。給油ノズルを直接差し込むだけで給油することができます。



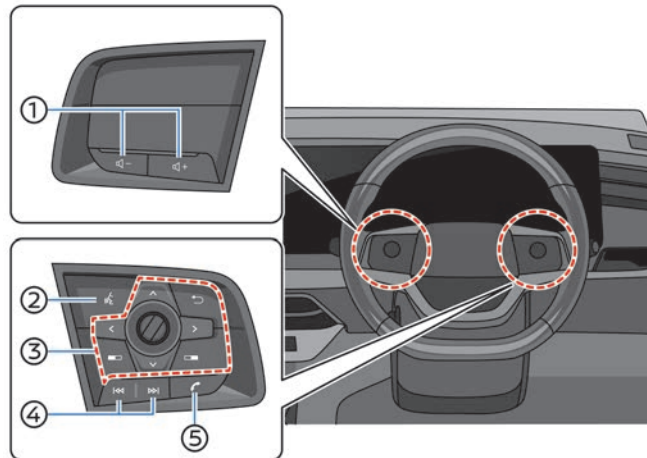
各部の名称と機能

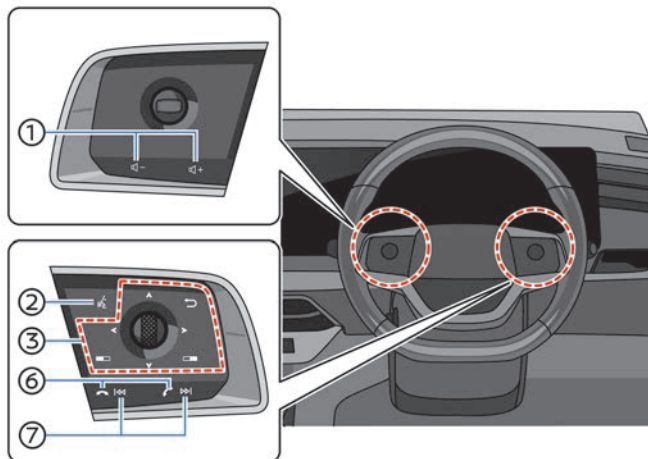
タッチパネル周辺の名称と機能



- ① タッチパネル（センターディスプレイ）
画面タッチでさまざまな機能の操作や設定をします。
- ② < 電源 > ダイアル
押すごとにオーディオをON・OFFします。回すと音量を調節します。
オーディオがOFFのときに回すとONになります。
- ③ < CAMERA > スイッチ
カメラの画面を表示します。

ステアリングスイッチの名称と機能



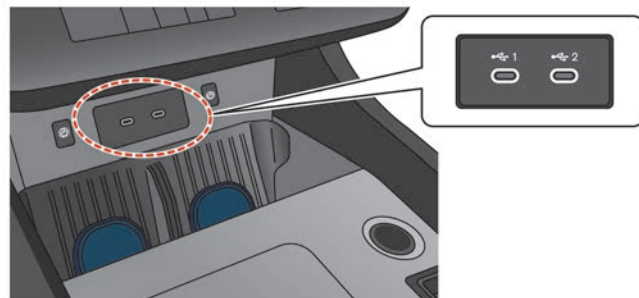


- ① < 音量 >スイッチ
音量を調節します。
- ② < 電源 >スイッチ
Google アシスタント★を起動します。
Apple CarPlayまたはAndroid Auto™操作時に長押しすると音声で操作ができます。
- ③ メニュー操作スイッチ★
NissanConnectインフォテインメントシステムまたはアドバンスドドライブアシストディスプレイのメニュー操作をします。
- ④ < 左 > / < 右 > スイッチ★
放送局の選局や音楽の選曲ができます。
- ⑤ < 通話 > スイッチ★
着信時に応答したり通話を終了したりします。
- ⑥ < 通話 / 音楽 > スイッチ★
着信中または通話中にのみ表示されます。着信時に応答したり通話を終了したりします。

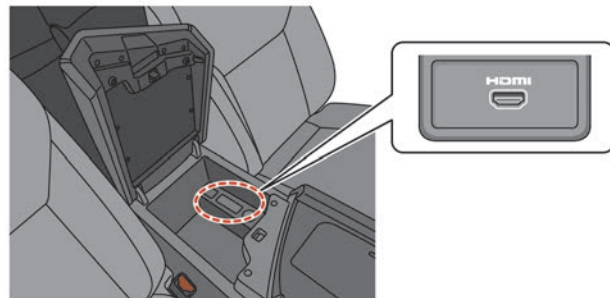
- ⑦ < 戻る / 進む > スイッチ★
オーディオがONになっているときにのみ表示されます。着信中または通話中には表示されません。
放送局の選局や音楽の選曲ができます。

外部機器入力について

- インストルメントパネル下部にUSB電源ポートがあります。USBメモリやiPhone、Android™スマートフォンなどを接続できます。



- HDMI端子★は、センターコンソール内にあります。外部機器を接続して映像や音声を視聴できます。



機器接続（Bluetooth®対応機器の接続）

Bluetooth®対応機器の初期登録外部機器入力について



Bluetooth®対応の携帯電話を使ってハンズフリーフォンとして使用したり、Bluetooth®対応のオーディオ機器を使ってBluetooth®オーディオとして使用したりすることができます。

ランチャーメニューの [] → [] → [機器接続] → [登録機器] → [登録] をタッチし、Bluetooth®対応機器のBluetooth®設定でデバイス検索し、[MY_CAR] を選択することで、Bluetooth®対応機器を登録します。

Bluetooth®対応機器の機種によって、パスキー入力が必要です。
※Bluetooth®対応機器の操作手順は、各社取扱説明書をご覧ください。

Google アプリおよびサービスについて

Google 搭載のNissanConnectインフォテインメントシステムでは、Google アプリおよびサービスをご利用いただけます。一部の機能については、インターネット接続やGoogle アカウントへのログインが必要です。

アプリ	機能
Google マップ	運転ルートの案内や近くの施設の検索などのナビゲーション機能が使え、最新の道路状況や地図が表示されます。
Google アシスタント	「OK Google」と話しかけるだけで、音楽再生、目的地設定、電話発信など、さまざまな機能を音声で操作できます。
Google Play	さまざまなアプリをダウンロードして使用することができ、音楽アプリなどのコンテンツを車内でお楽しみいただけます。

※Google 搭載の各機能名称および内容は予告なく変更となる場合があります。

Google アプリおよびサービスの利用にあたって必要なこと

Google アプリおよびサービスのご利用には、Google アカウントとインターネット接続が必要です。

Google アカウント

Google アカウントの作成は、以下のWEBサイトを参照してください。

<https://www.google.com/intl/ja/account/about/>



Google、Android、Google Play、Google マップはGoogle LLCの商標です。

インターネット接続

インターネット接続に関しては以下の2つの方法がございます。

1. お手持ちの携帯電話等のWi-Fi通信機器でインターネット接続する



ランチャーメニューの [設定] → [機器接続] → [Wi-Fi] → [Wi-Fi] をタッチしてONにし、Wi-Fiネットワークを選択します。パスワードを入力することで、Wi-Fi機器を登録します。

※Wi-Fi機器の操作手順は各社取扱説明書をご覧ください。

2. **NissanConnect サービスに加入しインターネット接続する**

NissanConnect サービスにご加入いただければ、外部のWi-Fi機器でインターネット接続せずにGoogle アプリおよびサービスのご利用やGoogle Play でのアプリのダウンロードが可能です。*

【NissanConnect サービスとは】

車両搭載の通信機を利用して、快適で安心、便利な様々なサービスを提供しています。

例えば、遠く離れている場所からスマホのアプリでエアコンを作動させることができたり、車の鍵の閉め忘れがチェックでき、開いていたらリモート操作でロックができたりします。

詳細については、次のWEBサイトを参照してください。

<https://www3.nissan.co.jp/connect.html>



* : Google Play でアプリをダウンロードするには、Google アカウントにログインする必要があります。Google Play でダウンロードしたアプリのご利用には、NissanConnect サービス+docomo in Car Connect®へのご加入（有料）またはスマートフォンやポケットWi-Fiなどのテザリングによるデータ通信環境が必要となります。

初期設定手順

- 初期設定を行う場合、車両を安全な場所に駐車してください。
- 初期設定手順は、以下のWEBサイトの動画でご確認いただけます。
https://www.nissan.co.jp/CATALOG/QR/CONNECT/OM/mo v_gas_setting.html



1. <パワースイッチ>をONします。
2. ランチャーメニューの [設定] をタッチする。
3. 画面をスワイプして [ユーザー切替] をタッチする。
4. ユーザー画面上部の [設定] をタッチする。

NissanConnectインフォテインメントシステム

5. プロファイルをタッチする。
6. ユーザープロフィール画面の「プロフィール設定」をタッチする。
7. 言語を選択し、「開始」をタッチする。
8. Wi-Fiに接続するため、ネットワーク名を選び、パスワードを入力した後、「接続」をタッチする。
ただし、NissanConnect サービスにご加入いただいている場合、表示されません。
9. プロフィール名を入力し、「次へ」をタッチする。
10. プロフィールをカスタマイズする画面が表示されるので、各項目を設定する。
11. 「設定完了」をタッチすると、完了します。

上記の初期設定手順は、WEBサイトの動画でもご確認くださいませ。

https://www.nissan.co.jp/CATALOG/QR/CONNECT/OM/mov_gas_setting.html

※初期設定の手順は予告なく変更される場合があります。

プロフィールのカスタマイズ項目

カスタマイズ項目	操作手順
NissanConnect サービス	メールアドレス (NISSAN ID) とパスワードを入力しログインする。
アシスタントとアプリの設定	● Google アカウントと連携させるため、画面表示の二次元コードを携帯電話のカメラで読み取り、携帯電話の表示に従い、Google にログインしてください。 ● あるいは、画面の「別の方法」をタッチし、Google アカウントのIDとパスワードを入力しログインしてください。

カスタマイズ項目	操作手順
スマートフォンをBluetooth®で接続	● Bluetooth®接続をオンにした機器のデバイス名を選択してください。 ● 「ペア設定する」をタッチすると、Bluetooth®機器にもBluetooth®ペア設定コードが表示されるため、同じであることを確認し、ペアリングを許可し接続する。
プロフィールのロック	パターンコード、PINコード、パスワード、プロフィールロックを使用しないの4種類の設定ができます。画面の指示に従い設定します。

※Wi-Fi設定を含め各項目はスキップできます。後から設定する手順は、NissanConnectインフォテインメントシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」をご確認ください。

Google アプリおよびサービスに関するお問い合わせ

Google アプリおよびサービスに関するお問い合わせは、次のWEBサイトを参照してください。

<https://support.google.com/built-in/#topic=9858252>



安全に車を使用するための注意事項

正しい運転姿勢に調節する	P.40
正しいシートベルトの着用	P.40
SRSエアバッグの効果を最大限発揮する	P.41
お子さまを乗せるときは	P.42
電波が心臓ペースメーカー等に及ぼす影響	P.42
車両に積んではいけないもの、積むときの注意	P.43
不正改造の影響、電装品装着の注意	P.43
フロアカーペットの正しい装着	P.44

運転時の注意事項

天候（雨、雪）や路面状況に応じた運転	P.45
緊急時の車両停止方法	P.46
運転支援機能の使用上の注意	P.46

安全に車を使用するための注意事項

正しい運転姿勢に調節する



走行前にシート、ハンドル、ヘッドレストの位置を正しい運転姿勢がとれるように調節し、ドアミラー、ルームミラーなどを後方視界が十分確認できる位置に調節してください。

正しいシートベルトの着用

走行前に必ず次のことを守り、シートベルトを正しく着用してください。



妊娠中のシートベルトの着用に関する注意

- 妊娠中や疾患のある方も医師に注意事項を確認の上、万一のときのためにシートベルトを着用してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避け腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。

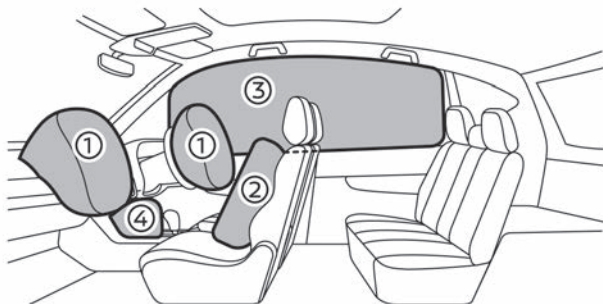
安全に車を使用するための注意事項

SRSエアバッグの効果を最大限発揮する

SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、乗員への衝撃を緩和します。シートベルトと併用することで安全性を高めるため、シートベルトは必ず着用してください。

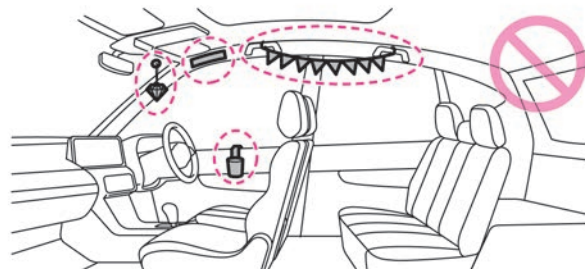
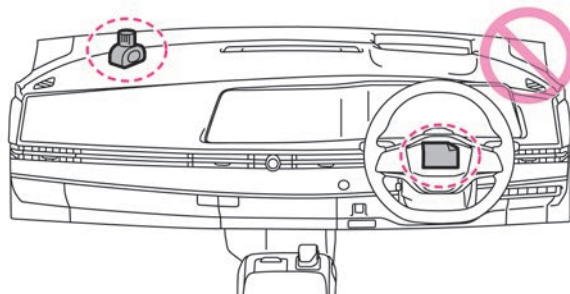
SRSエアバッグの種類

- ① SRSエアバッグ（前席）
- ② SRSサイドエアバッグ（前席）
- ③ SRSカーテンエアバッグ
- ④ SRSニーエアバッグ（運転席）



※エアバッグの適用は車種、仕様により異なります。

SRSエアバッグの注意事項



次のSRSエアバッグ格納部付近に何かを付けたり、置いたり、かけたりしないでください。SRSエアバッグ作動時に正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

- ハンドルのパッド部
- 助手席ダッシュボード上部
- フロントガラス
- ドアガラス
- ドア
- フロントピラーおよびリヤピラー
- ルーフサイドレール
- アシストグリップ

安全に車を使用するための注意事項

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは次のことを必ずお守りください。思わぬ事故や重大な傷害を受けるおそれがあります。



- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
- シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用してください。
- チャイルドシートは後席シートに取り付けることを推奨します。
- お子様が操作できないように、チャイルドセーフティドアロックやパワーウインドーロックスイッチを使用してください。
- 車から離れるときは、必ずお子さまと一緒に降ろしてください。炎天下では車内が高温になり、生命にかかわるおそれがあります。

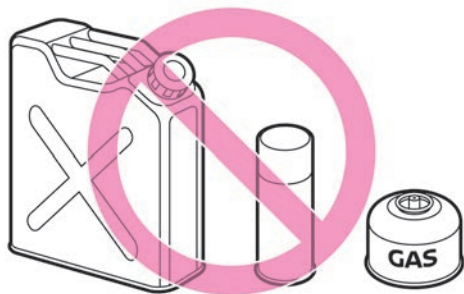
電波が心臓ペースメーカー等に及ぼす影響

インテリジェントキーについて

- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけないでください。
ドアおよびバックドア開閉時、ドアにあるスイッチ操作時、電気自動車やe-POWERシステム、またはエンジン始動時などに発生するキーの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用してください。
キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。
- アンテナの位置は取扱説明書（電子）をご確認ください。

安全に車を使用するための注意事項

車両に積んではいけないもの、積むときの注意



燃料が入った容器やスプレー缶などを積まない

- ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まないでください。
引火や爆発するおそれがあり危険です。

火気には十分注意する

- 操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れない。また、床やシートのすき間に落としたままにしないでください。

荷物を積みすぎない

- 助手席や後席に荷物を重ねて積まないでください。急ブレーキなどのとき荷物が落ちてきて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

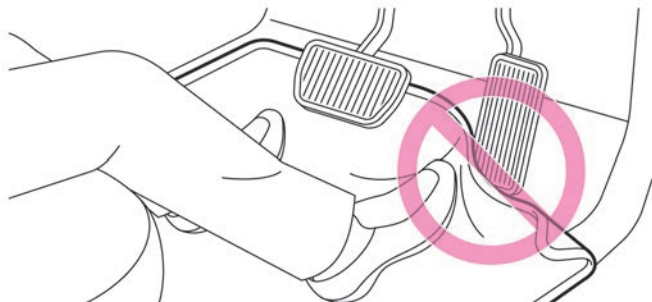
不正改造の影響、電装品装着の注意



日産純正部品以外の車両の性能や機能に適さない部品を使用しないでください

- 正常な性能を発揮できないだけでなく、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 電装品などを取り付けるときは、必ず日産販売会社にご相談ください。不適切な取り付けや誤った配線は、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロアカーペットの正しい装着



運転席にフロアカーペットを敷くときは、次のことを守ってください

- 日産純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアカーペットは使用しないでください。
- フロアマットをすべての固定フック（クリップ）で、正しい位置にしっかりと固定してください。
- 運転する前、電源ポジションがOFFの状態でごペダルをいっばいに踏み込み、フロアカーペットと干渉しないことを確認してください。

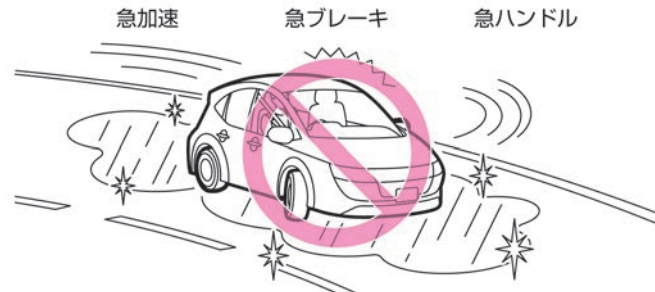
天候（雨、雪）や路面状況に応じた運転

雨天時の走行



- 路面がぬれると滑りやすくなります。通常より注意して安全運転を心がけてください。
- わだちなどにできた水たまりに高速で進入すると、タイヤが水に乗った状態（ハイドロプレーニング現象）になり、ハンドルやブレーキが効かなくなり危険です。スピードを落として走行してください。特に摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象が起こりやすいので注意してください。
- 冠水路など深い水たまりは走行しないでください。エンジン破損や車両事故につながるおそれがあります。

雪道の走行



滑りやすい路面の走りかた

- 滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離をとり、ゆとりある運転をしてください。
- 雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。

走行中の雪の付着に注意

- ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効が悪くなることがあります。ときどきブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、低速走行でブレーキを軽く踏み、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。
- フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき確認して雪を取り除いてください。

運転時の注意事項

緊急時の車両停止方法

緊急の場合以外は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止すると、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。

非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行う。

非常停止後は、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

ガソリンエンジン車

緊急時など、走行中に強制的にエンジンを停止させるときは、次の操作を行ってください。

- <エンジンスイッチ>を2秒以上押し続ける。

e-Power車、EV車

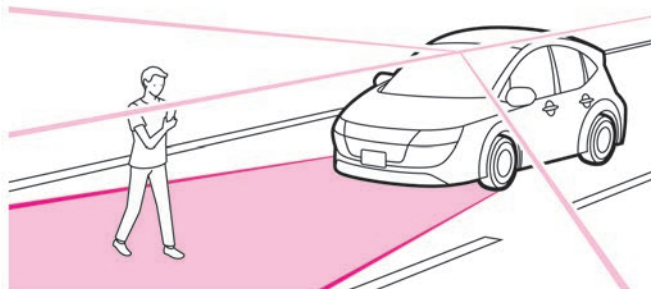
緊急時など、走行中に強制的にEVシステム、またはe-Powerシステムを停止（<パワースイッチ>OFF）させるときは、次の操作を行ってください。

- <パワースイッチ>を2秒以上押し続ける。

運転支援機能の使用上の注意

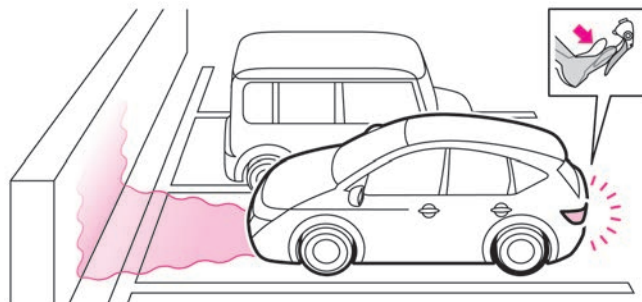
運転支援機能は、自動で運転する装置ではありません。運転者は交通法規を遵守し、常に周囲に注意し、道路・交通・自車の状況に応じハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを確実に操作し、安全な運転を行う責任があります。性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。

インテリジェント エマージェンシーブレーキについて



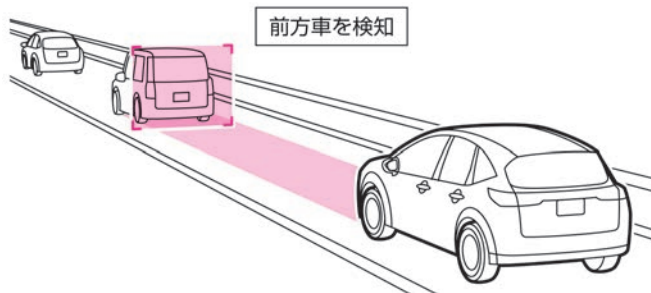
- インテリジェント エマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突回避操作を支援、または衝突時の被害や傷害の軽減を目的としています。あらゆる状況で効果があるわけではありません。必ず周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を十分に維持してください。
- 次のような障害物は検知しません。
 - 子供などの背の低い人、動物
 - 対向車両
 - 道路構造物（ガードレール、ポールなど車両と歩行者、人が乗車している自転車以外の障害物）
- システムは車両の後端を認識するため、次の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。
 - バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
 - 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
 - 前方を横切って通過する車両
 - 斜めもしくは前向きに止まっている車両

踏み間違い衝突防止アシスト機能について



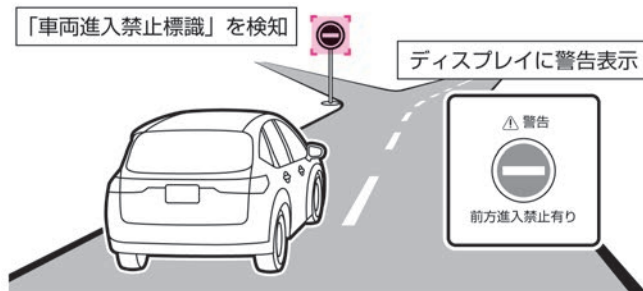
- 踏み間違い衝突防止アシストは、アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違いにより引き起こされる暴走や衝突事故の軽減を目的とした補助機能です。あらゆる状況で効果があるわけではありません。運転者は周囲の安全確認を行い、常に注意深い運転操作を心がけて走行してください。

プロパイロットについて



- プロパイロットは自動で運転する装置ではありません。また、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。
 - プロパイロットは高速道路や自動車専用道路の直線や緩やかなカーブでの使用を想定して設計されています。
 - プロパイロットは同一方向に走行する車両を検出し、車間距離を保つようアクセル、ブレーキを制御します。
 - プロパイロットは車線中央付近を走行するようにステアリングを制御します。側方から車両が近づいてきても反応しません。
 - プロパイロットの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。
 - プロパイロットを解除せずに降車しないでください。
- ※プロパイロットの適用は車種、仕様により異なります。

標識検知機能について



- 走行中は必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。標識検知機能は、運転者の安全運転をサポートする機能です。標識検知機能には限界があり、状況によっては標識を検知できなかったり、実際とは異なる標識を表示したりする場合があります。
- マルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。
- 標識の近傍にある補助標識は検知しないため、実際の規制内容と異なる表示をする場合があります。必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。

まずはじめに

故障したときは	P.50
発炎筒	P.51
けん引について	P.52

緊急時の対処法

パンクしたときは	P.53
ドアが開かないときは	P.57
e-POWERシステムを始動できないときは	P.57
12Vバッテリーがあがったときは	P.58
出力制限表示灯が点灯したときは	P.60
ブザー（警報音）が鳴ったときは	P.62
窓ガラスがくもったときは	P.63
オーバーヒートしたときは	P.63
雪道やぬかるみにはまったときは	P.64
水没したときは	P.65
外装ランプが点灯しないときは	P.65
ヒューズが切れたときは	P.66

まずはじめに

故障したときは

車両が故障したときは、次の手順で対処してください。

故障したときの対処のしかた

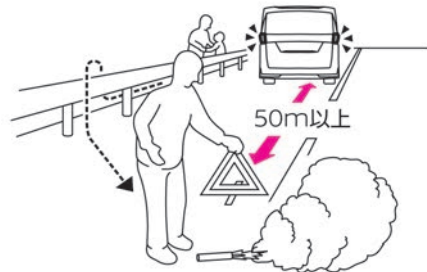
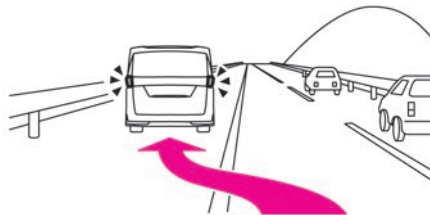
⚠ 警告

- 発炎筒はトンネル内では使用しない。煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり、事故につながるおそれがあります。非常点滅表示灯を使ってください。

⚠ 注意

- 走行中にメーター内の走行可能表示灯〔READY〕が消灯したときは、慎重に運転する。
故障により走行可能表示灯〔READY〕が消灯すると、ブレーキやパワーステアリングが正しく機能せず、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルの操作力が重くなったりすることがあります。すみやかに安全な場所に停車してください。

1. 非常点滅表示灯で後続車に危険を知らせながら、できるだけ路肩に寄せて停車します。
路肩がない場所では、可能な限り広いところまで自走します。

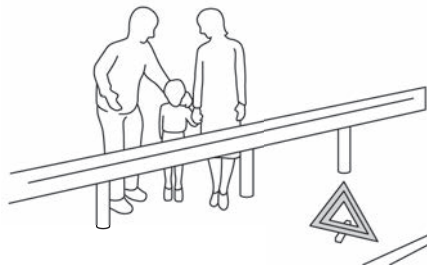


2. 同乗者をガードレールの外側などに避難させ、車両の50m以上後方に発炎筒と停止表示板（停止表示灯）を置きます。



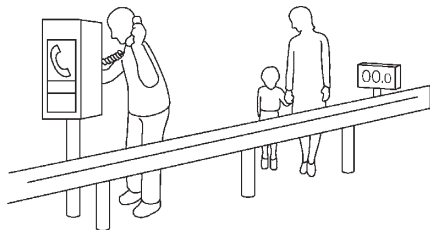
WEB
避難するときは、停止車両への追突事故が発生したときに巻き込まれないよう注意してください。

3. 運転者もガードレールの外側などに避難します。



4. 非常電話や携帯電話などで救援依頼をします。

まずはじめに



アドバイス

- 高速道路や自動車専用道路では、停止表示板（停止表示灯）の表示が法律で義務付けられています。
- 高速道路上では1kmごとに非常電話が設置されています。

発炎筒

高速道路や踏み切りなどで故障・事故により緊急停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。

発炎時間は約5分です。非常点滅表示灯と併用してください。

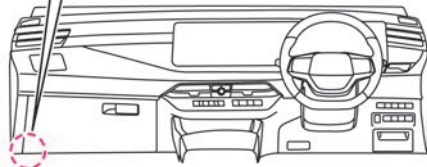
発炎筒の使いかた

警告

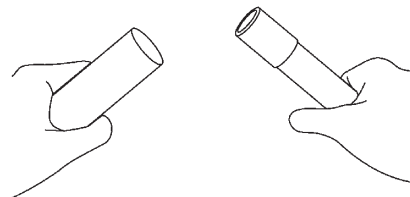
- お子さまには触らせない。
いたずらなどで発火するおそれがあり危険です。

- 可燃物の近くで使用しない。
引火するおそれがあります。
- 点火は必ず車外で行い、点火後は顔や身体に近づけない。
やけどをするおそれがあります。

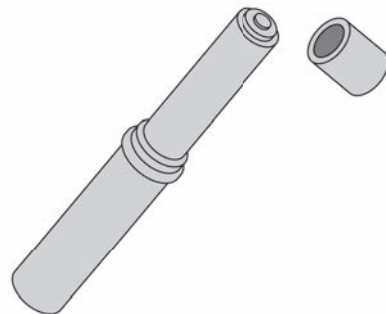
1. 助手席足元部のホルダーから発炎筒を外します。



2. 本体を回しながらケースから引き抜き、本体を逆さにして差し込みます。



3. 先端のふたを取り、ケースのすり薬で発炎筒の先端をこすって着火します。



アドバイス

- 発炎筒に記載してある使用方法、注意をあらかじめ確認しておいてください。

まずはじめに

- 発炎筒には有効期限があります。期限が切れる前に日産販売会社でお買い求めください。

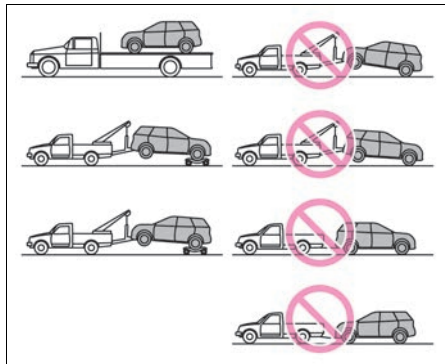
けん引について

けん引が必要なときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。

この車両は、けん引フックを用いたけん引をすることはできません。また、他車をけん引することもできません。

けん引時の注意事項

- 車両が動かなかったり、異常な音がしたりするときは、けん引せずに日産販売会社へご連絡ください。
- 車両を運搬するときは、4輪を持ち上げてけん引してください。

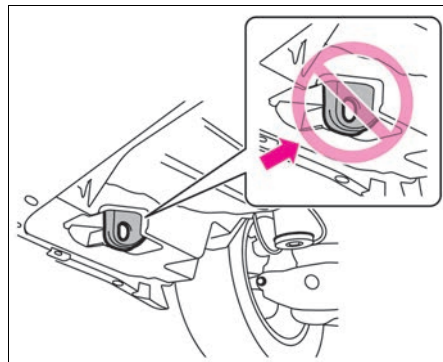
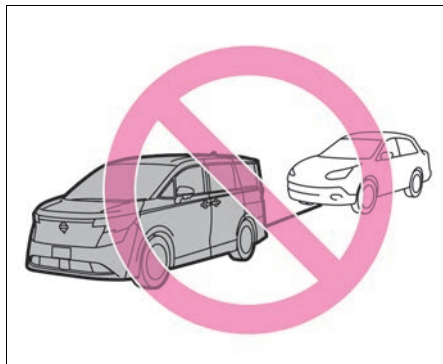


🚗 アドバイス

- この車両はタイヤを接地した状態でけん引することはできません。けん引が必要なときは、4輪を持ち上げてけん引してください。けん引時に駆動輪が接地していると、走行用モーターが発電し、車両を破損するおそれがあります。

リヤフックについて

- 後ろ側についているフック（リヤフック）は船舶輸送時の固定専用です。けん引やトレーラー輸送時などの固定には絶対使用しないでください。
- リヤフックにグロメットが付いている場合は、取り外さないでください。



🚗 アドバイス

- けん引用として使うと、車両を損傷するおそれがあります。

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤが標準で搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤ応急修理キットで応急修理ができます。

応急修理する前に

- タイヤ応急修理キットの修理剤を使用したタイヤは、新しいタイヤに交換されることをおすすめします。タイヤの交換については日産販売会社または専門の修理業者と相談し、損傷が激しい場合は交換、修理可能と判断された場合は修理を実施してください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できますが、タイヤのバルブは新しいものと取り替えてください。
- 修理剤とホースは再使用できません。使用後は新しい修理剤とホースをお求めください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

応急修理を行うときは、次の準備をしてください。

- 地面が固く平らな場所に車両を移動する。
- パーキングブレーキをかける。
- シフトポジションをPにする。
- <パワースイッチ>をOFFにする。
- 非常点滅表示灯を点滅させる。
- 次の場合はタイヤ応急修理キットでは応急修理ができません。日産販売会社またはJAFなどにご連絡ください。
 - 約6mm以上の切り傷や刺し傷があるとき

- タイヤサイド部が損傷を受けたとき
- ほとんど空気の抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき
- タイヤが2本以上パンクしているとき
- 修理剤の有効期限が切れているとき

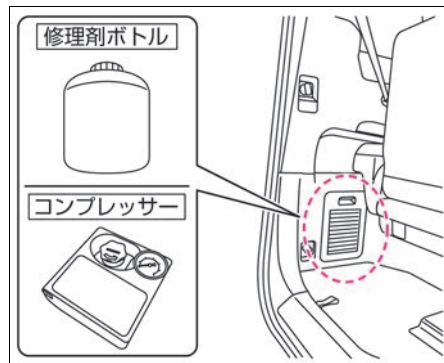
🚗 アドバイス

- タイヤに釘やネジが刺さっている場合は、抜いてしまうとパンク穴が大きくなり空気が漏れやすくなるため、抜かずにタイヤ応急修理キットで応急修理してください。

タイヤ応急修理キットについて

※車種により、タイヤ応急修理キットの内容や部品形状が異なります。

- タイヤトレッド部（接地面）の軽度なパンクは、タイヤ応急修理キットで応急修理できます。
- タイヤ応急修理キットは、ラゲッジルーム内の助手席側に格納されています。
➡ WEB
- 応急修理を目的としているため、修理後に長期間の走行はできません。修理後はすみやかに日産販売会社または専門の修理業者で点検、恒久修理またはタイヤ交換を行ってください。



応急修理のしかた

⚠ 注意

- ハンドルのセンターパッド部には速度制限シールを貼らない。
SRSエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置にも貼らないでください。
- ホースとタイヤのバルブの接続をしっかり行う。
接続が不十分な場合、空気が漏れたり、修理剤が飛び散ったりするおそれがあります。
- 破裂の危険があるので応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れる。
- タイヤに亀裂や変形が生じている場合、ただちにコンプレッサーのスイッチをOFF（「○」の位置）にし、修理を中止する。

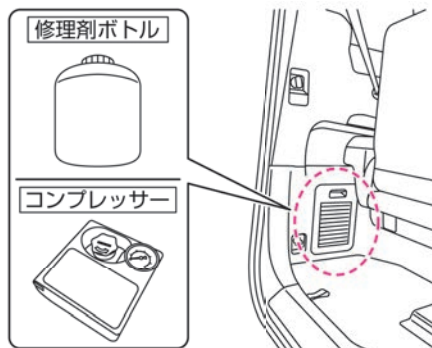
緊急時の対処法

バルブを介して修理剤を注入するため、圧力が600kPaに達することがありますが、異常ではありません。通常は、30秒ほど下がります。

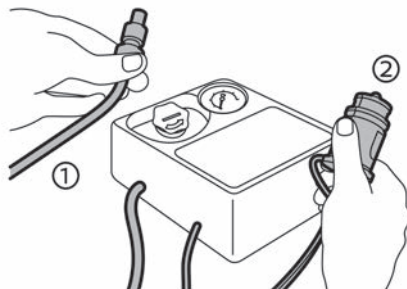
- 空気を入れたあとは、ホースの口金が発熱することがあるため、やけどしないように注意する。

■ コンプレッサーの準備

1. ラゲッジルームからタイヤ応急修理キットを取り出します。



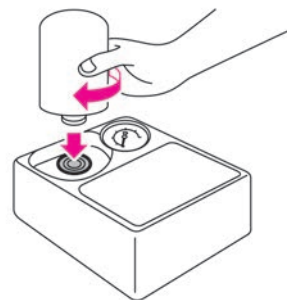
2. コンプレッサーからホース①、電源プラグ②を取り出します。



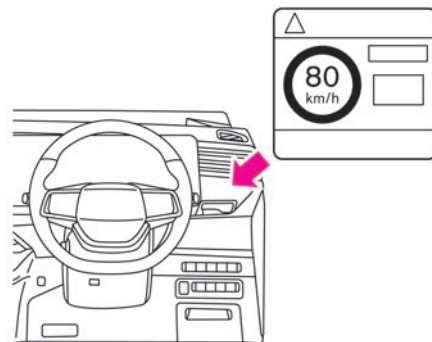
3. コンプレッサーから、ボトルホルダーのキャップを外します。



4. 修理剤ボトルのキャップを外し、内ぶたを付けたままボトルホルダーに取り付けます。
(ボトルホルダーにねじ込むと内ぶたが破れます。)



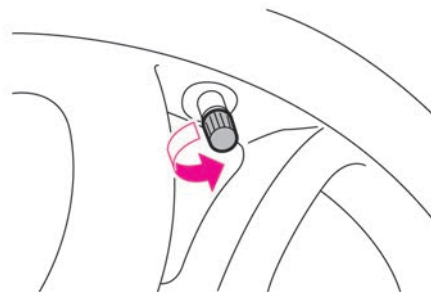
5. コンプレッサーの速度制限シールをはがし、運転者のよく見えるところに貼ります。



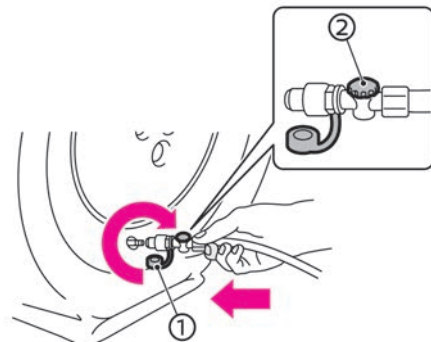
■ エアの注入

1. パンクしたタイヤのバルブからキャップを外します。

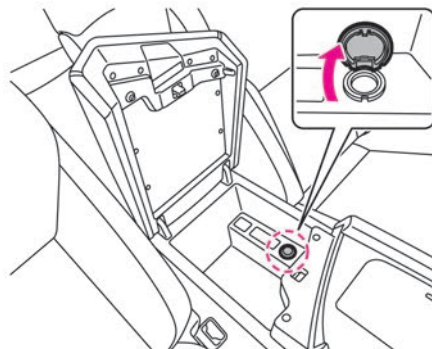
緊急時の対処法



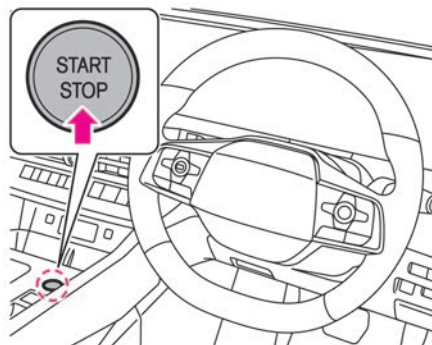
2. ホース先端の保護キャップ①を外し、ホースをパンクしたタイヤのバルブに確実にねじ込みます。
このとき、排気バルブ②が閉まっていることを確認してください。



3. コンプレッサーのスイッチがOFF（「O」の位置）の状態、電源プラグを車室内の電源ソケットに差し込みます。



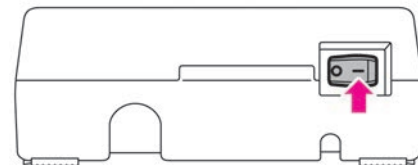
4. <パワースイッチ>をONにします。



5. コンプレッサーのスイッチをON（「I」の位置）にし、タイヤを指定空気圧または180kPa以上になるまで空気を充てんします。この際、実際の空気圧が測れるようにコンプ

レッサーを一時停止して空気圧計で測定してください。

※タイヤの指定空気圧は、運転席ドア開口部に表示されています。



6. 指定空気圧または180kPa以上まで昇圧できたら、コンプレッサーのスイッチをOFF（「O」の位置）にし電源プラグを電源ソケットから抜きます。
7. ホースをタイヤのバルブからすばやく取り外し、タイヤのバルブにキャップを取り付けます。

🚗 アドバイス

- コンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、10分以上連続して作動させないでください。タイヤ空気圧を昇圧できない場合は修理できません。
- 修理剤ボトルは、コンプレッサーのボトルホルダーから取り外さないでくだ

緊急時の対処法

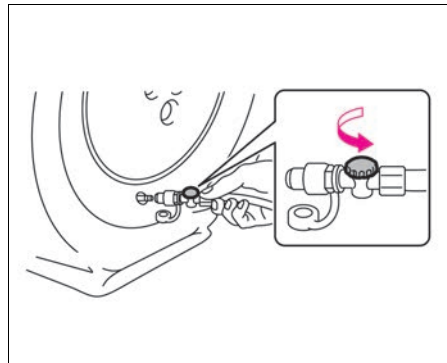
さい。取り外すとボトル内に残った液剤がこぼれるおそれがあります。

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合は、タイヤがひどい損傷を受けているおそれがあります。この場合は、本修理キットで応急修理をすることはできません。日産販売会社またはJAFなどに連絡してください。

空気を入れすぎてしまったとき

排気バルブを反時計回りに回して、空気を抜いてください。



■ 点検走行

⚠ 注意

- 走行するときは、低速で慎重に運転し、特にカーブや旋回時には注意する。

1. ただちに走行を始め、10分間または3km程度走行してください。80km/h以下の速度で注意深く運転してください。
2. 走行後、再度タイヤ空気圧を測定します。コンプレッサーのスイッチがOFF（「○」の位置）であることを確認します。コンプレッサーからのホースをタイヤのバルブに取り付け、タイヤ空気圧を確認してください。

アドバイス

- 応急修理後の恒久修理の際、パンク穴を発見できないために恒久修理できないことがあります。そのまま走行を続ける場合は、こまめに空気圧をチェックしてください。頻繁に空気圧の低下がみられるときは、日産販売会社または修理会社で点検を受けてください。
- 修理剤は再使用できません。使用後は新しい修理剤をお求めください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

130kPa未満の場合

本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

130kPa以上指定空気圧未満の場合

コンプレッサーのスイッチをON（「|」の位置）にして指定空気圧まで昇圧し、点検走行の作業を行います。上記作業を繰り返しても指定空気圧より低下する場合は、本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

指定空気圧の場合

応急修理は完了です。すみやかに日産販売会社または専門の修理業者まで慎重に運転してください。

タイヤ応急修理キットの注意事項

⚠ 注意

タイヤ応急修理キットについて

- タイヤ応急修理キットは搭載車両専用のため、他の車には使用しない。
- タイヤ応急修理キットは自動車用タイヤの空気充てんや空気圧チェック以外で使用しない。
- タイヤ応急修理キットはDC12V専用のため、他の電源での使用はしない。
- 分解、改造などは絶対にしない。
- コンプレッサーに衝撃を与えない。故障の原因となります。
- お子さまが誤って手を触れないように注意する。

修理剤について

- 修理剤を口に入れない。
修理剤を飲み込むと健康に害があります。万一誤って飲んだ場合は、できるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診療を受けてください。
- 万一、目や皮膚に付着したときは、水でよく洗い流す。
それでも異常を感じたときは、医師の診療を受けてください。

アドバイス

- タイヤ応急修理キットは、必ず日産純正品を使用してください。

緊急時の対処法

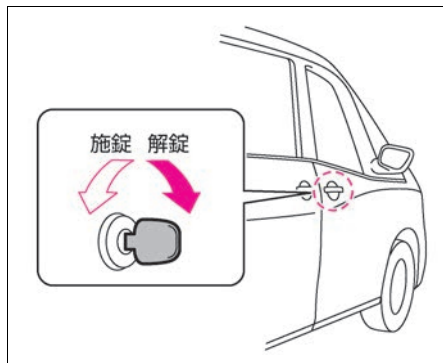
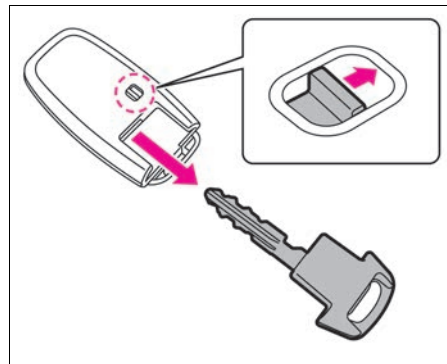
- 水やほこりを避けて使用してください。

ドアが開かないときは

インテリジェントキーの電池が切れたときや、12Vバッテリーがあがったときなどドアが開かないときは、次の方法で施錠・解錠してください。

内蔵キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた

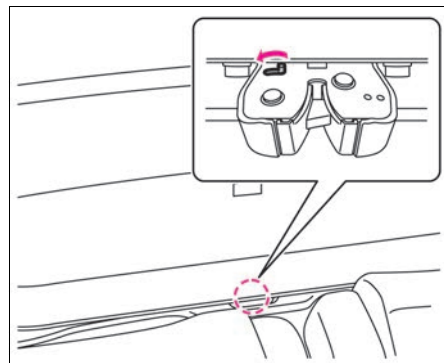
運転席ドアにある鍵穴に内蔵キーを差し込んで車両前方に内蔵キーを回すと解錠します。施錠するときは、車両後方に内蔵キーを回します。



緊急時のバックドアの開けかた

12Vバッテリーあがりなどにより、バックドアを開けられなくなったときは、次の操作をしてください。

- お手持ちの工具（プラスドライバーまたはマイナスドライバーなどの細い工具）を使用して、バックドアの車室内側にあるロック機構のレバーを矢印の方向に動かして解錠し、バックドアを持ち上げます。



🚗 アドバイス

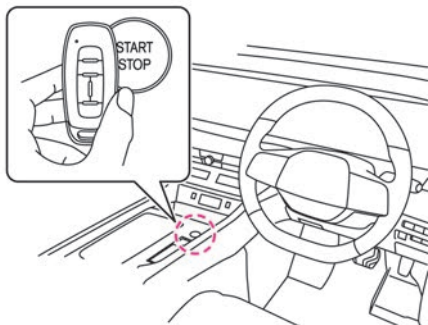
- この手順は、あくまで故障時の緊急手段です。故障の原因になるため、正常なときは使用しないでください。
- <バックドアオープナースイッチ>などの故障につながるおそれがあるため、操作をしたときは日産販売会社で点検を受けてください。
- 操作後はなるべく早く日産販売会社で点検を受けてください。

e-POWERシステムを始動できないときは

キーの電池が切れたときや、使用環境によりキーと車両の通信が正常に行われていないときは、次の手順でe-POWERシステムを始動してください。

始動のしかた

1. <パワースイッチ>を押してから、キーのロゴの裏面を<パワースイッチ>に接触させます。
(ブザーが“ピピッ”と鳴ります)



2. ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、<パワースイッチ>を押します。
- ドアの施錠・解錠は、内蔵キー（メカニカルキー）（🔑WEB）をご使用ください。
 - キーの電池が切れたときは、早めに電池を交換してください。
🔑WEB

🚗 アドバイス

- 上記の手順でe-POWERシステムを始動できない場合は、早めに日産販売会社にご連絡ください。

停止のしかた

e-POWERシステムを停止するときは、次の操作を行ってください。

- <パワースイッチ>を長押しする。

12Vバッテリーがあがったときは

12Vバッテリーがあがり、e-POWERシステムの始動ができなくなったときは救援車を依頼し、ブースターケーブル（別売り）をつないで始動してください。

⚠ 警告

- ジャンプスタートを行うときは換気を十分に行い、火気は近づけない。
12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受ける。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。
- ブースターケーブルを正しい順番と位置でつなぐ。
- ブースターケーブルを自車バッテリーの⊖端子に直接つながない。
- ブースターケーブルの⊕端子と⊖端子を接触させない。
火花が発生し、12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

- 12Vバッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。
接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、12Vバッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。
- 12Vバッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。
しっかりと固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

ジャンプスタートのしかた

⚠ 警告

- ブースターケーブルのワニグチクリップは、エンジンやモーターに絶対に接続しない。

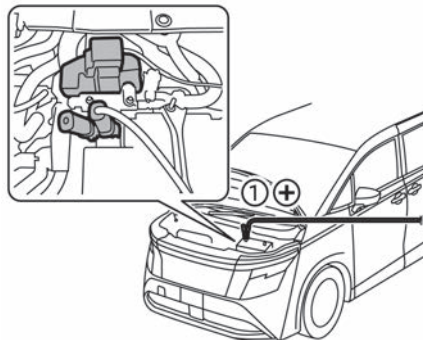
⚠ 注意

- ブースターケーブルのワニグチクリップは、車体に触れたり、他のワニグチクリップと接触したりしないように注意する。
- ブースターケーブルは、確実に接続する。
エンジン始動時の振動で外れたりしないように確実につないでください。
- 冷却ファンやベルトに注意する。
ブースターケーブルをつなぐときや外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

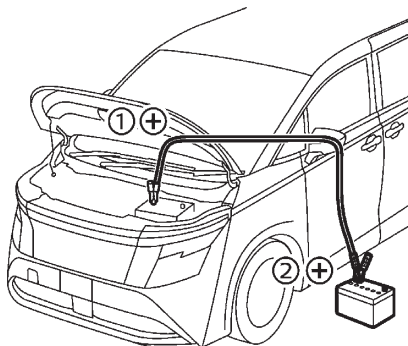
1. 自車と救援車の<パワースイッチ>をOFFにします。

🔌 WEB

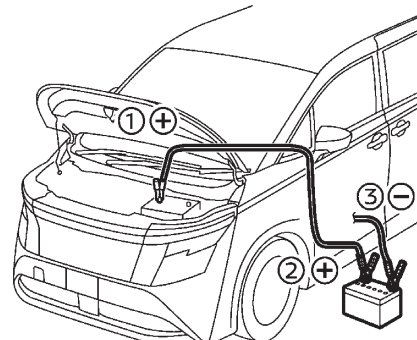
2. ブースターケーブル①を自車の12Vバッテリーの⊕端子に接続します。



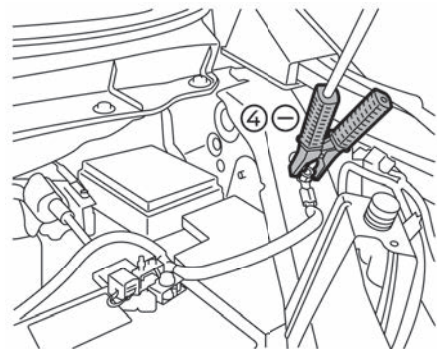
3. 手順2のケーブルの反対側②を救援車の12Vバッテリーの⊕端子に接続します。



4. もう1本のブースターケーブル③を救援車の12Vバッテリーの⊖端子に接続します。



5. 手順4で接続したケーブルの反対側をイラストのような自車の車体④に接続します。



6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
7. 自車のブレーキペダルをしっかりと踏みながら、<パワースイッチ>を一回押します。

緊急時の対処法

8. 走行可能表示灯〔READY〕が点灯したことおよびe-POWERシステム警告灯が点灯していないことを確認し、ブースターケーブルをつないだときと逆の手順で外します。

- e-POWERシステム警告灯が点灯または〔ヘッドランプ警告〕が表示されたときは、ブースターケーブルをつないだ状態で、＜パワースイッチ＞をOFFにして運転席ドアを一度開閉し、そのまま何も操作せず3分以上経過してから、もう一度＜パワースイッチ＞をONにして〔e-POWERシステム警告〕または〔ヘッドランプ警告〕が表示されないことを確認してください。

アドバイス

- 押しがけによる始動はできません。
- この車両を救援車として使用しないでください。
- 救援車には12Vバッテリー仕様の車両を使用してください。
- e-POWERシステムが始動できない場合には、＜パワースイッチ＞をOFFにしてください。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、NissanConnectインフォテインメントシステム、オーディオ、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。その後、再始動してください。
- 12Vバッテリーがあがると、＜パワースイッチ＞のON・OFFができなくなり

ます。すみやかに12Vバッテリーを充電してください。

- e-POWERシステムを始動するときは、ヘッドランプやエアコン、およびその他の電装品はOFFにしてください。
- e-POWERシステムが始動しても、しばらくエアコンやオーディオを使用しないでください。

出力制限表示灯が点灯したときは

出力制限表示灯〔〕が点灯したときは、次の対処方法に従ってください。

走行中に出力制限表示灯が点灯したとき

■ 対処方法

- 高速道路を走行しているとき
 - ー 80km/h以下で走行してください。次のパーキングエリアまたはサービスエリアで車両を止め、出力制限表示灯〔〕が消灯するまで待ちます。
- 登坂路を走行しているとき
 - ー 安全な場所に停車し、出力制限表示灯〔〕が消灯するまで待ちます。
- 一般道を走行しているとき
 - ー 安全な場所に停車し、出力制限表示灯〔〕が消灯するまで待ちます。

走行中に再度出力制限表示灯〔〕が点灯する場合は、 WEBの手順に従ってください。

■ 注意事項

- 他の警告灯が点灯しているときは、そちらの警告灯に対する処置を優先して行ってください。出力制限表示灯〔〕のみが点灯した場合は、上記の対処方法に従ってください。

処置のしかた

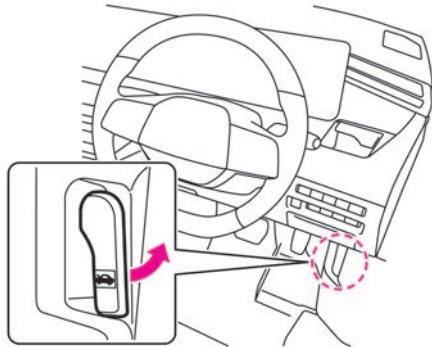
警告

- ボンネットを開けるときは十分に注意する。
エンジンルーム内は高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- 蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。
やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
e-POWERシステムを停止し、蒸気が出なくなるまで待ち、ボンネットを開けてください。
- オーバーヒートしたときは、ただちに安全な場所に車を停めて処置をする。
そのまま走行を続けると、インバーター故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。

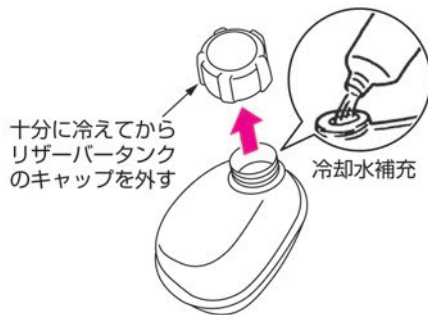
1. ただちに安全な場所に停車します。
 WEB



2. e-POWERシステムを作動させたままボンネットを開け、風通しをよくしてエンジンを冷やします。
万一、冷却ファンが回っていないときは、ただちにe-POWERシステムを停止し、自然冷却してください。



3. メーター内の出力制限表示灯 [] が消えたら、e-POWERシステムを停止させしばらく待ちます。
モーターが十分冷えてから冷却水の量、ホースなどからの水漏れを点検してください。
4. 冷却水が不足しているときは、インバーター用ラジエーターリザーバタンクに冷却水を補充してください。
 WEB
補充後は、しっかりキャップを閉めてください。



5. 走行中、再度メーター内に出力制限表示灯 []、および警告メッセージが表示されたら、手順1～手順4の作業を繰り返し行ってください。

⚠ 警告

システム保護のため
一時的に出力制限中
安全な場所に車を停め
取扱説明書を見てください

6. 早めに日産販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- 応急的に水だけを補充したときは、早めに日産販売会社で点検を受けてください。

ブザー（警報音）が鳴ったときは

車両盗難などを防ぐため、車内外でブザー（警報音）が鳴ることがあります。

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車外	ピピピピ...（数秒間）	ドアにあるセンサーまたはスイッチを押したとき	走行可能表示灯〔READY〕が点灯していないか キーを車室内またはラゲッジルーム内に置き忘れているか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前にドアにあるセンサーまたはスイッチを押していないか
		キーの<ドア施錠スイッチ>を押したとき	走行可能表示灯〔READY〕が点灯していないか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前に<ドア施錠スイッチ>を押してはいないか
		ドアを閉めたとき	無意識にドアにあるセンサーまたはスイッチを押していないか
	ピッピッピッ（3回）	ドアを閉めたとき	走行可能表示灯〔READY〕が点灯しているときに、キーが車外に持ち出されていないか
	キー（金属音）	走行中にブレーキペダルを踏んだとき	ディスクブレーキのパッド（摩擦材）が摩耗していないか 金属音が発生したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。そのまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。
車室内	ピー（継続）	ドアを閉めたとき	シフトポジションがP以外のまま、キーが車外に持ち出されていないか
	ポロポロポロ（3回）	ドアを閉めたとき	走行可能表示〔READY〕灯が点灯しているときに、キーが車外に持ち出されていないか
		<パワースイッチ>を押したとき	キーを携帯しているか キーを携帯してもブザーが鳴るときは、キーの電池を交換してください
	ポロポロポロ...（繰り返す）	運転席ドアを開けたとき	<パワースイッチ>がONのままになっていないか シフトポジションをPにしているか

窓ガラスがくもったときは

- <デフロスタースイッチ>は、<パワースイッチ>がONのとき使えます。<リヤデフォッガースイッチ>は、走行可能表示灯〔READY〕が点灯しているときに使えます。

フロントガラスのくもりの取りかた

⚠ 注意

- <デフロスタースイッチ>をONにしているときは、エアコンの設定温度を低くしない。
フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

- <デフロスタースイッチ>をタッチするとエアコンが作動し、外気導入に切り替わります。

(スイッチの表示灯が点灯)

- 止めるときは、もう一度スイッチをタッチします。

(スイッチの表示灯が消灯)

デフロスタースイッチ (🔌WEB)

🚗 アドバイス

- <デフロスタースイッチ>をONにしているときは、内気循環にしないでください。くもりが取れにくくなります。
- <デフロスタースイッチ>は、連続して長時間ONにしないでください。消費電力が多いため、12Vバッテリーあがりの原因になります。

バックドアガラスのくもりの取りかた

- <リヤデフォッガースイッチ>をタッチすると約15分間作動し、バックドアガラスの熱線が暖まります。

(スイッチの表示灯が点灯)

- 止めるときは、もう一度スイッチをタッチします。

(スイッチの表示灯が消灯)

リヤデフォッガースイッチ (🔌WEB)

- <リヤデフォッガースイッチ>をタッチすると、ドアミラーヒーターも同時に作動します。

🚗 アドバイス

- 連続して長時間使用しないでください。消費電力が多いため12Vバッテリーあがりの原因になります。

■ ワイパーデアイサー★

- フロントガラスを温めて、ガラス下端にたまった雪を取り除きやすくします。<リヤデフォッガースイッチ>をタッチすると約15分間作動します。

(スイッチの表示灯が点灯)

- 止めるときは、もう一度スイッチをタッチします。

(スイッチの表示灯が消灯)

🚗 アドバイス

- ガラスにたまった雪はこまめに取り除き、視界を確保してください。

オーバーヒートしたときは

アドバンスドドライブアシストディスプレイにオーバーヒート警告 (🔌WEB) が表示されたときや、エンジンルームのすき間から蒸気が出ているときはオーバーヒートしています。次の方法で処置してください。

処置のしかた

⚠ 警告

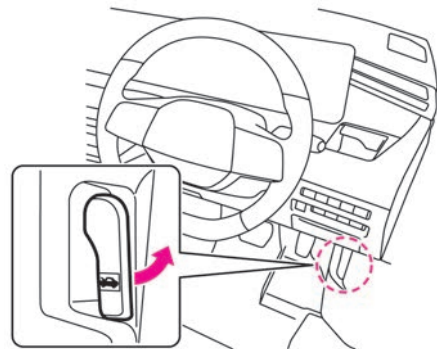
- ボンネットを開けるときは十分に注意する。
エンジンルーム内は高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- 蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。
やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
e-POWERシステムを停止し、蒸気が出なくなるまで待ち、ボンネットを開けてください。
- エンジンが十分に冷えていないときは、ラジエーターやリザーバータンクのキャップを外さない。
蒸気や熱湯が噴き出し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- オーバーヒートしたときは、ただちに安全な場所に車を停めて処置をする。
そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。

1. ただちに安全な場所に停車します。

🔌WEB



2. e-POWERシステムを作動させたままボンネットを開け、風通しをよくしてエンジンを冷やします。
万一、冷却ファンが回っていないときは、ただちにe-POWERシステムを停止し、自然冷却してください。



3. アドバンスドドライブアシストディスプレイのオーバーヒート警告が消

えたら、e-POWERシステムを停止させしばらく待ちます。
エンジンが十分冷えてから冷却水の量、ホースなどからの水漏れを点検してください。



警告



オーバーヒート
安全な場所に車を停め
取扱説明書を見てください

4. 冷却水が不足しているときは、エンジン冷却用のラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補充してください。



WEB
補充後は、しっかりキャップを閉めてください。



5. 走行中、再度アドバンスドドライブアシストディスプレイにオーバーヒート警告が表示されたら、手順1～手順4の作業を繰り返し行ってください。
6. 早めに日産販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- 応急的に水だけを補充したときは、早めに日産販売会社で点検を受けてください。

雪道やぬかるみにはまったときは

雪道、砂地、ぬかるみなどでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったりしたときは、次の方法で脱出してください。

脱出のしかた



警告

- 周囲の安全を必ず確認する。

緊急時の対処法

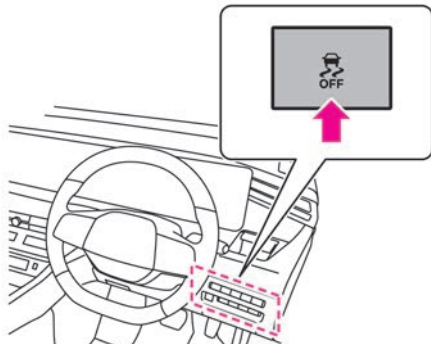
周囲の人や物との衝突を避けるため、前進と後退を繰り返すときは、周囲に何もないことを確認してください。特に脱出の瞬間は、車両が前方または後方に飛び出すおそれがあります。

- **必要以上にアクセルペダルを踏み込まない。**
急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **脱出するときは、過度にタイヤを空転させない。**
タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品が異常過熱したりすることにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

1. VDC OFFスイッチでVDCをOFFにします。
➡ WEB



2. ドライブモードセレクターをSNOWに切り替えます。
➡ WEB
3. 車両の前後に障害物がないことを確認し、ハンドルを左右に回して前輪の周囲をならします。
必要に応じ、タイヤの下に木材などをそえてください。
4. ゆっくりとアクセルペダルを踏み、前進または後退します。
周囲の安全を確認したうえで、前進と後退を繰り返してください。

アドバイス

- 数回試しても脱出できないときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

水没したときは

水没したときの対処のしかた

⚠ 警告

- 水位が窓ガラスよりも高いとき、緊急脱出用ハンマーを使用した場合、割れたガラスが車室内に入り、ケガをするおそれがあります。

緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）について

- フロントウィンドーガラス、ドアガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマーで割ることはできません。リヤサイドガラスまたはバックドアガラスを割って脱出してください。

水没したときは、次のような対処方法で車外に脱出してください。

- シートベルトを外して車外に脱出してください。
- ドアが開く水位が低いうちにドアを開けて、車外に脱出してください。
- ドアが開かなかった場合、窓ガラスを開け、窓から車外に脱出してください。
- <パワーウィンドースイッチ>を押しても窓ガラスが開かない場合、車内外の水位が同じ高さくらいまで浸水するのを待ち、ドアを強く押し開けて車外に脱出してください。
（車内外の水圧差がなくなると、ドアを開けることができます）
- 浸水・冠水被害に遭われた場合は、車両故障につながるおそれがあるため、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

外装ランプが点灯しないときは

- 外装ランプはすべてLEDです。LEDの一部でも点灯しない場合は日産販売会社で点検を受けてください。
- ヘッドランプ、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがあります。またヘッドランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは雨天時などに窓ガラスがくもるのと同様の現象で、機能上の問題ではありません。またレンズの構造上、レンズのふちに水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。ただし、ランプ内に水がたまっている場合やレンズ内面

緊急時の対処法

に大粒の水滴が付着している場合は、日産販売会社にご相談ください。

ヒューズが切れたときは

ランプがつかないときや電気系統の装置が作動しないときは、日産販売会社にご相談ください。

日産e-POWERとは

安全にご利用いただくために	P.68
---------------	------

安全なドライブのために

運転する前に	P.70
シートベルト	P.71
エアバッグ	P.72
お子さまの安全のために	P.74

メーターの見かた

ヘッドアップディスプレイ★	P.82
---------------	------

各部の操作

キー	P.83
ドアの施錠と解錠	P.83
シート・ハンドルの調節	P.86
ミラーの調節	P.88
窓ガラスの開閉	P.88
燃料補給口の開閉	P.89
エアコンの操作	P.89
オーディオ	P.90
NissanConnectインフォテインメントシステム	P.90

運転のしかた

始動する	P.92
運転する	P.92
ランプをつける、ワイパーを使う	P.94

運転支援機能	P.95
駐車支援システム	P.115

室内装備

収納装備	P.120
その他の室内装備	P.121

日産e-POWERとは

安全にご利用いただくために

e-POWERの取り扱いに関する注意事項

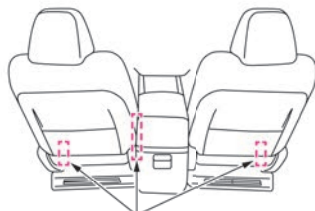
⚠ 警告

e-POWERシステムを適切に取り扱うため、次のことを必ずお守りください。

- **高電圧部位には触れない。**
約400Vの直流高電圧が使用されているため、高電圧ケーブルやコネクタ、高電圧部品（走行用モーターやリチウムイオンバッテリーなど）には触れないでください。感電すると生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。車両のエンジンルーム内に貼られているラベルの記載事項に必ず従ってください。
- **リチウムイオンバッテリーに水をかけない。**
車室内、ラゲッジルームにふたのないバケツや水槽など、水がこぼれるおそれがあるものは置かないでください。リチウムイオンバッテリーに水がかかると故障の原因になります。

⚠ 注意

- **高温に注意する。**
走行直後はエンジンルーム内が高温になっている可能性があります。エンジンルーム内に貼られているラベルの記載事項に必ず従ってください。



空気取入口

- **冷却用空気取入口をふさがない。**
フロントシート下およびセンターコンソールボックス左下部に、リチウムイオンバッテリーと1500W ACインバーター★を冷却するための空気取入口があります。性能低下や車両故障につながるため、荷物や衣類などで空気取入口をふさがないでください。また、液体や砂など、異物が入らないように注意してください。万一、リチウムイオンバッテリー周辺に多量の液体をこぼしてしまった場合は、すみやかに日産販売会社にご連絡ください。
- **フロントシート下には重量物を載せない。**
フロントシート下にはリチウムイオンバッテリーが配置されているため、重量物を載せたり踏みつけたりして強い負荷をかけないように注意してください。

e-POWERが事故にあったときの注意事項

⚠ 警告

事故が発生したときは、次のことを必ずお守りください。

- **高電圧部品および高電圧ケーブルが露出しているときは絶対に触れない。**
高電圧部品および高電圧ケーブルの位置は、（ WEB）を確認してください。

- **リチウムイオンバッテリーから液漏れが見られる場合は、すみやかに日産販売会社にご連絡する。**
火災が発生するおそれがあります。
- **車室内や車外に液体が漏れているときは絶対に触れない。**
万一、リチウムイオンバッテリーから漏れた液体が皮膚や衣服に付着したときは、水道水などのきれいな水で洗い流し、すみやかに医師の診察を受けてください。
- **走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、安全な場所に停車し、損傷がないか点検する。**
床下に損傷が見られる場合は、絶対に触れずすみやかに日産販売会社にご連絡ください。
- **リチウムイオンバッテリーや高電圧部品から火災が発生したときは、できるだけ早く車両から離れる。**
火災を消火するときは、必ず電気火災用の消火器（ABC、BCまたはCタイプ）を使用してください。消火栓などから大量の放水が可能な場合のみ、水での消火も可能です。不適切な消火作業は危険なため、絶対に行わないでください。
- **事故などで車両が損傷し、安全であることを確認できない場合は、車両から離れて日産販売会社にご連絡する。**
日産販売会社にご連絡するときは、（ガソリンエンジン車ではなく）e-POWERシステムである旨をご連絡ください。
- **板金・塗装による修理が必要な場合は、必ず日産販売会社にご連絡する。**
車体が大きく破損・変形しているとき、破損の状態によっては漏電や感電のおそれがあります。高電圧部位（リチウムイオンバッテリーなど）、およびこれらを接続する配線（オレンジ色）には絶対に触らないでください。
- **事故などでランプが破損したまま走行しない。**

日産e-POWERとは

内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

安全なドライブのために

運転する前に

運転前の準備

正しい運転姿勢について

⚠ 警告

- ハンドル、シート、ミラーの調節は、必ず走行前に行う。
走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ハンドルやシートを調節したあとは、確実に固定されていることを確認する。
固定されていないと運転姿勢が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれと背中の上にクッションなどを入れない。
運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転するときに注意すること

⚠ 警告

排気ガスには十分注意する

- 排気ガスには無色無臭で有害な一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素を吸い込むと一酸化炭素中毒になり、重大な健康障害におよぶか、死亡につながるおそれがあります。
- 次の状況では、e-POWERシステムを長時間作動したままにしない。
排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりするおそれがあります。
 - 雪が積もった場所に駐車するとき
 - 降雪時に駐車するとき
 - 車庫や屋内、壁などに囲まれた換気が悪い場所に駐車するとき
 - 仮眠や長時間の駐車をするとき

- 排気管が腐食または損傷しているおそれがあるとき
- 他車の排気口が近くにあるとき
- 走行する前に、バックドアが確実に閉まっていることを確認する。
走行中に排気ガスが侵入するおそれがあります。
- 車室内に排気ガスが侵入したと感じたときは、窓を開けて十分に換気をする。
- 排気管に穴や亀裂がある場合や排気音に異常があるときは、日産販売会社で点検を受ける。
排気ガスが車室内に侵入するおそれがあり危険です。

車室内に人やペットを残さない

- お子さま、介護を必要とされる方、ペットを車室内に残さない。
炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

診断機接続用のコネクターにはご注意ください

- 診断機接続用のコネクターには、後付け用品を取り付けないでください。12Vバッテリーがあがったり、警告灯が点灯したりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

燃料が入った容器やスプレー缶などを積まない

- ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まない。
引火や爆発するおそれがあり危険です。

火気には十分注意する

- 操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れず、また、床やシートのすき間に落としたままにしない。
荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

故障や破損したまま走行しない

- 排気音が大きくなったときは、日産販売会社で点検を受ける。
排気管が腐食したり路面干渉などで損傷したりしているおそれがあります。また、排気管に穴が開いたまま走行を続けると、高温の排気ガスが漏れ、排気ガスが車室内に侵入し、火災につながるおそれがあります。
- 事故などでランプが破損したまま走行しない。
内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

e-POWERシステムを作動したまま仮眠をしない

- 万一、シフトポジションがP以外だと、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、無意識に<シフトスイッチ>を操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故やエンジン過熱による火災などにつながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- ウィンドーにアクセサリを取り付けない。
視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをしたりして火災を起こすおそれがあります。また、SRSエアバックが作動したときアクセサリが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造しない

- 市販の不適合品のマフラー取り付けや、日産純正部品以外の車両の性能や機能に適合しない部品を使用しない。
正常な性能を発揮できないだけでなく、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 電装品などを取り付けるときは、必ず日産販売会社にご相談ください。不適切な取り

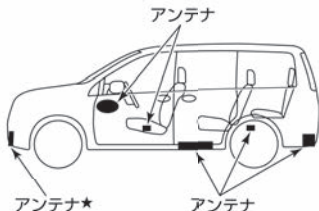
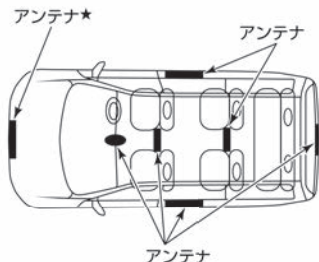
安全なドライブのために

- 付けや誤った配線は、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ハンドルの取り外しや交換を不適切に行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなかったり、不意に作動したりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項

⚠ 警告

心臓ペースメーカーなどをご使用の方は、次のことにご注意ください。
インテリジェントキーについて



- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。
ドアおよびバックドア開閉時、ドアハンドルのセンサーおよびスイッチ操作時、e-POWERシステム始動時などに発生するキーの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。
キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

SOSコールについて

- SOSコールは無線通信機能を利用しているため、心臓ペースメーカーやその他医療用電気機器を使用する場合は、当該の各医療用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波による影響について必ず確認する。
SOSコールの電波が医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。



シートベルト

3点式シートベルト

⚠ 注意

- プリテンショナーシートベルトの部品や配線を修理しない。また、電気テスターを使ってプリテンショナーのシステムの回路診断をしない。
誤って作動したり、正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

プリテンショナーシートベルトについて

⚠ 警告

- SRSエアバッグ警告灯が点灯しているときは走行しない。
＜パワースイッチ＞をONにしてから約7秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーが作動しません。必ずSRSエアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。

⚠ 注意

- 廃車にするときやプリテンショナーシートベルトを廃棄するときは、必ず日産販売会社に相談する。

シートベルトの着用のしかた（フロントシート／セカンドシート／サードシート左右）

⚠ 警告

- ベルトが肩に確実にかかる位置にアンカーの高さを調節する。また、アンカーが確実に固定されていることを確認する。
カーのときに肩からベルトが外れるなど、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートベルトの着用のしかた（サードシート中央）

⚠ 警告

- サードシート中央席に座るときは、左右シートの前後位置と背もたれの角度を合わせる。

安全なドライブのために

シートベルトが正しく着用できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。

- **サードシート中央席用のタングとバックルは正しく差し込んで使用する。**
サードシート中央席用のタングとバックルは2個ずつあります。着用するときは必ずタング1と2、バックル1と2を正しく差し込んでお使いください。正しく固定されていないと、万一のときシートベルトが十分効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートベルトの注意事項

⚠ 警告

- **走行する前に全員がシートベルトを着用する。**
着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- **シートベルトを着用するときは、次のことを必ず守る。**
シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
 - ー 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。
 - ー 2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
 - ー ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。
 - ー 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からずれていると、腰部に強い圧迫を受けることがあります。
 - ー 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分に掛かっ

ていないと、上半身が拘束できないことがあります。

- ー クリップなどで故意にベルトにたるみをつけ、身体から浮いた状態で調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果が発揮できないことがあります。
- **シートの背もたれを倒したまま走行しない。**
シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **バックルや巻き取り装置の中に異物を入れない。**
シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
- **妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用する。**
ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避け腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。
- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**
お子さまをひざの上に抱えていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**
WEB
- **事故などで衝撃を受けたり傷がついたりしたシートベルトは、日産販売会社に点検を依頼する。**
一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしている

シートベルトは、機能を十分に発揮しないことがあります。

⚠ 注意

- **シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使用しない。**
ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分に発揮できないことがあります。シートベルトの清掃は中性洗剤がぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。

エアバッグ

SRSエアバッグ

SRSエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **SRSエアバッグ警告灯が次の状態のときは走行しない。**
 - ー <パワースイッチ>をONにした直後、SRSエアバッグ警告灯が約7秒間点灯しないとき（消灯したままのとき）
 - ー SRSエアバッグ警告灯が点灯し続けるとき

SRSエアバッグが正常に作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。日産販売会社にご相談ください。
- **正しい姿勢でシートベルトを正しく着用する。**
SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグだけでは、身体の飛び出しなどを防止することではできません。また、SRSエアバッグの効果が発揮されないおそれがあります。
- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けられない。**
SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に

安全なドライブのために

取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

➡ WEB



- **必ず次のことを守る。**
SRSエアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなったりし、重大な傷害につながるおそれがあります。
- SRSエアバッグ格納部を修理するときは、日産販売会社にご相談ください。また、SRSエアバッグ格納部に傷がついているとき、およびひび割れがあるときは、そのまま使用せず日産販売会社で交換してください。
SRSエアバッグ（前席）の格納場所は（➡ WEB）をお読みください。
SRSサイドエアバッグ（前席）の格納場所は（➡ WEB）をお読みください。
SRSカーテンエアバッグの格納場所は（➡ WEB）をお読みください。
- SRSエアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。
- 電気テスターを使用したSRSエアバッグの回路診断、または回路を変更しないでください。
- エアロパーツなどの取り付けや、サスペンションを改造するときは、日産販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。

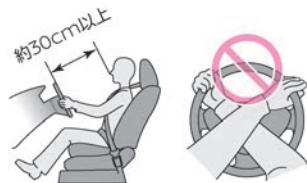
- **SRSエアバッグが作動したときは、30分経過するまでエアバッグに触らない。**
高温になるため、やけどをするおそれがあります。
- **SRSエアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流す。**
皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じることがあります。

SRSエアバッグ（前席）

SRSエアバッグ（前席）の注意事項

⚠ 警告

- **SRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、内がけでのハンドル操作はしない。**
ハンドルから顔をできるだけ（約30cm以上）離し、ハンドルにもたれかかるなど、手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



- **不適正なハンドルに交換したり、SRSエアバッグ格納部にステッカーなどを貼ったりしない。**

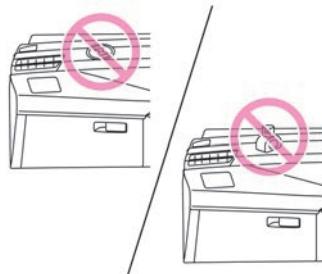
SRSエアバッグ作動時に正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。



- **フロントガラスにアクセサリなどを付け**ない。
SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- **SRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、お子さまを近づかせない。**
SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。SRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸などを不必要に近づけたりしないでください。また、お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いたりせず、後席シートに乗せてください。



- **チャイルドシートは後席シートに取り付ける。**
SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。
やむをえず助手席シートに取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。乳児用チャイルドシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは必ず後席シートに取り付けてください。
- **チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認する。**
固定方法および取り扱いなどは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- **SRSエアバッグ格納部およびその周辺にステッカーなどを貼ったり、アクセサリや芳香剤などを置いたりしない。**
SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。



SRSサイドエアバッグ（前席）

SRSサイドエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **SRSサイドエアバッグの格納部に近づかない。**
ドアにもたれるなど、フロントシートの背もたれ側面（外側）に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、フロントシートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **フロントシートのSRSサイドエアバッグ格納部付近に傘やカバンなどを置かない。**
- **シートカバーは、フロントシート背もたれ側面を覆わないものを使用する。**
SRSサイドエアバッグが正しく作動しないおそれがあります。

⚠ 注意

- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**
SRSサイドエアバッグが誤作動するおそれがあります。

SRSカーテンエアバッグ

SRSカーテンエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **SRSカーテンエアバッグの格納部に近づかない。**
万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **センターピラー（ロックピラー）まわり、ルーフサイド部などのSRSカーテンエアバッグ格納部付近に、アクセサリやハンガーなどを取り付けない。**
SRSカーテンエアバッグが作動したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**
SRSカーテンエアバッグが誤作動するおそれがあります。

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときに注意すること

⚠ 警告

お子さまを乗せるときは、次のことに注意してください。

お子さまにもシートベルトを着用する

- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**
お子さまをひざの上に抱えていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。



安全なドライブのために

小さなお子さまにはチャイルドシートを使用する

- シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。



チャイルドシートは後席シートに取り付ける

- チャイルドシートは後席シートに取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認する。
固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- 助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けられない。
SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。



- チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、ラゲージルーム（荷室）などに収納する。
車室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまは後席シートに乗せる

- お子さまを助手席に乗せるのは避ける。
お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになったりするおそれがあります。
また、助手席SRSエアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などでSRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

ドア、ウインドーなどは大人が操作する

- ドアやウインドーなどの開閉は、お子さまには操作させない。
開閉時に手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドセーフティドアロック（ WEB）や＜パワーウインドーロックスイッチ＞（ WEB）を使用し、お子さまが操作できないようにしてください。

窓から手や顔を出さない

- お子さまが腕や顔を出さないように注意する。
急ブレーキ時に窓枠などにぶつかったり、車外の障害物に当たったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内にお子さまだけを残さない

- 車から離れるときは、必ずお子さまを一緒に降ろす。
炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。
- お子さまのいたずらで車の発進、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

チャイルドシート

お子さまの年齢や体格に合わせてチャイルドシートを選択し、車両に適切に取り付けてください。

⚠ 警告

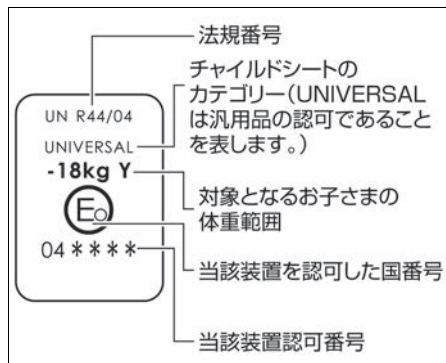
- 助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けられない。
SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。



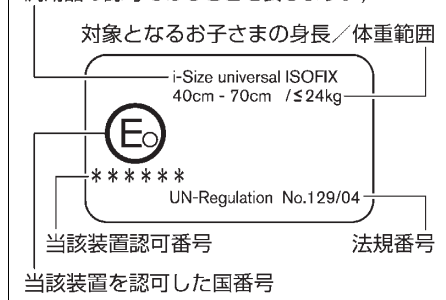
① エアバッグ警告ラベル



チャイルドシートについて



チャイルドシートのカテゴリ (universalは汎用品の認可であることを表します。)



- 乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートを総称してチャイルドシートと呼んでいます。
- UN R44またはR129はチャイルドシートに関する国際法です。UN R44またはR129の基準に適合した汎用（ユニバーサル）チャイルドシートには、認可マークが貼られています。

- チャイルドシートには、乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートの3種類があります。お子さまの年齢や体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- チャイルドシートの固定方法および取り扱いについては、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- この車はUN R44またはR129の基準に適合したi-Sizeチャイルドシート対応ISO FIX対応取付装置を標準装備しています。

チャイルドシートの選びかた

この車両には、シートベルトで取り付けるチャイルドシートと、i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートを取り付けることができます。i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートは、シートベルトを使わずに固定するため、簡単に取り付けることができます。

■ シートベルト固定タイプのチャイルドシート

シートベルトを使ってチャイルドシートを固定します。

🔗 WEB

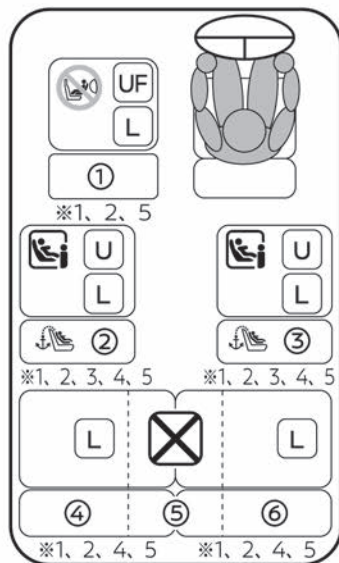
■ i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシート

セカンドシートに付属しているi-Sizeチャイルドシート対応ISO FIX対応取付装置で固定します。

🔗 WEB

使用できるチャイルドシートについて

チャイルドシートの取り付け位置により、使用できるチャイルドシートが異なります。



凡例

マーク	説明
U	車両シートベルト固定式汎用型チャイルドシートに適している
UF	車両シートベルト固定式の前向きに取り付ける汎用型チャイルドシートに適している
	i-SizeおよびISO FIXチャイルドシートに適している
	後向きチャイルドシート取り付け禁止
	ISO FIXチャイルドシート上部取付金具を装備している座席
L	添付リストに記載されたチャイルドシートに適している
X	チャイルドシートの取り付けに適していない

※1：チャイルドシートを取り付けるときは、スライド位置を最も後方に調整してください。シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かしてください。

※2：背もたれを可能な限り起こしてください。前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

※3：ISOFIX チャイルドシートを取り付けるときは、背もたれを後方に倒してからチャイルドシートを取り付け、チャイルドシートが安定する位置まで背もたれを起こしてください。

※4：後席シートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子さまやチャイルドシートが前の座席と干渉しないように前の座席を調節してください。

※5：ヘッドレストとチャイルドシートが干渉する場合は、ヘッドレストの取り外しが可能なときは、ヘッドレストを取り外してください。取り外しができない場合は、ヘッドレストを一番上まで上げてください。

幼児拘束装置メーカーに関する詳細情報

座席位置	助手席	後席				
	①	②	③	④	⑤	⑥
汎用ベルト式に適する着席位置 (○/×)	○ (前向きのみ)	○	○	×	×	×
ISO FIX着席位置 (○/×)	×	○	○	×	×	×
横向き固定具に適する着席位置 (L1/L2)	-	-	-	-	-	-
適する最大の後向き固定具 (R1/R2X/R2/R3)	-	R3	R3	-	-	-
適する最大の前向き固定具 (F2X/F2/F3)	-	F3	F3	-	-	-
適する最大のブースター固定具 (B2/B3)	-	B3	B3	-	-	-

- ISO FIX対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、ご使用前にUN R44またはR129の基準に適合していることを確認してください。詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書を参照してください。

安全なドライブのために

■ 推奨チャイルドシート

日産自動車が推奨するチャイルドシートです。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

年齢 (目安)	体重 (目安)	身長 (目安)	推奨チャイルドシート	座席位置						
				①	① BOSE 仕様車	②	③	④	⑤	⑥
0-18か月	<13kg	<100cm	日産i-Sizeチャイルドシート (後向き)	X	X	○	○	X	X	X
9か月-4歳	9-18kg	76-100cm	日産i-Sizeチャイルドシート (前向き、後向き)	X	X	○	○	X	X	X
4-6歳	15-25kg	100-125cm	日産ジュニアシートevo (前向き)	○ (ベルト 取付 のみ)	X	○	○	○ (ベルト 取付 のみ)	X	○ (ベルト 取付 のみ)
6-12歳	22-36kg	125-150cm	日産ジュニアシートevo (前向き)	○ (ベルト 取付 のみ)	X	○	○	○ (ベルト 取付 のみ)	X	○ (ベルト 取付 のみ)

チャイルドシートがヘッドレストに干渉し安定して取り付けられない場合は、一番上に調整してください。上げても安定しない場合には取り外してください。

安全なドライブのために

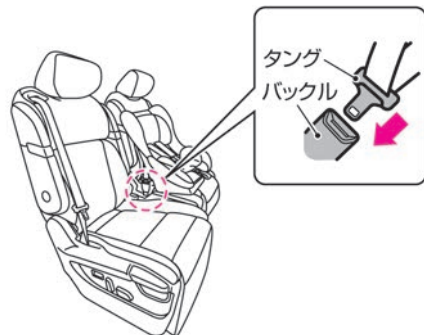
シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた

⚠ 警告

- チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。
確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。

1. ヘッドレストを外し（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置きます。
シートベルトをチャイルドシートに通し、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。

➡ WEB



2. チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って固定します。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。



i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートの取り付けかた

⚠ 警告

- i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるときは、セカンドシートのヘッドレストを取り外す。（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）
- チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。
確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。
- チャイルドシートを取り付けるときは、アンカー部周辺に異物がないことやシートベルトなどがかみ込んでいないことを確認する。

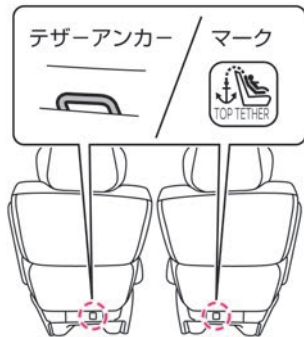
チャイルドシートが確実に固定されず、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

1. i-Sizeチャイルドシート対応ISO FIXロアアンカーは、セカンドシート左右背もたれのマーク下側にあります。
ヘッドレストを外して（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートが安定する位置まで背もたれを調整し、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってロアアンカーに固定します。

➡ WEB



2. テザーアンカーは、セカンドシート左右背もたれ裏側にあります。
テザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締めます。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。



- シートカバーを装着するときは、スリットがあるものを使用してください。

メーターの見かた

ヘッドアップディスプレイ★

各種設定画面

ヘッドアップディスプレイの注意事項

注意

- ヘッドアップディスプレイの明るさ、および表示位置を適正に調整する。
運転者の視界が妨げられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドアップディスプレイを見続けない。
車両、歩行者、障害物などが見えにくくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドアップディスプレイの調整は、必ず走行前に行う。
走行中に調整すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

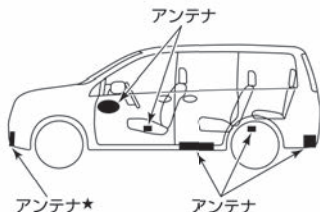
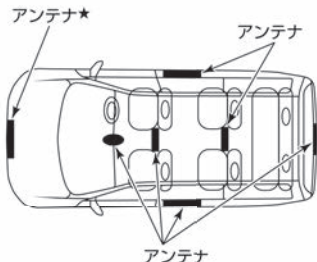
各部の操作

キー

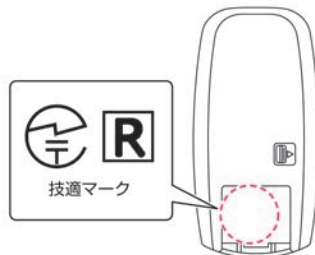
インテリジェントキーに関する注意事項

⚠ 警告

- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。
ドアおよびバックドア開閉時、ドアハンドルのセンサーおよびスイッチ操作時、e-POWERシステム始動時などにキーの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。



- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。
キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。
- 航空機内ではキーのスイッチを押さない。
万が一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の連航に支障をきたすおそれがあるため、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。
- キーの認証技適マークはキーの裏面で確認できます。



ドアの施錠と解錠

ドア

ドアに関する注意事項

⚠ 警告

- ドアの開閉はお子さまにはさせない。
手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。

後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。

- 走行する前にドアを確実に閉める。
走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 車から離れるときは、盗難や事故防止のため、必ずe-POWERシステムを止め施錠する。

スライドドア

オートクローザーについて

⚠ 注意

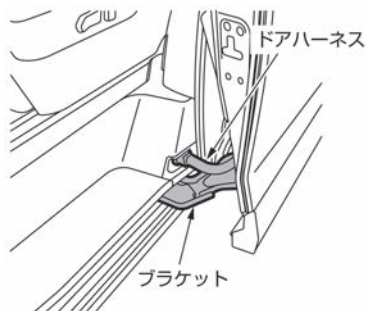
- スライドドアを開閉するときは、スライドドアや車体側に手を触れていたり、乗降用グリップを握ったりしない。また、スライドドアのふちやその周辺に手をかけない。
手を挟まれてケガをするおそれがあります。

スライドドアに関する注意事項

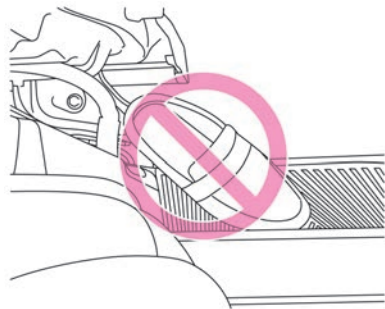
⚠ 注意

- スライドドアを開閉するときは、次のことを必ず守る。
 - 必ずドアハンドルを持って開閉してください。
 - スライドドアを開けるときは、ロックするまで確実に開けてください。
 - スライドドアを強く開けないでください。
 - ドアハーネスやブラケットに手や足などをかけないでください。

各部の操作



- ー スライドドアを閉めるときは、ステップの上に物が無いことを確認してください。



オートスライドドア

運転席スイッチによる開閉のしかた

⚠ 注意

- 開閉操作をするときは、スライドドア周囲の安全を確認してください。

挟まれたり、スライドドアに当たりケガをするおそれがあります。

ハンズフリー機能★による開閉のしかた

⚠ 注意

- ハンズフリー機能を使用するときは、作動中のスライドドアに接触しないように注意する。
スライドドアに接触し、思わぬケガをするおそれがあります。作動範囲より外側に立ってください。

オートスライドドアに関する注意事項

⚠ 注意

- 確実に停車している状態で開閉操作をする。
- 開閉操作をするときは、スライドドア周囲の安全を十分確認する。
周囲の人の身体がスライドドアや車体側に触れたままオート作動させると、手や腕などを挟まれたり、頭や腕を引き込まれて思わぬケガをするおそれがあります。
- 車が大きく傾いている状態ではオート閉作動しない。
- オート作動中にスライドドアを押したり引いたりしない。
反転して挟まれたり、スライドドアに当たりケガをしったりするおそれがあります。
- スライドドアレール部には手を入れない。
レール部のケーブルに触れると、スライドドアがオート作動するおそれがあります。
- バッテリーを接続していないときは、スライドドアをゆっくり開閉する。

ハンズフリーセンサー★について

- 足以外でも、インテリジェントキーを携帯したままハンズフリーセンサーに物を近づけると、スライドドアが開閉することがあるので注意する。
ハンズフリーセンサーが反応してスライドドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。
- 洗車、ワックスかけ、整備を行うとき、ハンズフリーセンサー周りに水を掛けるときなどは、＜オートドアメインスイッチ＞をOFFにする。
ハンズフリーセンサーが反応してスライドドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。

バックドア

バックドアに関する注意事項

⚠ 警告

- バックドアの開閉はお子さまにはさせない。
手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- バックドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。
後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。
- 走行する前にバックドアを確実に閉める。
走行中に突然バックドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲッジルーム（荷室）に人を乗せて走行しない。
急ブレーキをかけたときなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 走行前にバックドアが確実に閉まっていることを確認する。
バックドアを開けたまま走行すると、車室内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒に

各部の操作

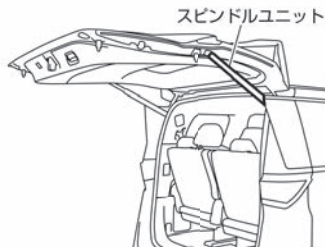
なるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- バックドアや車体側に手を触れたままバックドアを閉めない。
手を挟まれてケガをするおそれがあります。
- バックドアを閉めるときは、バックドアのふちやその周辺に手をかけない。
手を挟まれてケガをするおそれがあります。必ず外から押して閉めてください。
- バックドアを開ける前に、バックドアに付着した雪や氷、ゴミなどの重量物を取り除く。
重量物が付いたままバックドアを開けると、重みで突然閉まるおそれがあります。
- 風が強いときにバックドアを開ける場合は特に注意する。
風にあおられ、急に閉まることがあります。
- バックドアを閉めるときは、手などを挟まないように注意する。

バックドアスピンドルユニットについて

- バックドアのスピンドルユニットは、バックドアの重量を支えるために取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため、次のことを守る。
 - スピンドルユニットに手やひもなどをかけたり、横方向に力をかけたりしない
 - ビニール片、ステッカー、接着剤などの異物をスピンドルユニットに付着させない
- スピンドルユニットを持って、バックドアを閉めたり、ぶら下がったりしない。
手や腕を挟んだりして思わぬケガをするおそれがあります。



リモコンオートバックドア

挟み込み防止機構について

⚠ 注意

- 手などを挟まないように十分注意する。
挟まれる物や挟まれかたによっては、挟み込み防止機構が作動しない場合があります。

オートクローザーについて

⚠ 注意

- バックドアを閉めるときは、バックドアや車体側に手を触れていたり、ドアグリップを握ったりしない。また、バックドアのふちやその周辺に手をかけない。
手を挟まれてケガをするおそれがあります。バックドアを閉めるときは、必ず外から押して閉めてください。

ガレージモードの設定のしかた

⚠ 注意

- バックドアの止まる位置を全開位置から1/3以下の高さに設定しない。
バックドアの止まる位置を1/3以下に設定しても、自動的に1/3の高さに設定されます。設定した高さよりも開くため、思わぬケガや破損につながるおそれがあります。

リモコンオートバックドアに関する注意事項

⚠ 注意

- 確実に停車している状態で開閉操作をする。
- 開閉操作をするときは、バックドア周囲の安全を十分確認する。
バックドアに当たり、ケガをしたり物を損傷したりするおそれがあります。
- 車が大きく傾いている状態ではオート作動の操作スイッチを押さない。
- オート作動中にバックドアを押したり引いたりしない。
反転して挟まれたり、バックドアに当たりケガをしたりするおそれがあります。
- マフラー付近で足を出し入れする場合は、やけどしないように注意する。
マフラー付近は排気の熱で熱くなっている場合があります。

各部の操作

シート・ハンドルの調節

フロントシート

シートの調節のしかた

⚠ 警告

- シートは必ず走行前に調節する。
走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。
シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 背もたれと背中の中にクッションなどを入れない。
運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。
挟まれてケガをするおそれがあります。
- シートの下に手を入れるときは注意する。
車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームに当たり、ケガをするおそれがあります。

ヘッドレストの調節のしかた

⚠ 警告

- ヘッドレストを外したまま走行しない。
万有的时候、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。
万有的时候、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。
- ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。
万有的时候、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

助手席アウトマン機構

⚠ 注意

- アウトマンを調節するときは、シートの後位置を最後方にする。
シート位置が前方にあるときにアウトマンを前方に調節すると、足を挟まれるおそれがあります。
- 乗降時および使用後はシート下に格納する。
格納していないと、アウトマンにつまづいて転倒するなど、思わぬケガをするおそれがあります。

セカンドシート

シートの調節のしかた

⚠ 警告

- シートは必ず走行前に調節する。
走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。
固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。
シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 同乗者や荷物などにシートが当たらないように注意する。

⚠ 注意

- シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。
挟まれてケガをするおそれがあります。
- シートの下に手を入れるときは注意する。
車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームに当たり、ケガをするおそれがあります。

サードシートへの乗り降り

⚠ 注意

- サードシートへ乗り降りするときは、アウトマン、テーブルを格納する。
転んで思わぬケガをしたり、テーブルが破損するおそれがあります。

ヘッドレストの使いかた

⚠ 注意

- ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。
万有的时候、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。
- ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。

各部の操作

万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

アームレストの使いかた

⚠ 注意

- アームレストを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。
固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

セカンドシートオットマン機構

⚠ 注意

- オットマンを調節するとき、シートの前
後位置を最後方にする。
シート位置が前方にあるときにオットマン
を前方に調節すると、足を挟まれるおそれ
があります。
- 乗降時および使用後はシート下に格納す
る。
格納していないと、オットマンにつまずい
て転倒するなど、思わぬケガをするおそれ
があります。

サードシート

シートの調節のしかた

⚠ 警告

- シートは必ず走行前に調節する。
走行中に調節すると、思わぬ事故につな
がるおそれがあります。
- 背もたれを必要以上に倒したまま走行し
ない。

シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

- シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。
固定されていないと、思わぬ事故につな
がるおそれがあります。

⚠ 注意

- シートを調節するとき、動いている部分
に手や足などを近づけない。
挟まれてケガをするおそれがあります。
- 背もたれの角度を調節するとき、背もた
れを支えながら調節する。
顔や身体に当たり、思わぬケガをするお
それがあります。
- シートの下に手を入れるときは注意する。
車室内を清掃するときやシートの下に落
したものを拾うときなどは、シートレール
やシートフレームに当たり、ケガをするお
それがあります。

格納のしかた

⚠ 警告

- シートを元の位置に戻したときは、確実に
固定されたことを確認する。

⚠ 注意

- シートを倒すときは十分に注意する。
シートに人が乗っていたり、物や飲物など
を置いたまま操作を行うと、ケガをし
たり、物を壊したり、車室内を汚すおそれ
があります。特にレバーで背もたれを倒す
ときは、シートで前方が見えにくいので注
意してください。
- 格納レバーを引くときは、シートに注意す
る。
シート全体が自動的にはね上がり、ケガを
するおそれがあります。

- 格納レバーとスライドレバーを同時に操作
しない。

シートが破損するおそれがあります。

- シート格納時は、シートをスライドさせ
ない。
格納した位置から位置が変わると、元に戻
すときにシートが破損するおそれがありま
す。
- 背もたれを前に倒した状態で使用しない。
- シートを戻すときは、床面やロック部に
ものがないか確認する。
シートが破損するおそれがあります。
- シートを操作するときは、動いている部分
に手や足などを近づけない。
挟まれてケガをするおそれがあります。

ヘッドレストの使いかた

⚠ 注意

- ヘッドレストはロックする位置まで上げ、
確実に固定されていることを確認してから
使用する。
格納状態では機能が十分に発揮できませ
ん。
- ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッド
レストを持ち上げ、抜け出さないことを確
認する。
万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に
発揮せず、思わぬケガをするおそれあり
ます。

ハンドル

ハンドル位置の調節のしかた

⚠ 警告

- ハンドルの調節は、必ず走行前に行う。

各部の操作

走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ミラーの調節

インテリジェントルームミラー

インテリジェントルームミラー使用時の注意事項

⚠ 警告

- 走行前に、ルームミラーの調節を必ず行う。
ルームミラーモード（ミラー状態）にして正しい姿勢で運転席に座り、後方がよく見える位置に調節してください。調節をしないで運転を始めると、インテリジェントルームミラーモード（モニター表示状態）にしたときにミラーの反射でモニターが見えにくくなる場合があります。
- インテリジェントルームミラーモードのときに作動表示灯（故障通知LED）が消灯したら、すみやかにルームミラーモードに切り替える。
再度インテリジェントルームミラーモードにしても点灯しない場合、システムの異常が考えられます。日産販売会社にご相談ください。
- あらかじめ死角範囲を確認する。
インテリジェントルームミラーには死角があります。システムを過信せず、安全運転を心がけてください。
- ミラー本体やカメラ、配線を分解したり改造したりしない。
異臭がする、煙が出るなどした場合は、ただちに使用を中止し日産販売会社にご相談ください。
- 走行中に操作しない。
走行中に操作を行うと、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ミラー本体、カメラ、配線類にはタバコなどの火気を近づけない。
破損や車両火災の原因となります。

⚠ 注意

- モニターを凝視しない。
 - ー 前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ー 同乗者が凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。
- 太陽や後方車両のヘッドランプなどの強い光源がカメラに入ると、インテリジェントルームミラーのモニターに光のスジが入ったり、明るい光源がモニター上に広がったりする場合があります。その際には、必要に応じてルームミラーモードに戻してご使用ください。

ドアミラー

ドアミラーの注意事項

⚠ 警告

- ミラーの調節は、必ず走行前に行う。
走行中にミラーを調節すると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ミラーが動いているときは手を触れない。
手を挟む、またはミラーが故障するおそれがあります。
- ミラーを格納したまま走行しない。
後方確認ができないため危険です。

窓ガラスの開閉

パワーウィンドー

パワーウィンドーの注意事項

⚠ 警告

- 乗員の操作を含めすべての窓ガラス開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。
 - ー 走行中は顔や腕、物などを車外に出さないでください。車外の物に当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながったりするおそれがあります。
 - ー 窓ガラスを開閉するときは、窓から手や顔などを出したり、故意に挟み込み防止機構を働かせたりしないでください。手や顔、腕などを窓ガラスに挟まれたり巻き込まれたりすると、重大な傷害につながるおそれがあります。
 - ー お子さまにはパワーウィンドーを操作させないでください。重大な傷害につながるおそれがあるため、＜パワーウィンドーロックスイッチ＞を押し込んでください。
 - ー 窓ガラスを開閉するときはお子さまに声をかけ、手や腕などが窓ガラス付近にないことを確認してから操作を行ってください。
 - ー 車から離れるときは＜パワースイッチ＞をOFFにし、キーとお子さまを車室内に残さないでください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 指などを挟まれないように注意する。
窓ガラスには挟み込み防止機構がありますが、窓ガラスを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。

各部の操作

挟み込み防止機構

⚠ 警告

- 窓ガラスを閉める前に乗員の手や顔などが窓から出ていないことを確認する。挟み込み防止機構を解除すると、自動開動作と挟み込み防止機構が作動しません。確認せずに窓ガラスを閉めると重大な傷害につながるおそれがあります。

ツインガラスルーフ★

ツインガラスルーフの注意事項

⚠ 警告

- 乗員の操作を含めすべてのガラスルーフやサンシェード開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。
 - ー 走行中は顔や腕、物などを車外に出さないでください。車外の物に当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
 - ー 閉めるときは、ガラスルーフから手や顔などを出していないことを確認してください。手や顔などをガラスルーフやサンシェードに挟むと、重大な傷害につながるおそれがあります。
 - ー お子さまには操作させないでください。お子さまの誤った操作により事故につながるおそれがあります。お子さまや他の人がガラスルーフやサンシェードに挟まれ重大な傷害につながるおそれがあります。
 - ー 車から離れるときは<パワースイッチ>をOFFにし、キーとお子さまを車室内に残さないでください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ー 故意に挟み込み防止機構を動かさないでください。万一、手や顔などをガラ

スルーフに挟むと、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 指などを挟まれないように注意する。リヤガラスルーフには挟み込み防止機構がありますが、確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。
- 運転中はツインガラスルーフの開閉操作を行わない。前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。操作は信号待ちなどの停車中に行ってください。
- ルーフに水や雪などがあるときは開けない。突然の水や雪に驚き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

燃料補給口の開閉

燃料補給口

燃料補給時の注意事項

⚠ 警告

- 燃料補給時は、次のことを必ず守る。
 - ー e-POWERシステムを停止する
 - ー 車のドアや窓を閉める
 - ー タバコなどの火気を近づけない
 - ー 気化した燃料を吸わない
- 補給作業を行う前に、金属部分に触れて身体の静電気を除去する。放電による火花でやけどをしたり、燃料に引火したりするおそれがあります。
- 補給作業はひとりで行う。作業中に車室内に戻ったり、帯電している人や物に触れると再帯電するおそれがあります。
- 給油ノズルは確実に給油口へ挿入する。

給油ノズルの挿入が浅いと、給油の自動停止が遅れるため、燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。

- 給油ノズルの自動停止後は、給油の継ぎ足しをしない。継ぎ足しをすると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守る。
- 給油自動停止後、すぐに給油ノズルを引き抜かない。給油ノズル内に残った燃料がこぼれ出るおそれがあります。
- 携行缶から給油する場合、給油ノズルを確実に奥まで差し込む。給油口には2枚のフラップがあります。給油ノズルを2枚目のフラップの奥まで差し込まないと、給油できず燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- フラップを指などの給油ノズル以外のもの
- で開く、またはのぞき込んだりしない。フラップの故障やシール不良、損傷のおそれがあります。
- リッドが開いた状態で、高圧洗浄機で給油口付近を洗浄しない。燃料タンク内に水が混入するおそれがあります。

エアコンの操作

フロントオートエアコン+リヤオートエアコン

オートエアコンの使いかた

⚠ 注意

- インストルメントパネルのスイッチの前には何も置かない。

各部の操作

意図しない動作をする場合があります。

エアコンを使うときに注意すること

エアコンに関する注意事項

⚠ 注意

- **[A/C] OFF時に内部循環で長時間使用しない。**
窓ガラスがくもりやすくなり、視界が損なわれ危険なため、一時的にご使用ください。
- **吹き出し風を長時間連続して身体に当てない。**
特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方などには、吹き出し風が長時間当たらないように運転者が注意してください。低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。
- **<デフロスタースイッチ>をONにしているときに、エアコンの設定温度を低くしない。**
フロントガラスの外側に露が付く、視界を妨げるおそれがあります。

オーディオ

オーディオの使いかた

安全運転のために

⚠ 警告

- **走行中のオーディオ操作は、絶対にしない。**
前方不注意となるおそれがあります。
- **音量を大きくしない。**

大きすぎると車外の状況がわからないため、思わぬ事故の原因となります。

NissanConnectインフォテインメントシステム

安全上のご注意

運転中のご注意

⚠ 注意

- 操作または画面を注視する際は、必ず安全な場所に停車してください。
- 運転中にオーディオなどを使用するときは、車外の音が聞こえる音量でご使用ください。外部の音が聞こえない状態で運転すると、安全運転の妨げになります。

停車時のご注意

⚠ 警告

- エンジンまたはe-POWERシステムを停止した状態でのご使用は12Vバッテリーあがりの原因となります。オーディオなどのご使用はエンジンまたはe-POWERシステム作動中に行ってください。屋内などの換気の悪いところで、エンジンまたはe-POWERシステムを作動させたままにしないでください。車内や屋内に排気ガスが充満して一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

NissanConnectインフォテインメントシステムについてのご注意

⚠ 警告

- 本体および接続機器を分解・改造・取り外しなどしないでください。感電・故障などの原因となります。
- 故障の原因となりますので、本体およびUSBメモリやHDMIなどの挿入口に異物を入れないでください。
- 画面が表示されない、音が出ないなど、異常が発生したときは使用を中止してください。お客さまご自身で修理を行わずに必ず日産販売会社にご相談ください。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、Telematics Control Unitアンテナから約15cm以内の範囲に装着部位が近づかないようにしてください。サービスご利用時などにTelematics Control Unitの電波が植込み型ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。医療電気機器製造業者などへ影響を確認してからご使用ください。

アドバイス

- ディスプレイの清掃は、車を安全な場所に停車して行ってください。
- ディスプレイの清掃は、システムの電源をOFFにして行ってください。電源がONのまま清掃すると誤操作の原因となります。
- 水や芳香剤などの液体をかけないでください。本体内部に液体が入り込むと、故障の原因になります。
- 低温時や高温時に一部の機能が動作しない場合があります。
- 本製品の故障、誤作動または不具合により本体に保存されなかった場合、データおよび消失したデータの補償は致しかねます。あらかじめご了承ください。

各部の操作

- ETCユニット★を改造すると電波法により罰せられることがあります。
- 本システムは、複数のアプリケーションやスイッチ操作を同時に処理しますが、それらによるシステムへの負荷のため、動作が遅くなったり、システムがフリーズしてしまう可能性があります。
スイッチ操作は、一つ一つゆっくりと行ってください。
システムの反応が遅い場合、少々お待ちいただくか、お待ちいただいても現象が解消しない場合は、タッチパネル周辺の< ⏻ >ダイヤルを約10秒以上長押ししてシステムを再起動してください。
- 本システムは、電源ポジションまたはパワースイッチをONにした後、全てのアプリケーションが起動し使用可能になるまでに、約1分程度かかります。
ただし、以下の機能は操作可能です。
①オーディオのボリューム調整
②音楽再生

本製品は、電波法と電気通信事業法に基づく適合証明を受けております。

Model name : CCS2SBXQ

㊦ R 201-240604

㊦ T D 24 0099 201

Model name : LANR41

電波法により5.2 (W52) / 5.3 (W53)

GHz帯は屋内使用に限ります。

本製品の改造は禁止されています。(適合証明番号などが無効となります。)

USB電源ポート

⚠ 注意

- USBデバイスを接続口に無理やり押し込まないでください。故障の原因になります。

再生する

⚠ 警告

- 接続するオーディオ機器のUSBケーブルを、エアバッグの作動を妨げるような場所に設置しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり、SRSエアバッグの作動時に接続機器が飛ばされるなどにより、死亡・重傷に至ることがあります。

⚠ 注意

- 本体に接続するオーディオ機器または接続用のケーブルは、運転の邪魔にならない場所に固定するなどしてください。運転に支障をきたし、交通事故の原因になることがあります。

運転のしかた

始動する

パワースイッチ

⚠ 警告

- **e-POWERシステムを始動する前にペダルの位置を確認する。**
ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。
- 換気の悪い場所では、**e-POWERシステムを長時間作動したままにしない。**
排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。
- **e-POWERシステムを始動するときは、必ず運転席に座る。**
運転席以外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **e-POWERシステムを始動したあとは、e-Pedal StepのON・OFF状態を確認してから走行する。**
e-Pedal StepがONのときとOFFのときでは、アクセルペダルの特性が大きく異なるため、走行前に確認してください。

停止のしかた

⚠ 警告

- **<パワースイッチ>をOFFにするときは、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションがPであることを確認する。**

車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

非常停止のしかた

⚠ 警告

- **非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行う。**
非常停止後は、ブレーキの効が悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

運転する

シフトスイッチ

⚠ 警告

- **<シフトスイッチ>の操作は必ず走行可能表示灯 [READY] が点灯したことを確認してから行う。**
走行可能表示灯 [READY] が点灯する前に<シフトスイッチ>を操作すると、目的のシフトポジションに切り替わらず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器 (ICD)、またはそれ以外の医療電気機器を使用されている方は、装着部位を<シフトスイッチ>に近づけない。**
強力な磁石が内蔵されているため、医療電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 注意

- **<シフトスイッチ>に磁気カードや磁力のあるものを近づけない。**
誤作動を引き起こし、事故につながるおそれがあります。
- **次のような操作を行わない。**

アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、正常に作動しない場合があります。

- ブレーキペダルを踏まずに<シフトスイッチ>を押す
- アクセルペダルを踏みながら<シフトスイッチ>を押す
- 前進中に<R>スイッチを押す
- 後退中に<D/B>スイッチを押す
- 走行中<P>スイッチを押す
- 複数の<シフトスイッチ>を同時に押す

電動パーキングブレーキ

電動パーキングブレーキに関する注意事項

⚠ 警告

- 車両を離れるときは、電動パーキングブレーキをかけたあと、シフトポジションをPに切り替える。
- 非常時以外は、電動パーキングブレーキを作動させたまま走行しない。
ブレーキに不具合が生じ、事故につながるおそれがあります。
- 電動パーキングブレーキをかけたり、解除したりの操作を短時間に繰り返さない。
システムの過熱を防ぐために電動パーキングブレーキが作動しなくなる場合があります。作動しなくなった場合は、約1分間経過してから再度操作してください。

オートブレーキホールド

オートブレーキホールド機能使用時の注意事項

⚠ 警告

- 急な坂道や滑りやすい路面で使用しない。オートブレーキホールド機能が作動していても、車両が動き出すおそれがあります。急な坂道などでオートブレーキホールド機能を作動させたとき、運転者にブレーキペダルを踏むよう警告メッセージが表示されることがあります。
- オートブレーキホールド機能が作動していても停止状態を維持できないときは、ブレーキを使用して車両を停車させる。ブレーキ力保持状態のときに外的要因で車両が動くと、警告音が鳴り、警告メッセージが表示されることがあります。
- ➡ WEB
- 次の場合はオートブレーキホールド機能をOFFにする。
 - ー 洗車機を使用するとき
 - ー 過積載のとき
- 次の場合はシフトポジションをPにしてパーキングブレーキが確実にかかっているか確認する。
 - ー 車両が不意に動き出し重大な傷害や事故を起こすおそれがあります。
 - ー 駐車するとき
 - ー 人が乗降するとき
 - ー 荷物の積み下ろしをするとき
- VDC警告灯 [(P)] (➡ WEB)、ブレーキシステム警告灯 (黄色) [(O)] (➡ WEB)、電動パーキングブレーキ警告灯 [(P)] (➡ WEB)、またはマスターウォーニング [(A)] (➡ WEB) が点灯し、シャシー制御表示の警告メッセージ (➡ WEB) が表示されたときは、オートブレーキホールド機能は作動しません。

- オートブレーキホールド機能をOFFにする際は、ブレーキペダルを踏みながら<オートブレーキホールドスイッチ>を押す。急な坂道では、オートブレーキホールド機能での停止状態からアクセルペダルを踏んでもオートブレーキホールド機能が解除できない場合があります。
- ブレーキペダルから足を離す前に、オートブレーキホールド表示灯 [(A)] (緑色) が点灯していることを確認する。

⚠ 注意

- オートブレーキホールド機能によってブレーキ力が保持されているときに、オートブレーキホールド機能をOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。ブレーキが解除され車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車両が停止してもブレーキ保持が開始されないときは、オートブレーキホールド表示灯 [(A)] (緑色) が点灯するまでブレーキペダルを踏み込む。ブレーキペダルが十分な力で踏まれていない、もしくは、車両停止後にブレーキペダルを離すのが早すぎると、オートブレーキホールド表示灯 [(A)] (緑色) は点灯しません。

発進・走行

発進するときの注意事項

⚠ 警告

- 発進するときは、アクセルペダルを踏んだまま<シフトスイッチ>を操作しない。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

- 停車中、シフトポジションがD、N以外に入っているときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。クリープ現象により車が動き出し、事故につながるおそれがあります。

走行するときの注意事項

⚠ 警告

- 走行中はシフトポジションをNに切り替えない。回生ブレーキが作動しないため、事故につながるおそれがあります。
- e-Pedal StepがOFFのときは、下り坂ではフットブレーキと回生ブレーキを併用する。ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなり危険です。坂の勾配に応じて回生ブレーキを併用してください。
- ➡ WEB
- e-Pedal StepがOFFのときに、回生ブレーキの効きが弱くなった場合は、ブレーキペダルを踏んで減速する。
- e-Pedal StepをONにすると、回生ブレーキの効きが強くなり、アクセルペダルの操作のみで速度調整することができるようになります。アクセルペダルを離しても減速度が足りないときは、ブレーキペダルを踏んでください。

停車・駐車

停車・駐車時の注意事項

⚠ 警告

- 駐車するときは、ガスライターなどに注意する。

運転のしかた

操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしたりしないでください。荷物を押しこんだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

- **停車中の空ぶかしはしない。**
万一、シフトポジションが**P**、**N**以外に入っていると急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
停車後に再発進するときは、シフトポジションの位置を目で確認してください。
- **換気の悪い場所では、e-POWERシステムを作動したままにしない。**
排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。
- **車から離れるときは、必ずシフトポジションを**P**にして、e-POWERシステムを停止する。**
e-POWERシステムが作動したままで、シフトポジションが**P**、**N**以外だと、クリーブ現象で車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込むと急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **枯れ草、紙、木材、油など燃えやすい物の上や近くには駐車しない。**
排気管や排気ガスは高温になるため着火するおそれがあり危険です。
- **長期間車両を駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながる可能性がありますので注意する。**

ランプをつける、ワイパーを使う

ライトスイッチ

アダプティブLEDヘッドライトシステムの注意事項

⚠ 警告

- **システムを過信しない。**
常に周囲の状況を確認し、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。
- 次のようなときは、アダプティブLEDヘッドライトシステムが正しく作動しない場合があるため、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替える。
 - ー 悪天候のとき（雨、霧、雪など）
 - ー 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
 - ー カメラ前方のフロントガラスがくもっていたり、汚れなどが付着したりしているとき
 - ー カメラの向きがずれているとき
 - ー 周囲にヘッドランプや尾灯に似た光源があるとき
 - ー 対向車または先行車が無灯火のとき
 - ー 対向車のヘッドランプが破損または汚れていたり、光軸がずれているとき
 - ー 自転車やバイクなど、ライトの明るさや大きさが十分でないとき
 - ー 歩行者など光を発しないもののとき
 - ー 明るさの急激な変化が連続しているとき
 - ー 段差や起伏のある道路を走行しているとき
 - ー カーブが多い道路を走行しているとき
 - ー ミラーや標識など反射の強いものが前方にあるとき
 - ー トレーラーやコンテナなど先行車の後部の反射が強いとき
 - ー パンクやけん引などで車両が傾いているとき

フォグランプスイッチ

リヤフォグランプ★の注意事項

⚠ 警告

- **晴天時は使用しない。**
後続車の視界を悪くするおそれがあります。

ワイパー・ウォッシャースイッチ

雨滴感知式ワイパーの注意事項

⚠ 注意

- **<パワースイッチ>がONでスイッチ位置を<AUTO>にしているとき、雨滴感知センサー上部のフロントガラスに手で触れたり、水分を含んだ布などを近づけたりしない。**
ワイパーが作動しケガやワイパーの破損につながるおそれがありますので、注意してください。また、洗車時にはスイッチ位置を必ず<OFF>にしてください。



運転のしかた

ワイパー・ウォッシャーを使うときの注意事項

⚠ 警告

- 寒冷時は、ウォッシャー液を噴射する前に、ヒーターでガラスを温める。また、ウォッシャー液は外気温に合わせた希釈割合にする。
寒冷時は、ガラスに吹きつけられたウォッシャー液が凍結し、視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転支援機能

e-Pedal Step

e-Pedal Stepに関する注意事項

⚠ 警告

- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。
走行・道路状況に応じてブレーキペダルを踏んでください。
- メーターに「現在e-Pedalシステムは使用できません 減速する際はブレーキを踏んでください」と警告メッセージ（ WEB）が表示されたときは、e-Pedal Stepの機能が一時的に使用できない状態になっているため、安全な場所に停車し、一度＜パワースイッチ＞をOFFにしてから再始動してください。再始動後もメッセージが表示されるときは、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。
- 極低速は回生ブレーキを作動させずe-Pedal Step OFF同様のクリーブ現象が発生します。
停車するときは、ブレーキペダルを踏んでください。

- 減速中の減速度合いが足りない場合は、ただちにブレーキペダルを踏む。
車両が動き出したり、止まりきらなかったりして、思わぬケガや事故につながるおそれがあります。
- 過積載、急勾配、氷結路などの制動力が低下する条件では、減速度が十分でない場合があるため、必要に応じてブレーキペダルを使用する。
- 長い下り坂ではe-Pedal StepをOFFにして、シフトポジションをDまたはRに切り替える。
e-Pedal StepをONにしたままで、下り坂を走行し続けると、ブレーキの過熱を防ぐため、e-Pedal Stepが自動的にOFFに切り替わることがあります。

ドライブモードセレクター

ドライブモードセレクターの注意事項

⚠ 注意

- 走行中に＜ドライブモードセレクター＞や画面を注視しない。
前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

e-4ORCE（4WD）車の扱いかた

⚠ 警告

- e-4ORCE（4WD）車は万能ではないため、走行するときは次のことを必ず守る。
 - 渡河などの水中走行はしない
 - 砂地、ぬかるみなど、車輪が空転しやすいところでの連続走行はしない
 - 脱輪などにより車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させない

走行のしかた

⚠ 警告

- 急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはない。
タイヤがスリップしたり、横滑りや尻振りなどをおこし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABSに関する注意事項

⚠ 警告

- カーブの手前では十分に減速する。
ABSはあくまでも運転者のブレーキ操作を補助するシステムです。ABSの付いていない車両と同様に、カーブの手前では十分な減速が必要です。早めの操作で安全運転を心がけてください。
- でこぼこ道、砂利道、積雪路などでは、特に速度を控え、車間距離を十分に取る。
ABSはブレーキ時の車両の安定性、操舵性を確保しようとするための装置で、制動距離が短くなるとは限りません。でこぼこ道、砂利道、積雪路などでは、ABSの付いていない車より制動距離が長くなることがあります。このような道を走行するときは、特に速度を抑え、車間距離を十分にとって運転してください。
- タイヤ交換時は、必ず指定サイズのタイヤを4輪に装着する。
ABSは各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。指定サイズ以外ではABSが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転のしかた

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）

VDCに関する注意事項

⚠ 警告

- 滑りやすい路面やカーブの手前では速度を落とす。
この装置は車両の走行安定性を向上させるもので事故を防止するものではありません。VDCの作動にも限界があるため、滑りやすい路面やカーブの手前では、特に速度を落とし安全運転を心がけてください。
- 次の場合、VDC警告灯【】が点灯し正常に作動しないことがあるので注意する。
 - ー サスペンション、タイヤ、ブレーキなどを純正品以外に交換したり、改造したとき
 - ー サスペンション、タイヤ、ブレーキなどの関係部品が著しく摩耗および劣化した状態で走行したとき
- VDC付車でも雪道などでは冬用タイヤやタイヤチェーンを装着する。

シャシー制御

⚠ 警告

- インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）の機能を過信しない。
インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）は、すべての走行環境において効果があるわけではないため、機能を過信せず安全運転を心がけてください。

スムーズストップ

⚠ 警告

- 停車するときは、速度・車間距離などに十分注意し、確実なブレーキペダル操作を行う。
ブレーキペダル操作の不足を補ったり、タイヤやブレーキの限界性能を高めたりする機能ではありません。ブレーキペダルから足を離すとブレーキ力は維持されません。速度・車間距離などに十分注意し、安全運転を心がけてください。
- 凹凸のある路面などの悪路や急勾配の坂を走行するときは、ブレーキペダルの操作で慎重に運転する。
ブレーキペダルの踏み方や車両状態、路面状況や急勾配により、効果を発揮できない場合があります。

ヒルスタートアシスト

⚠ 警告

- ヒルスタートアシストの機能を過信しない。
凍結している路面や泥状の坂道では、車両がスリップして後退することがあります。特に安全運転を心がけてください。
緩やかな坂道ではヒルスタートアシストが作動せず後退する場合があります。その際はブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキをかけてください。
- 停車するときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ブレーキペダルを踏み続ける。
この装置は、ブレーキペダルから足を離すと約2秒間ブレーキ力を保持しますが、その後ブレーキ力が解除されます。駐車するときは確実にシフトポジションをPに入れ、パーキングブレーキをかけてください。

車両接近通報装置

⚠ 警告

- 車両接近通報装置の音が聞こえないときは、日産販売会社で点検する。
車両接近通報装置の音が聞こえないときは、安全で静かな場所に停車し、音が聞こえるか確認してください。ブレーキペダルを確実に踏みながら、シフトポジションをRにし、窓を開けて音が聞こえるか確認します。音が聞こえないときは、日産販売会社で点検を受けてください。

走行支援機能

走行支援機能

⚠ 警告

- 走行支援機能は、自動で運転する装置ではありません。運転者は交通法規を遵守し、常に周囲の状況に注意して運転してください。道路・交通・自車の状況に応じてハンドル、ブレーキ、アクセルを確実に操作し、安全な運転を行う責任があります。性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。
- レーダー、カメラ、ソナーの性能には限界があります。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。



WEB

プロパイロット

プロパイロットに関する注意事項

⚠ 警告

- プロパイロットは自動で運転する装置ではありません。また、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。運転者はシステムを過信せず、常に周囲に注意し、道路・交通・自車の状況に応じて確実にハンドル、アクセルペダル、ブレーキペダルを操作して、安全な運転を行う責任があります。
- プロパイロットは高速道路や自動車専用道路の直線や緩やかなカーブでの使用を想定して設計されています。一般道での使用は思わぬ事故につながるおそれがあるため使用しないでください。
- プロパイロットは車線中央付近を走行するようにステアリングを制御します。側方から車両が近づいてきても反応しません。交通法規を遵守する責任は運転者にあります。走行している地域や道路の交通法規を遵守し、安全な走行を行ってください。
- プロパイロットの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。自車の前への急な割り込みや先行車が急ブレーキをかけたとき、急なカーブを走行するとき、悪天候などでは、適切な減速や操舵制御が行えず先行車に接近したり、レーンマーカーに近づいたりすることがあります。先行車との車間距離、自車の車線内の位置、周囲の状況に応じて自らアクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルを操作し、常に安全運転を心がけてください。レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは、左側に引かれた線のことを示します。
- プロパイロットを解除せずに降車しないでください。

車両を停車し続ける能力をもっておりません。降車する場合は＜プロパイロットスイッチ＞を押してシステムをOFFにし、シフトポジションをPに切り替え、電動パーキングブレーキを作動させてください。

- 次のような状況では適切な制御ができず、思わぬ事故につながるおそれがあるため使用しないでください。
 - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行しているとき
 - 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
 - 急カーブや曲がりくねった道を走行しているとき
 - 急な上り坂、下り坂を走行しているとき
 - 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき
 - 料金所を通るとき
 - タイヤの空気圧が適正ではないとき
 - 摩耗しているタイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
 - 純正品以外のブレーキ部品やサスペンション部品を使用しているとき
 - レーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
 - マルチセンシングフロントカメラおよびその前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪、泥などの付着物があるとき
 - マルチセンシングフロントカメラおよび、その前方のフロントガラスにくもりや結露があるとき
 - レーダー、カメラ、ソーナーの機能を妨げるものを取り付けたとき
 - 極端に重い荷物を積んでいるとき

システム構成

⚠ 警告

- プロパイロットは次のようなものや状況には反応しません、もしくは、一部しか反応しません。
 - 歩行者、自転車、動物など
 - 落下物
 - 工事などで設置されるパイロンなど
 - 特殊な形状をした車両
 - 対向車、前方を横切る車両、車線外（路肩など）にいる車両
- 次のような状況では先行車の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に前方の状況に注意し、必要に応じてブレーキペダルやハンドルを操作してください。
 - 前方に急な割り込みがあったとき
 - 停止車両など自車速よりも極端に遅い車両がいたとき
 - 見通しの悪いカーブを走行しているとき
 - 前方に車線の端を走行する二輪車がいるとき
 - 二輪車などの幅の狭い車両が前方にいるとき
 - 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
 - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
 - 後席やラゲージルームに極端に重い荷物を積んだとき
 - 悪天候のとき（雨、霧、雪など）
- 次のような状況では正しくレーンマーカーの検出ができず車線維持機能（ハンドル支援）、車線変更支援機能が使用できないことがあります。
 - レーンマーカーが消えかかっている、汚れているなど不明瞭なとき
 - レーンマーカーが路面の色と似ており見えにくいとき
 - レーンマーカーが多重に描かれているとき

- 消されたレーンマーカーが、まだ薄く残っているとき
 - 工事などによる車線規制や仮設のレーンマーカーがあるとき
 - 料金所や交差点手前などでレーンマーカーが大きく変化しているとき
 - 車線幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
 - 停車禁止部分、または立ち入り禁止部分がある道を走行しているとき
 - 出口路、分岐路など車線数が増えるとき
 - 濡れているまたは水たまりのある路面を走行しているとき
 - 道路構造物、街路樹、建物などの影が差している路面を走行しているとき
 - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
 - 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
 - 前方から強い光（太陽光や対向車のハイビームなど）を受けているとき
 - 夜間やトンネルなどでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
 - トンネルの出入り口や日陰など急に明るさの変化が起こったとき
 - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
 - 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき
- 次のような状況では隣の車線の車両の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に周囲の状況に注意し、必要に応じてハンドルを操作してください。
- 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両が走行しているとき
 - 後方から速い速度で接近してくる車両が走行しているとき
 - 後方から近づいてくる車両が車線変更などにより隣の車線に移動したとき
 - 自車や周囲の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき

- 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
 - 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき
 - 放送局・レーダー搭載車両など周囲の電波源により影響を受けているとき
 - 悪天候のとき（雨、霧、雪など）
- 次のような場合、ドライバーモニターシステムが運転者を適切に検出できないことがあります。
- 車室内へ太陽光が入り込み、ドライバーモニターカメラまたは、運転者が照らされているとき
 - 太陽光の入り込みと影になることが繰り返すとき
 - サングラス、マスク、眼帯、帽子、マフラーなどを着用している場合など目、鼻、口や顔の輪郭が隠れているとき
 - 顔とシステムとの間に遮る物があるとき
 - ドライバーモニターカメラに触れ、汚れや指紋が付着したとき
 - 助手席や後席シートの方が運転席付近に身を乗り出したときなど、運転席付近に2つ以上の顔が存在するとき
 - 前方からの太陽光の眩しさなどで目を細めたり、運転姿勢をくずしていたりしているとき
- フロントレーダー、サイドレーダーの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。
- 状況によってはレーダーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。
- このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがあるため、常に周囲に注意して走行してください。またフロントレーダー、サイドレーダーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。
- ➡ WEB
- フロントカメラの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。

状況によってはフロントカメラが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。

このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがあるため、常に前方に注意して走行してください。またフロントカメラおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

➡ WEB

- ドライバーモニターカメラの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。
- 状況によってはドライバーモニターカメラが汚れていても判定できない場合があります。またドライバーモニターカメラに触れ、汚れや指紋が付着したときも判定できない場合があります。このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがあるため、常に前方に注意して走行してください。またドライバーモニターカメラおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

➡ WEB

プロパイロットの使いかた

■ 車間距離設定のしかた

⚠ 警告

- プロパイロットは脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。
- 先行車との車間距離、車線内の位置、周囲の状況に応じてアクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルを操作するなどして、常に安全運転を心がけてください。

運転のしかた

■ 一時的に加速、減速をしたいとき

⚠ 警告

- アクセルペダルを操作して加速しているときは、ブレーキ制御、接近警報を行いません。通常、車間制御中は先行車の速度に合わせて自動的に加速、減速を行います。車線変更などで加速が必要なときや、先行車が急減速したり、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどはアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。

■ プロパイロットの解除のしかた

⚠ 警告

- プロパイロットをOFFにせずに降車しないでください。降車する場合は<プロパイロットスイッチ>を押してシステムをOFFにし、電動パーキングブレーキを作動させ、シフトポジションをPにしてください。

システム作動

⚠ 警告

- 運転者は周囲の状況に注意し、必要に応じてブレーキペダルを操作してください。車速・車間制御機能で停車したあと、前方に車両が割り込んできた場合、位置や車両の向きによっては検出することができず、先行車が発進すると自車も動き出し割り込んできた車両に接近するおそれがあります。

ルート減速支援機能（プロパイロット2.0付車）（プロパイロット（ナビリンク機能付）付車）

⚠ 警告

- ルート減速支援機能の性能には限界があります。ルート減速支援機能は、すべての走行状況、交通環境、天候、路面状況で作動するわけではありません。運転者は周囲の状況に応じて自らアクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルを操作し、常に安全運転を心がけてください。
- ルート減速支援機能は、車両のブレーキにより走行を止める機能ではありません。前方に障害物が存在する場合など、減速や停車が必要なときは必ず運転者が自ら適切なブレーキ操作を行ってください。
- 運転者は走行している道路の制限速度を確認し、設定車速を適切に設定し、安全運転を心がけてください。
- 次のような状況では、ルート減速支援機能が適切に作動しない場合があります。路面状況や交通環境に応じてアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。
 - NissanConnectインフォテインメントシステムが地図サーバーから地図データを取得できないとき
 - NissanConnectインフォテインメントシステムの地図データが最新ではない、または利用できないとき
 - NissanConnectインフォテインメントシステムが新しいルートを探しているとき
 - NissanConnectインフォテインメントシステムの位置検出が正しく行えないとき
 - NissanConnectインフォテインメントシステムの地図にない道路を走行しているとき

- NissanConnectインフォテインメントシステムのライセンス期限が切れているとき
- 工事中の道路や車線規制がある道路を走行しているとき
- 車線の分岐・合流のある道路、または交差点付近を走行しているとき
- 悪天候のとき（雨、霧、雪、強風など）や、道路状況の悪い場所を走行しているとき
- 料金所への進入直前に車線変更したとき（料金所に対するルート減速支援）
- 料金所に対するルート減速支援は、次のような状況の検知には対応していないため、ブレーキペダルを踏んで状況に応じた適切な減速または停車を行ってください。
 - ETCゲートの開閉
 - ETCシステムの利用状態

制限速度支援機能の作動（プロパイロット2.0付車）（プロパイロット（ナビリンク機能付）付車）

⚠ 警告

- 次のような場合は、標識検知機能が最高速度標識を検出しても、設定車速に反映されない場合があります。
 - 標識検知機能が適切に作動していないとき
 - システムをOFFに設定しているとき
 - NissanConnectインフォテインメントシステムの位置検出が正しく行えないとき
 - NissanConnectインフォテインメントシステムの地図にない道路を走行しているとき
 - 高速道路、または自動車専用道路の出口に近づいたとき
 - 自車の路線と並行する路線があるとき（インターチェンジ、サービスエリア、

運転のしかた

パーキングエリアなど本線から出る路線)

- 自車の路線と並行する側道の両車線に最高速度標識が表示され、それぞれが異なる制限速度を検出しているとき
- 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムとフロントカメラにより、ナビゲーションの道路種別と走行している道路の種別が一致しないと判定したとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムの地図データが最新ではない、または利用できないとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムが地図サーバーから地図データを取得できないとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムのライセンス期限が切れているとき

車線維持機能（ハンドル支援）について

⚠ 警告

- 車線中央付近を走行するようにステアリングを制御します。側方の車両が近づいても反応しません。
- 手放し運転はしない。
プロパイロット2.0★、プロパイロット（ナビリンク機能付）★で手を離して走行できることを除き、必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。

車線維持機能（ハンドル支援）の解除（プロパイロット2.0付車）

⚠ 警告

- 警告画面が表示されたときは、すみやかにハンドルを操作してください。

車線維持機能（ハンドル支援）の解除（プロパイロット（ナビリンク機能付）付車）

⚠ 警告

- 警告画面が表示されたときは、すみやかにハンドルを操作してください。

運転者が前方の状況に注意していないと判断したとき（プロパイロット2.0付車）（プロパイロット（ナビリンク機能付）付車）

⚠ 警告

- 運転者は常に前方に注意し、運転してください。

運転者がハンドルを持っていないと判断したとき

⚠ 警告

- ハンドル支援作動灯が緑色のときは、必ずハンドルを持って運転してください。

側方注意検知

⚠ 警告

- 側方の車両が近づいてきても反応しません。
合流部、カーブを走行するとき、また大型車両が隣の車線を走行しているときは特に周辺車両に注意し、必要に応じてハンドル操作をしてください。

車線変更支援機能について（プロパイロット2.0付車）

⚠ 警告

- 運転者は道路、交通、自車の状況に応じて、安全に車線変更を行う責任があります。
車線変更をするときは、必ず周囲の状況を確認し、安全に目的の車線に移動してください。
- 車線変更支援機能には、衝突を回避するためにステアリング制御する機能はありません。
車線変更をするときは、必ずハンドルを持ち、安全に目的の車線に移動してください。

運転者がハンドルを持っていないと判断したとき（プロパイロット2.0付車）

⚠ 警告

- 車線変更を行うときは、必ずハンドルを持って運転してください。
- 緊急警報音（ブザー）が鳴り、自車が減速したとき非常点滅表示灯が自動で作動します。このときハンドル操作をすると非常点滅表示灯は自動で消灯します。徐々に減速

運転のしかた

して走行車線上で完全に停車し、電動パーキングブレーキが自動的に作動します。また、運転席ドアが自動的に解錠されます。

車線変更支援機能について（プロパイロット（ナビリンク機能付）付車）

⚠ 警告

- 運転者は道路、交通、自車の状況に応じて、安全に車線変更を行う責任があります。車線変更をするときは、必ず周囲の状況を確認し、安全に目的の車線に移動してください。
- 車線変更支援機能には、衝突を回避するためにステアリング制御する機能はありません。車線変更をするときは、必ずハンドルを持ち、安全に目的の車線に移動してください。

運転者がハンドルを持っていないと判断したとき（プロパイロット（ナビリンク機能付）付車）

⚠ 警告

- 車線変更を行うときは、必ずハンドルを持って運転してください。
- 緊急警報音（ブザー）が鳴り、自車が減速したとき非常点滅表示灯が自動で作動します。このときハンドル操作をすると非常点滅表示灯は自動で消灯します。徐々に減速して走行車線上で完全に停車し、電動パーキングブレーキが自動的に作動します。また、運転席ドアが自動的に解錠されます。

追い越し支援機能について（プロパイロット2.0付車）

⚠ 警告

- 運転者は道路、交通、自車の状況に応じて、安全に車線変更を行う責任があります。車線変更をするときは、必ず周囲の状況を確認し、安全に目的の車線に移動してください。
- 追い越し支援機能には、衝突を回避するためにステアリング制御する機能はありません。車線変更をするときは必ずハンドルを持ち、安全に目的の車線に移動してください。

運転者がハンドルを持っていないと判断したとき（プロパイロット（ナビリンク機能付）付車）

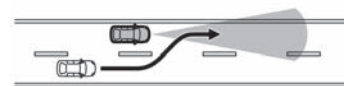
⚠ 警告

- 車線変更を行うときは、必ずハンドルを持って運転してください。
- 緊急警報音（ブザー）が鳴り、自車が減速したとき非常点滅表示灯が自動で作動します。このときハンドル操作をすると非常点滅表示灯は自動で消灯します。徐々に減速して走行車線上で完全に停車し、電動パーキングブレーキが自動的に作動します。また、運転席ドアが自動的に解錠されます。

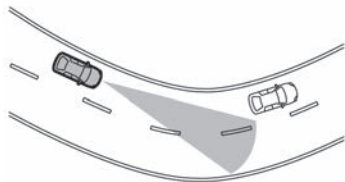
プロパイロット2.0／プロパイロット（ナビリンク機能付）に関する注意事項

⚠ 警告

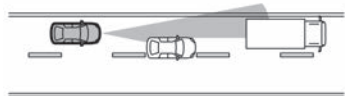
- プロパイロット2.0／プロパイロット（ナビリンク機能付）は次のようなものや状況に反応しません、もしくは、一部しか反応しません。
 - 歩行者、自転車、動物など
 - 落下物
 - 工事などで設置されるパイロンなど
 - 特殊な形状をした車両
 - 対向車、前方を横切る車両、車線外（路肩など）にいる車両
- 次のような状況では先行車の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に前方の状況に注意し、必要に応じてブレーキやハンドルを操作してください。
 - 前方に急な割り込みがあったとき



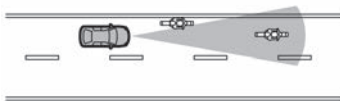
- 見通しの悪いカーブを走行していると



- 前方の車両が車線変更したあとで、さらに前方に停車中の車両や自車速よりも極端に遅い車両がいたとき



- 前方に車線の端を走行する二輪車がいるとき

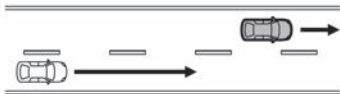


- 二輪車などの幅の狭い車両が前方にいるとき
- フロントレーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
- 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
- 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
- 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき
- カーブを走行しているときや車線変更を行っているときなど、道路形状や自車の状況によっては、隣の車線の車両や周辺のものを検出して減速したり、警報が作動したりする場合があります。
- 高速道路などで、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどに進入する（本線から出る）とき本線上で車速・車間制御機能により設定車速よりも遅い車速で走行する先行車に追従走行している場合には、自車または先行車の車線変更などで、自車線上に先行車を検出しなくなることにより設定車速まで自動的に加速するため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 次のような状況では正しくレーンマーカーの検出ができず車線維持機能（ハンドル支援）、車線変更支援機能が使用できないことがあります。
 - レーンマーカーが消えかかっている、汚れているなど不明瞭なとき

- レーンマーカーが路面の色と似ており見えにくいとき
- レーンマーカーが多重に描かれているとき
- 消されたレーンマーカーが、まだ薄く残っているとき
- 工事などによる車線規制や仮設のレーンマーカーがあるとき
- 料金所や交差点手前などでレーンマーカーが大きく変化しているとき
- 車線幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 停車禁止部分、または立ち入り禁止部分がある道を走行しているとき
- 出口路、分岐路など車線数が増えるとき
- 濡れているまたは水たまりのある路面を走行しているとき
- 道路構造物、街路樹、建物などの影が差ししている路面を走行しているとき
- 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
- 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
- カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などが付着しているとき
- カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
- 前方から強い光（太陽光や対向車のハイビームなど）を受けているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
- トンネルの出入り口や日陰など急に明るさの変化が起こったとき
- 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
- 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき
- 次のような状況では隣の車線の車両の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に周囲の状況に注意し、必要に応じてハンドルを操作してください。

運転のしかた

- 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両が走行しているとき
- 後方から速い速度で接近してくる車両が走行しているとき



- 後方から近づいてくる車両が車線変更などにより隣の車線に移動したとき



- サイドレーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
- 自車や周囲の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
- 放送局・レーダー搭載車両など周辺の電波源により影響を受けているとき
- 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
- 後席やラゲージルームに極端に重い荷物を積んだとき

- 次のような状況では、車線維持機能（ハンドル支援）（プロパイロット2.0付車）、車線維持機能（ハンドル支援）（プロパイロット（ナビリンク機能付）付車）、車線変更支援機能（プロパイロット2.0付車）、車線変更支援機能（プロパイロット（ナビリンク機能付）付車）、追い越し支援機能（プロパイロット2.0付車）が作動しない場合があります。

- NissanConnectインフォテインメントシステムが地図サーバーから地図データを取得できないとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムの地図データが最新ではない、または利用できないとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムが新しいルートを探しているとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムの位置検出が正しく行えないとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムの地図にない道路を走行しているとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムとフロントカメラにより、ナビゲーションの道路種別と走行している道路の種別が一致しないと判定したとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムのライセンス期限が切れているとき

⚠ 注意

- 次のような場合、ドライバーモニターシステムが運転者を適切に検出できないことがあります。
- 車室内へ太陽光が入り込み、ドライバーモニターカメラまたは、運転者が照らされているとき
- 太陽光の入り込みと影になることが繰り返すとき

- サングラス、マスク、眼帯、帽子、マフラーなどを着用している場合など目、鼻、口や顔の輪郭が隠れているとき
- 顔とシステムとの間に遮る物があるとき
- ドライバーモニターカメラに触れ、汚れや指紋が付着したとき
- 助手席や後席の方が運転席付近に身を乗り出したときなど、運転席付近に2つ以上の顔が存在するとき
- 前方からの太陽光の眩しさなどで目を細めたり、運転姿勢をくずしていたりしているとき

- フロントレーダー、サイドレーダーの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。

状況によってはレーダーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。

このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがあるため、常に周囲に注意して走行してください。またフロントレーダー、サイドレーダーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

🌐 WEB

- フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺の塗装修理はできません。誤った塗装修理を行うと、本来の機能を発揮できなくなる可能性があります。適切な修理を行うため、日産販売会社にご相談ください。

🌐 WEB

- フロントカメラの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。

状況によってはフロントカメラが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。

このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがあるため、常に前方に注意して走行してください。またフロントカメラ

運転のしかた

おおよその周辺はいつもきれいにしておいてください。

⑨ WEB

- 状況によっては外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

定速制御機能について

⚠ 警告

- 定速制御中は車間制御を行わないため、ブレーキ操作も警報も行いません。先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

インテリジェントディスタンスコントロール★

インテリジェントディスタンスコントロールに関する注意事項

⚠ 警告

- インテリジェントディスタンスコントロールは、自動で運転する装置ではなく、運転者の車間距離維持操作を支援する運転支援システムです。また、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨・霧などの視界不良での運転操作を補助するものではなく、追突を防止する機能も備えていません。運転者はシステムを過信せずに、常に周囲に注意を払い、道路・交通・自車の状況に応じてブレーキペダル、アクセルペダル、ハンドルを確実に操作して、安全な運転を行う責任があります。
- インテリジェントディスタンスコントロールは、直線や緩やかなカーブの、見通しが

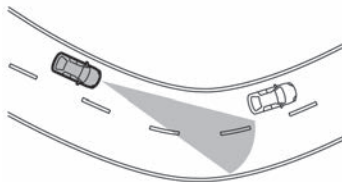
良く障害物の少ない道路環境での使用を想定して設計されています。

- インテリジェントディスタンスコントロールは、同一方向に走行する車両を検出し、車間距離を保つようにブレーキを制御します。対向車、前方を横切る車両、車線外（路肩など）にいる車両、歩行者、自転車、工事用のパイロン、落下物などの車両以外のものに反応しません。
- 運転者がアクセルペダルまたはブレーキペダルを操作している間は、システムによる減速制御や接近警報は行われません。
- 先行車が停止した場合、インテリジェントディスタンスコントロールはシステムの性能の範囲内で自車を減速・停止させ、停止後はその状態を保持します。
- インテリジェントディスタンスコントロールの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。自車の前への急な割り込みや先行車が急ブレーキをかけたとき、下り坂を追従走行しているとき、急なカーブを走行するとき、または悪天候などでは、適切な減速制御が行えず先行車に接近することがあります。先行車との車間距離や周囲の状況に応じて、自らブレーキペダル、アクセルペダルを操作し、常に安全運転を心がけてください。
- インテリジェントディスタンスコントロールを解除せずに降車しないでください。車両を停車し続ける能力を持っていません。降車する場合は、シフトポジションをPに切り替え、電動パーキングブレーキを作動させてください。
- 次のような状況では、適切な制御ができず、思わぬ事故につながるおそれがあるため、使用しないでください。
 - ー 凍結路や積雪路など、滑りやすい路面を走行しているとき
 - ー 悪天候（雨、雪、霧など）のとき

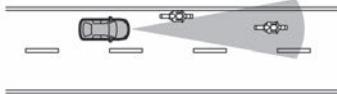
- ー 急カーブや曲がりくねった道を走行しているとき
- ー 急な下り坂（先行車を検出していてブレーキ制御をしている場合、ブレーキが過熱してしまうおそれがあります）
- ー 急な上り坂、下り坂が繰り返される道路を走行しているとき
- ー 料金所を通るとき
- ー タイヤの空気圧が適正ではないとき
- ー 摩耗しているタイヤ、日産純正部品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
- ー 純正部品以外のブレーキ部品やサスペンション部品を使用しているとき
- ー レーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
- ー マルチセンシングフロントカメラおよびその前方のフロントガラスに、汚れ、油膜、水滴、氷、雪、泥などの付着物があるとき、またはくもりや結露があるとき
- ー レーダー、カメラの機能を妨げるものを取り付けたとき
- ー 極端に重い荷物を積んでいるとき
- インテリジェントディスタンスコントロールは、次のような障害物には反応しません。
 - ー 歩行者、動物など
 - ー 落下物
 - ー 工事などで設置されるパイロンなど
 - ー 特殊な形状をした車両
- 次のような状況では先行車の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に前方の状況に注意し、必要に応じてブレーキやハンドルを操作してください。
 - ー 前方に急な割り込みがあったとき



- 停止車両など自車速よりも極端に遅い車両がいたとき
- 見通しの悪いカーブを走行しているとき



- 前方に車線の端を走行する二輪車がいるとき



- 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
- 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
- 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき
- カーブを走行しているときや車線変更を行っているときなど、道路形状や自車の状況によっては、隣の車線の車両や周辺のものを検出して減速したり、警報が作動したりする場合があります。
- フロントレーダーの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。状況によってはレーダーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に周囲に注意して走行してください。またフロントレーダー、サイドレーダーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。
- ➡ WEB
- フロントカメラの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。状況によってはフロントカメラが汚れていても判定できない場合があります。また

雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。
このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。またフロントカメラおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

➡ WEB

ルート減速支援機能（前方支援）（インテリジェントディスタンスコントロール（ナビリンク機能付）付車）

⚠ 警告

- ルート減速支援機能の性能には限界があります。
ルート減速支援機能は、すべての走行状況、交通環境、天候、路面状況で作動するわけではありません。運転者は周囲の状況に応じて自らアクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルを操作し、常に安全運転を心がけてください。
- ルート減速支援機能は、車両のブレーキにより走行を止める機能ではありません。前方に障害物が存在する場合など、減速や停車が必要なときは必ず運転者が自ら適切なブレーキ操作を行ってください。
- 運転者は走行している道路の制限速度を確認し、状況に応じて適切な速度で走行し、安全運転を心がけてください。
- 次のような状況では、ルート減速支援機能が適切に作動しない場合があります。
路面状況や交通環境に応じてアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。
- NissanConnectインフォテインメントシステムが地図サーバーから地図データを取得できないとき

- NissanConnectインフォテインメントシステムの地図データが最新ではない、または利用できないとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムが新しいルートを探索しているとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムの位置検出が正しく行えないとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムの地図にない道路を走行しているとき
- 工事中の道路や車線規制がある道路を走行しているとき
- 車線の分岐・合流のある道路、または交差点付近を走行しているとき
- 悪天候のとき（雨、霧、雪、強風など）や、道路状況の悪い場所を走行しているとき
- 料金所への進入直前に車線変更したとき（料金所に対するルート減速支援）
- **料金所に対するルート減速支援は、次のような状況の検知には対応していないため、ブレーキペダルを踏んで状況に応じた適切な減速または停車を行ってください。**
 - ETCゲートの開閉
 - ETCシステムの利用状態

インテリジェント エマージェンシーブレーキ

システムに関連する表示



- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
インテリジェントエマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突回避操作の支援、または衝突時の被害や傷害の軽減を目的と

しています。あらゆる状況で効果があるわけではありません。
必ず周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を十分に維持して、安全運転を心がけて走行してください。

- **レーダーやマルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。**



インテリジェント エマージェンシーブレーキに関する注意事項



- **次のような障害物は検知しません。**
 - 子供などの背の低い人、動物
 - 道路構造物（ガードレール、ポールなど車両と歩行者、人が乗車している自転車以外の障害物）
- **システムは車両の後端を認識するため、次の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。**
 - バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
 - 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
 - 斜めもしくは対面で止まっている車両
- **次のような場合は、前方の車両、対向車や歩行者、人が乗車している自転車を検知できないことがあります。**
 - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
 - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
 - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などの付着やワイパーのふき残しがあるとき
 - カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき

- 前方から強い光（太陽光や対向車のハイビームなど）を受けているとき
- 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
- 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
- トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
- カーブを走行しているとき
- 勾配の変化があるところを走行しているとき
- 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
- 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
- 太陽光などが前方車両から強く反射しているとき
- 対象物の位置や動きが大きく変化した場合（自車の車線変更・右左折、前方車両の右左折・急ハンドル・急加速・急減速など）
- e-POWERシステムを始動してから約15秒間
- e-POWERシステム始動後、走行してからインテリジェントエマージェンシーブレーキシステムが1回も障害物を検知していないとき
- カメラの視界が遮られているとき（フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード）
- カメラの向きがずれているとき
- 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行しているとき
- 子供用の自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、

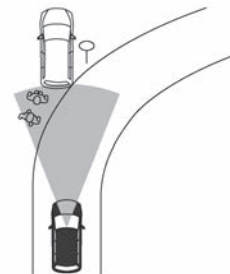
または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）

- 次の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。
 - － 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合
 - － 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにある場合
 - － 対象物が路面の水たまりの付近にある場合（周りの風景が水たまりに映り込むなど）
 - － 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき
 - － 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき
- 次の対象物にはシステムが作動しない場合があります。
 - － 歩行者、人が乗車している自転車の移動速度が速いとき
 - － 対向して接近する歩行者、自転車
 - － 歩行者の姿勢や手足の状態（手を上げているなど）により、歩行していると特定できないとき
 - － 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者
 - － 車高の低い車両または最低地上高（地面から車体までの高さ）が極端に低いもしくは極端に高い車両
 - － 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
 - － 前方の至近距離に割り込んだ車両
 - － 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者、自転車
 - － 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者、人が乗車している自転車
 - － 後端面積が小さい車両（空荷のトラックなど）
 - － リヤタイヤから車両後端までが長い車両
 - － 四輪車以外の車両（二輪車など）
 - － 荷台から荷物や幌がはみ出している車両

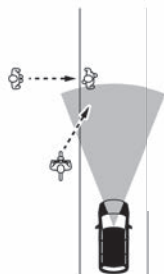
- － ショッピングカート、ベビーカー、自転車などを押しているとき
- 次の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。
 - － 複数の対象物同士が近接している場合
 - － 衝突するおそれのある対象の二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合
- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。
- 次のような場合は、システムが機能を十分に発揮できないことがあります。
 - － 滑りやすい路面を走行しているとき
 - － 勾配のある路面を走行しているとき
 - － 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
 - － 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
 - － 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
 - － 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき
 - － 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、日産純正品以外のタイヤ、日産販売会社以外で購入したタイヤを使用しているとき
 - － タイヤチェーンを装着しているとき
 - － 純正品以外のブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
 - － 車両が傾いているとき（車両後部に極端に重い荷物を積んでいるとき）
- 路面または壁面の影や模様・ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示、濡れた路面に映り込んだ模様、わたちなどや光の反射を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、道路脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール、カーブミラー、電柱や電線、看板）などで構成される形状が、車両や歩行者、自転車の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ・

位置などと似通っている場合、システムが作動する場合があります。

- 右左折中の先行車にシステムが作動を継続する場合があります。
- 前の車両に接近し追い越す場合、システムが作動する場合があります。
- 道路形状（カーブ、カーブの出入り口、ワインディング、車線規制や工事中など）によっては、一時的に自車正面の対向車にシステムが作動する場合があります。
- 自転車で走行している人を歩行者と検知し、システムが作動する場合があります。
- 次のような物に反応し、システムが作動する場合があります。
 - － 自転車で走行している人を歩行者と検知し、システムが作動する場合があります。
 - － 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、自転車、人が乗車している自転車、車両など）



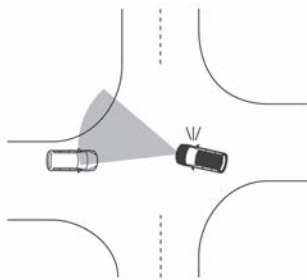
- － 道幅が狭い路地などを走行する際の歩行者・人が乗車している自転車
- － 路肩の障害物を避けるため、一時的に自車前方の走行レーンにはみ出したり、近づいたりする歩行者や人が乗車している自転車



- 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）
- 駐車場内にある物（梁など）
- 走行車線または隣接する車線の歩行者、車両など
- 走行車線または隣接する車線に近づいてくる歩行者、車両など
- 対向して接近する歩行者
- 走行路にある物（近接する樹木など）

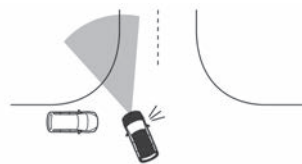
交差点支援（右左折）について

- 交差点支援（右左折）は次のような障害物を検知しません。
 - 自車正面の対向車

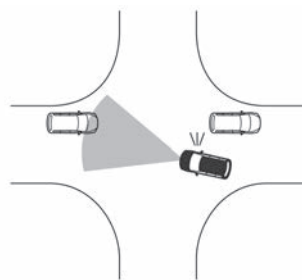


- 次の場合、交差点支援（右左折）が正しく作動しないか、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。

- 対向車から2車線以上離れた車線を走行しているとき
- 対向車が自車の正面から大きく外れているとき
- 対向車線を横断しているときに、対向車が接近してきたとき



- 急カーブを曲がるとき
- 中央線を認識していないとき
- 対向車が連続しているとき



- 車線幅が極端に広いもしくは狭いとき
- 中央線が道路標示の近くにあるとき

- 次の場合、衝突のおそれがあるとシステムが判断し、交差点支援（右左折）が作動する場合があります。
 - 対向車または横断歩行者が前方を通過したとき

- 対向車または横断歩行者の手前を通過しようとしたとき
- 対向車または横断歩行者が自車の進路に入る手前で停止したとき
- 対向車が自車の前方で右折または左折したとき

- 次のようなものに反応し、交差点支援（右左折）が作動する場合があります。
 - 急ハンドルや急減速などで、動きが予測できない対向車

交差点支援（出会頭車両）★について

- 次の場合、交差点支援（出会頭車両）は車両を検知できない場合があります。
 - 車両の全長が長い場合（大型トラック、トレーラーなど）
 - 車両が構造物や他の車両によって隠れている場合
- 次の場合、交差点支援（出会頭車両）は、車両が接近していなくても作動する場合があります。
 - 壁、ガードレール、または他の車両など、電波を反射する物体が自車に近い場合
 - 車両の上を横切る物体がある場合（高架道路など）

衝突回避ステアリングアシスト

システムに関連する表示

⚠ 警告

- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。
衝突回避ステアリングアシストは、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突回避操作を支援することを目的としています。あらゆる状況で効果があるわけではありません。
必ず周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を十分に維持して、安全運転を心がけて走行してください。

運転のしかた

- レーダーやマルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。

➡ WEB

踏み間違い衝突防止アシスト

システムに関連する表示

⚠ 警告

- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。
踏み間違い衝突防止アシストは、アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違いにより引き起こされる暴走や衝突事故の軽減を目的とした補助機能です。あらゆる状況で効果があるわけではありません。運転者は周囲の安全確認を行い、常に注意深い運転操作を心がけて走行してください。
- ソナーやマルチセンシングフロントカメラ、インテリジェントアラウンドビューモニターカメラ（リヤビューカメラ）の性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。

➡ WEB

踏み間違い衝突防止アシストに関する注意事項

⚠ 警告

- 故意にアクセルペダルを踏み込まない。
車両が急に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。また、低速加速抑制機能は、アクセルペダルをゆっくりと深く踏み込んだときには作動しません。

- 次の場合は、予期せずシステムが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあるため、踏み間違い衝突防止アシストをOFFにする。

- トレーラーなどに積載するとき
- 点検などでシャシーダイナモを使用するとき
- 純正品以外のサスペンション部品を使用しているとき
(車高や車両の傾きが変わると正しく障害物を検知できないことがあります)
- センサーを妨げるようなバイクラックなどを装着しているとき

- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- ブレーキ制御は短時間しか作動しません。
必ず運転者がブレーキペダルを踏んでください。

低速加速抑制機能が作動したあとに低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは、車両が停車してから約2秒後にブレーキが解除され、車両が動き出します。

⚠ 注意

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- システムの作動を待たず、すみやかにブレーキ操作を行う。
車両の状態、走行状況、交通環境、天候、路面状況などにより作動しない場合や、本来の性能を発揮できないことがあります。
- アクセルペダルを踏んだ状態で障害物に接近したときは、作動が遅れることがあります。

BSW（後側方車両検知警報）降車時警報機能付／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）

システムに関連する表示

⚠ 警告

- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。
BSW（後側方車両検知警報）およびインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）は、ドアミラーによる周囲の検知を代わりに行ったり、車両や障害物との接触を防いだりする機能ではありません。車線変更時は、機能に頼った確認をせず、必ずドアミラーおよびルームミラーで側方および後方の安全を確認してください。
- 車のドアを開けたり降車したりするとき、降車時警報機能は、他の車両や自転車、障害物との接触を防いだりする機能ではありません。車のドアを開けたり降車したりするときは、必ず周囲の安全を確認してください。
- レーダーやマルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。

➡ WEB

作動するとき・しないとき

⚠ 注意

- 車線変更を行うときは、必ずドアミラーおよびルームミラーを使用して周囲の安全を確認する。
自車より極端に速い速度で接近してくる車両は検知できないことがあります。

BSW（後側方車両検知警報）降車時警報機能付／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）に関する注意事項

⚠ 警告

- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるためインテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）を使用しないでください。
 - 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
 - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
 - 急なカーブ、急な上り坂・下り坂が繰り返されるとき
 - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
 - 車線の幅が狭い道路を走行するとき
 - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スベアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき
 - 日産純正品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- 次のような車両は、正確に検知できず、システムが正しく作動しないおそれがあります。
 - 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両

- 停車状態から検知範囲に居続ける車両（降車時警報機能を除く）
- 後方から速い速度で接近してくる車両
- 自車が速い速度で追い越した車両（降車時警報機能を除く）
- 合流や車線変更で自車の横にほぼ同じ速度で移動してきた車両（降車時警報機能を除く）
- 自転車（降車時警報機能を除く）
- 後方からゆっくり近づいてくる車両や自転車はレーダーセンサーで検出できず、降車時警報機能が作動しない場合があります。
- 次のような状況では、降車時警報機能に関するレーダーの他車を検出する能力が低下する場合があります。
 - 駐車車両、壁、またはその他の静止物体がレーダーセンサーの検知範囲内にあるとき
 - 車や自転車が静止状態から動き出したとき
 - 車両を斜面に駐車しているとき
 - 車両をカーブに駐車しているとき
 - 車両を道路に対して斜めに駐車しているとき
 - 接近してきた車や自転車が方向転換したとき
- 次のような状況では、隣の車線の車両を検知できないことがあります。
 - 放送局・レーダー搭載車両など周辺の電波源により影響を受けているとき
 - 車線の幅が極端に広い道路を運転しているとき
 - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
 - 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
 - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- 次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります（降車時警報機能を除く）。
 - 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、

水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき

- 急なカーブのある道路を走行するとき
- 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
- 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報したり、制御したりする場合があります）
- 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき
- 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
- 先行車との車間距離が短く、マルチセンシングフロントカメラの検出範囲が遮られるとき
- 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
- 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき
- 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
- 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）
- レーダーセンサー周辺へのステッカー（透明なものを含む）の貼り付け、アクセサリ類の取り付け、追加の塗装をしないでください。
車両を検知する性能が低下するおそれがあります。

⚠ 注意

- レーダーセンサーは次のような障害物は検知しません。
 - 歩行者、動物、対向車など
※状況によっては検出する場合があります。

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）

システムに関連する表示

⚠ 警告

- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。
LDW（車線逸脱警報）／インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）は、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。周囲の状況に応じてハンドルの操作を行い、常に安全運転を心がけてください。
- マルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。



LDW（車線逸脱警報）／インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）に関する注意事項

⚠ 警告

- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるため、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）を使用しないでください。
 - 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
 - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
 - 急なカーブ、急な上り坂・下り坂が繰り返されるときのとき
 - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき

- 車線の幅が狭い道路を走行するとき
- 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき
- 日産純正品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- 次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。
 - 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
 - 急なカーブのある道路を走行するとき
 - 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
 - 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報する場合があります）
 - 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき
 - 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
 - 先行車との車間距離が短く、カメラの検出範囲が遮られるとき
 - 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
 - 汚れなどでヘッドランプの明るさが十分でないときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき
 - 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
 - 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）

インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）

システムに関する表示

⚠ 警告

- インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）は前方を走行する2台前の車両の急な減速などを検知したとき運転者に警報を行います、衝突を回避する機能はありません。
- インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）は脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。前方の車両との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。
- レーダーの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。



インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）に関する注意事項

⚠ 警告

- 次のような障害物は検知しません。
 - 歩行者、自転車、動物、道路上に落ちている障害物
 - 対向車
 - 前方を横切って通過する車両
- 次のような場合は、前方の2台前の車両を検知できないことがあります。
 - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき

運転のしかた

- 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
- 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
- トンネル内を走行しているとき
- 前方の車両がけん引を行っているとき



RCTA（後退時車両検知警報）は、運転者の代わりに周囲を確認したり、車両と障害物との接触を防いだりする機能ではありません。駐車スペースから後退するときは、機能に頼らず、必ず運転者自身で周囲の安全を確認してください。

- レーダーの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。

➡ WEB



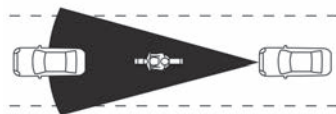
- 前方の車両がオートバイのような幅の狭い車両のときは、前方の車両を検知できず、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は警報を行わないことがあります。

RCTA（後退時車両検知警報）に関する注意事項

⚠ 警告

- 後退する前に、必ず目視で周囲の状況を確認してください。レーダーセンサーは接近している（動いている）車両を検知します。次のようなものは検知できないことがあります。
 - 歩行者、自転車、動物、児童用の玩具の車など
 - 約30km/h以上の速度で通過する車両
 - 約8km/h以下の速度で通過する車両
- 次のような状況では、レーダーセンサーが接近する車両を検知できないことがあります。
 - 隣に駐車している車両などが、レーダーセンサーの検出エリアを妨げているとき

- 前方の車両との距離が極端に近いとき



- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

RCTA（後退時車両検知警報）

システムに関連する表示

⚠ 警告

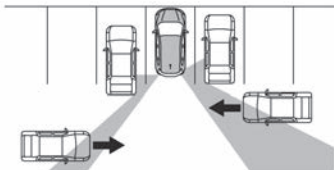
- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。

- 急なカーブや、勾配の変化があるところを走行しているとき



運転のしかた

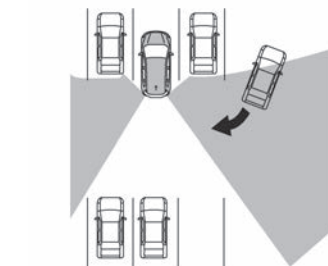
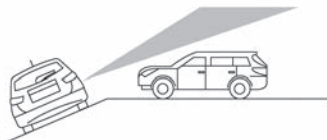
- 一 回り込むようにして自車後方へ車両が接近してきたとき



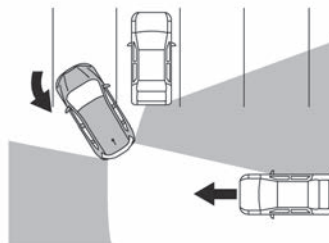
- 一 駐車枠線が斜めに引かれた駐車場に駐車しているとき



- 一 傾斜した地面に駐車しているとき



- 一 接近してきた車両の向きが、自車の向きと同じまたはそれに近いとき



- 次のような場合は、思わぬ事故につながるおそれがあるため、システムを使用しないでください。
 - 一 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
 - 一 放送局・レーダー搭載車両など周辺の電波源により影響を受けているとき
 - 一 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
 - 一 雪や氷、泥などがレーダーセンサー付近に付着しているとき
- レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないように設計されていますが状況

によっては、ガードレール、壁、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。

- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。
- レーダーセンサー周辺へのステッカー（透明なものを含む）の貼り付け、アクセサリ類の取り付け、追加の塗装をしないでください。
車両を検知する性能が低下するおそれがあります。

インテリジェント DA（ふらつき警報）

システムに関連する表示

⚠ 警告

- 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。
このシステムは疲労時の運転を補助するものではありません。疲労時の運転は重大な事故にいたる危険があるため、運転前に十分に休憩をとり、安全運転を心がけてください。

標識検知機能

システムに関連する表示

⚠ 警告

- 走行中は運転者の責任で実際の標識を確認する。
標識検知機能は、運転者の安全運転を支援する機能です。
標識検知機能には限界があり、状況によっては標識を検知できなかったり、実際とは異なる標識を表示したりする場合があります。

運転のしかた

運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。

- マルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。



標識検知機能に関する注意事項

警告

- 次のような場合は、標識の検知が遅れたり、検知できなかったりすることがあります。
 - ― 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
 - ― カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪、虫汚れなどが付着しカメラの視界が遮られているとき
 - ― カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
 - ― 前方から強い光（太陽光や対向車のハイビームなど）を受けているとき
 - ― 前方車両から反射した強い光（太陽光など）を受けているとき
 - ― トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
 - ― 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
 - ― 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
 - ― 勾配の変化があるところを走行しているとき
 - ― 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
 - ― 隣を走る車で視界が遮られているとき
 - ― 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
 - ― 標識の周辺が煩雑で標識を認識しにくいとき

- ― 標識が自転車から遠く離れた位置にあるとき
- ― 夜間で標識に自転車のヘッドランプの光が届きにくい位置にあるとき
- ― 標識が色あせたり、折れ曲がったりしているとき
- ― 標識が破損しているなど形状が変わってしまっているとき
- ― 標識が泥、雪、または霜などで覆われているとき
- ― 標識の一部が樹木や汚れなどによって隠れて不明瞭なとき
- ― 標識に光（街灯など）や影が映り込んでいるとき
- ― 標識が大きすぎたり、小さすぎたりするとき
- ― 標識が低すぎたり、高すぎたりするとき
- ― 標識が明るすぎたり、暗すぎたりしたとき
- ― カメラの向きがずれているとき
- ― e-POWERシステムを始動してから約15秒間は標識を検知しません

- 次のような場合は、標識の検知が適正に行えず、実際の規制内容とは異なるものを表示したり、実際には対象となる標識がないのに表示したりすることがあります。（最高速度標識においては、実際の最高速度よりも高い数字や、低い数字を表示したりすることがあります）
 - ― 数字が認識しにくい標識（数字が消えかかっているなど）
 - ― 検知対象となる標識の色、形に似たものが周辺にある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物、案内標識上の数字など）
 - ― 自転車の路線に対しての標識ではないが、自転車の路線付近にあり、その標識が自転車の路線に向いている場合（本線から分岐する側道の一時停止標識や最高速度標識など）



- ― コントラストが低い電光標識
- ― 数字が認識しにくい電光標識（遠く離れた位置にある標識、3桁の標識など）
- ― 標識の近傍に補助標識（区間の始まり、終わり、曜日、時間など）があるとき



- ― 工事などの通行規制区間に標識があるとき
- ― NissanConnectインフォテインメントシステムの地図データが最新ではない、または利用できないとき
- ― NissanConnectインフォテインメントシステムが推奨するルートを行っていないとき
- ― NissanConnectインフォテインメントシステムが新しいルートを検索しているとき

運転のしかた

- NissanConnectインフォテインメントシステムの位置検出が正しく行えないとき
- NissanConnectインフォテインメントシステムの地図にない道路を走行しているとき

ドライバーモニターシステム★

ドライバーモニターシステムについて

⚠ 注意

- ドライバーモニターシステムの機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がけてください。
- ドライバーモニターシステムは疲労時の運転を補助するものではありません。疲労時の運転は重大な事故にいたる危険がありますので、運転前に十分に休憩をとり、安全運転に努めてください。
- ドライバーモニターシステムは、脇見運転などの前方不注意での運転を補助するものではありません。脇見運転は重大な事故にいたる危険がありますので、常に進行方向の交通状況、道路状況を確認し、安全運転に努めてください。

ドライバーモニターシステムに関する注意事項

⚠ 注意

- 次のような場合、ドライバーモニターシステムが運転者を適切に検出できないことがあります。
 - 車室内へ太陽光が入り込み、ドライバーモニターカメラまたは、運転者が照らされているとき

- 太陽光の入り込みと影になることが繰り返すとき
- 眼鏡やサングラス、帽子、マスク、眼帯などを着用している場合など目、鼻、口のいずれかが隠れていたり、顔や頭の形を変える衣服を着用したりしているとき
- ハンドルや運転者の手、その他の障害物などで目、鼻、口、顔や頭の形が隠れているとき
- ドライバーモニターカメラに触れ、汚れや指紋が付着したとき
- 助手席や後席シートの方が運転席付近に身を乗り出したときなど、運転席付近に2つ以上の顔が存在するとき
- 前方からの太陽光の眩しさなどで目を細めたり、運転姿勢をくずしたりしているとき

- 状況によっては外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

先行車発進お知らせ

システムに関連する表示

⚠ 注意

- 先行車との車間距離や周囲の状況を目視で直接確認し、常に安全運転を心がけてください。

駐車支援システム

インテリジェントアラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）

インテリジェントアラウンドビューモニターについて

⚠ 警告

- インテリジェントアラウンドビューモニターの機能を過信しない。インテリジェントアラウンドビューモニターは障害物などの確認を補助するシステムです。車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。特に車両の四隅は、トップビュー、フロントビュー、リヤビューに障害物が映らない死角になります。必ず窓から目視し、安全を確認してから車両を操作してください。常に低速で車両を移動させてください。
- 実際の距離感を間違えないように注意する。インテリジェントアラウンドビューモニターに映し出される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

インテリジェントアラウンドビューモニターの使いかた

⚠ 警告

- ドアミラーを格納した状態で使用しない。ドアミラーを格納すると、一部の表示が欠けるなど正確に表示できません。周辺を直接確認し十分注意して使用してください。使用するときは、バックドアが確実に閉まっているか確認してください。

画面表示に関する注意事項

⚠ 警告

- リヤビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。
- ドアミラー、車両前方、車両後方に装着されているカメラからの映像を組み合わせ処理した疑似的な映像のため、トップビューは、障害物を実際より遠く映します。
- 囲いや車両といった高さのある障害物は、映像の継ぎ目で位置がずれたり、表示されなかったりすることがあります。
- カメラの高さよりも上にある障害物は表示されません。
- トップビューの映像は、カメラの位置が変化するとずれることがあります。
- 路上の線は映像の継ぎ目でずれたり、曲がって見えたりすることがあります。ずれは、車両から遠ざかるにつれて大きくなります。

画面表示の種類について

⚠ 警告

- ドアミラーの代わりとしては使用できません。
- ドアミラー位置や、車両前方の方向を表示するものではありません。
- 3Dビューに表示される障害物までの距離は、実際の距離とは異なります。

移動物 検知機能について

⚠ 注意

- 車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。

ソナー機能について

⚠ 警告

- バンパーにへこみなどがあると正確な距離が測定できず、正常に作動できない場合があります。
- 適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤作動の原因になります。
- 日産純正品以外のバンパーを取り付けたとき、正常に作動できない場合があります。
- ソナーの性能には限界があるため、システムだけに頼らず、常に安全を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。



⚠ 注意

- 気温や天候、路面状態などの周囲の状況や、障害物の大きさ、形状によってはソナーが検知できないことがあります。また、音波を吸収しやすいものにも、ソナーが検知できないことがあります。必ず周囲を確認して運転をしてください。
- 次のような障害物には作動しません。
 - 背の低い障害物
 - 幅の狭い障害物
 - 針金、金網、ロープなどの細い障害物
 - ソナーに非常に近い障害物
 - 急に進行方向に現れた障害物
- 次のような障害物は検知しないことや作動が遅れることがあります。
 - 地面から高い位置に存在する障害物
 - スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- ソナーは次のような場合は検知しない、もしくは正しく検知できない場合があります。
 - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサー部や周辺に付着しているとき
 - 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき

- 周囲に草が生い茂っているとき
- 車両側面の近くに壁があるとき
- 路面上に段差や突起物があるとき
- 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
- 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
- 周囲で大きな音が鳴っているとき
- 車両感應センサーやホーン、他車のソナー、オートバイの排気音など超音波を発生するものが付近に存在するとき
- 炎天下や寒冷時
- 表面が一樣でない障害物（複数の障害物が積載されて凹凸な形状の場合）
- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。
- ソナー部が凍結したときは異常表示が出たり、壁などの障害物があってもソナーが検知しないことがあります。（氷が解ければ、正常に復帰します）
- ソナーは前後バンパーについています。バンパーには、ステッカーを貼ったりアクセサリーなどを取り付けたりしないでください。
- 適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤警報や誤操作の原因になります。

インテリジェントアラウンドビューモニターに関する注意事項

⚠ 警告

- カメラの作動を妨げるような物をカメラ部分に取り付けしないでください。字光式ナンバープレートやナンバープレートリムを装着すると、フロントビューおよびリヤビューモニターの映像が一部映らなくなることがあります。
- 距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離は目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

運転のしかた

- 目安ラインや予想進路線は、乗車人数や燃料の容量などの影響により実際の距離と異なることがあります。目安としてお使いください。
- サイズが異なるタイヤと交換すると、予想進路線とトップビューが不適切に表示されることがあります。
- 上り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。下り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも近くにあるように見えます。ミラーを併用するか、目視によって正確な距離を判断してください。
- フロントビューおよびリヤビューの表示線は、路面の状況により障害物への距離が実際と異なって見えることがあります。特徴をよく理解してください。

プロパイロット パーキング★

プロパイロット パーキングについて

⚠ 警告

- プロパイロット パーキングは標準的な駐車場所における運転操作を支援する機能であり、前方不注意状態での運転操作を補助するものではありません。
安全運転を行う責任は運転者にあるため、通常の運転操作と同様に、周りの状況をミラーや目視で直接確認し、周囲の車両や障害物、人などに接触しそうな場合や、走行できる路面を越えそうな場合などは、ブレーキペダルを踏んですみやかに停車してください。
- プロパイロット パーキングはソナーで障害物を検出し駐車位置や切り返し位置を調整する機能がありますが、適切に機能しない場合があります。
詳細については、ソナー/インテリジェントアラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限をお読みください。

🌐 WEB

- プロパイロット パーキングは標準的な駐車方法で移動方向、切り返し位置、駐車位置を調整して車両を移動します。
移動方向に障害物や走行できない路面に近づいた場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、駐車制御の進行方向をシフトポジションを切り替えるなどして、適切な対応をしてください。
- プロパイロット パーキングはハンドルを自動で制御するため、ハンドルに巻き込まれないように注意する必要があります。
手や指がスポーク部に巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。また、ネクタイ、スカーフなども巻き込まれないように十分注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

プロパイロット パーキング（駐車枠線検出機能）の終了のしかた

⚠ 警告

- 駐車位置検出中の自動終了時はブレーキペダルを踏む。
自動でブレーキがかからないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

プロパイロット パーキング（メモリー機能）

⚠ 注意

- メモリー機能は運転操作（アクセル、ブレーキ、ステアリング、シフトポジション操作）、もしくは走行状態（移動方向、切り返し位置など）を登録し、制御により再生する機能ではありません。

ソナーの検知条件と制限

⚠ 警告

- ソナーの性能には限界があります。詳細についてはソナーの検知条件と制限をお読みください。

🌐 WEB

インテリジェントアラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限

⚠ 警告

- インテリジェントアラウンドビューモニターカメラの性能には限界があります。詳細についてはインテリジェントアラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限をお読みください。

🌐 WEB

プロパイロット パーキングの注意事項

⚠ 警告

- 画面だけを見ながら走行することは絶対にしないでください。
障害物に接触したり、思わぬ事故につながったりするおそれがあります。
- 周囲の車両や人の動きに十分注意してください。
検出された通路幅を有効に使うって駐車支援を行っています。対向車や後続車、歩行者の動きに十分注意して駐車制御の操作を行ってください。
- プロパイロット パーキングによる駐車支援が必要なくなったときは、プロパイロット パーキングを終了してください。

運転のしかた

プロパイロットパーキングが作動状態のままだと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 車を降りる前に、電動パーキングブレーキが作動していること、およびシフトポジションがPであることを確認してください。
- 縁石や車止めは検出できません。
縁石にホイールが接触しそうな場合や車両が車止めを越えそうな場合にはブレーキペダルを踏み停車してください。車両が損傷することがあります。
- プロパイロットパーキングを使用する前に、車両周辺に切り返しなどの駐車操作ができるスペースが十分あることを直接確認してください。
- 状況によっては車両内外の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。
- 次のような状況ではプロパイロットパーキングを使用しないでください。
 - 人や車両などの通行量が多い場所
 - 停車および駐車が禁止されている場所
 - 車両が入らないほど狭い場所
 - 穴や溝などがあるような駐車できない場所
 - 通路幅が狭い場所
 - 急な勾配のある場所
 - 砂地や砂利地などの整備されていない路面
 - 雪や凍結などでスリップしやすい路面
 - 傾斜地や段差、縁石、わだちなどのある平坦ではない路面
 - 道幅と駐車位置に十分なスペースがないとき
 - 真夏の炎天下でアスファルトが溶けているような路面
 - 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されている場所
 - 機械式駐車場や自動ロック装置のある駐車場、駐車場所に障害物などがある場所

- 過積載のとき
- 摩耗しているタイヤ、スベアタイヤのような非常用タイヤ、タイヤチェーンを装着しているとき
- タイヤの空気圧が適正ではないとき
- カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき
- カメラが汚れや西日、影などで見にくいとき
- ドアミラーが開き切っていないとき
- カメラが正常に取り付けられていないとき
- パンパーにソナーセンサーの性能を妨げるようなものを取り付けたとき
- パンパーにへこみなどがあるとき
- ソナーセンサー周辺に雨や雪、泥などが付着しているとき
- 極端に重い荷物を積んだり、車両の片側にだけ荷物などを積んでいたりして車両が傾いているとき

プロパイロットリモートパーキング★

プロパイロットリモートパーキングについて

⚠ 警告

- プロパイロットリモートパーキングの操作は運転行為の一部です。必ず有効な運転免許証を保持した運転者が操作してください。特に小さなお子さまが誤って操作することがないようにしてください。
- プロパイロットリモートパーキングの性能には限界があります。
周囲の安全を確認し、事故を防ぐために必要な操作を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、通常の運転操作と同様に、周りの状況を目視で直接確認し、周囲の車両や障害物、人などに接触しそうな場合はプロパイロットリモートパーキン

グ用インテリジェントキーのスイッチを離して車両を停車させてください。

プロパイロットリモートパーキングに使用するソナーセンサーについて

⚠ 警告

- 車両のソナーセンサーが進行方向に障害物を検知し衝突のおそれがあると判断したときは、自動的にブレーキをかけますが機能には限界があります。
障害物を検知できない場合には衝突するおそれがあります。過信せず周囲の安全確認を心がけてください。自動ブレーキをかけたあと、プロパイロットリモートパーキングは終了します。再開は状況が改善されたことを確認してから行ってください。

プロパイロットリモートパーキングを使って駐車する

⚠ 警告

- プロパイロットリモートパーキングを使用する際は、車室内に人やベツトが残らないようにしてください。
ハンドルやアクセルペダル、ブレーキペダルなどの操作が行われると、車両は停車しプロパイロットリモートパーキングは自動的に終了します。
- 安全な場所でプロパイロットリモートパーキングの操作を行ってください。
プロパイロットリモートパーキングの操作をするときは、周囲の車両や人の動きに注意し安全を確保してください。
- プロパイロットリモートパーキングの操作をするときは自車の進路上にいないでください。

運転のしかた

- プロパイロットリモートパーキング用インテリジェントキーだけを見ながら操作することは絶対にしないでください。
- 運転者が停車位置を定め、停車位置でプロパイロットリモートパーキング用インテリジェントキーのスイッチを離して車両を停車させてください。
停車する場所や周囲の障害物などの位置を考慮して自動で停車するシステムではありません。

プロパイロットリモートパーキングの注意事項

⚠ 警告

- 周囲の車両や人の動きに十分注意してください。
対向車や後続車、歩行者の動きに十分注意してプロパイロットリモートパーキングの操作を行ってください。
- プロパイロットリモートパーキングによる駐車支援が必要なくなったときは、プロパイロットリモートパーキングを終了してください。
プロパイロットリモートパーキングが作動状態のままだと思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 次のような状況ではプロパイロットリモートパーキングを使用しないでください。
 - 人や車両などの通行量が多い場所
 - 停車および駐車が禁止されている場所
 - 車両が入らないほど狭い場所
 - 穴や溝などがあるような駐車できない場所
 - 急な勾配のある場所
 - 砂地や砂利地などの整備されていない路面
 - 雪や凍結などでスリップしやすい路面
 - 傾斜地や段差、縁石、わだちなどのある平坦ではない路面

- 真夏の炎天下でアスファルトが溶けているような路面
- 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されている場所
- 機械式駐車場や自動ロック装置のある駐車場、駐車場所に障害物などがある場所
- 過積載のとき
- 摩耗しているタイヤ、スベアタイヤのような非常用タイヤ、タイヤチェーンを装着しているとき
- タイヤの空気圧が適正ではないとき
- パンパーにソナーセンサーの性能を妨げるようなものを取り付けたとき
- パンパーにへこみなどがあるとき
- ソナーセンサー周辺に雨や雪、泥などが付着しているとき
- 極端に重い荷物を積んだり、車両の片側にだけ荷物などを積んでいたたりして車両が傾いているとき

室内装備

収納装備

グローブボックス

グローブボックスの使いかた

⚠ 注意

- グローブボックスを開けたまま走行しない。
ブレーキをかけたとき収納した物が飛び出したり、ふたに当たったりするなどして、思わぬケガをするおそれがあります。
- ふたを開けるときは、ゆっくり開ける。
ふたを全開にしたとき身体に当たるおそれがあります。

センターコンソールボックス

センターコンソールボックスの使いかた

⚠ 注意

- センターコンソールボックスを開けたままにしない。
開けたふたで思わぬケガをするおそれがあります。

コンソールポケット

コンソールポケットについて

⚠ 注意

- コンソールポケットを開けたまま走行しない。
急ブレーキ時や衝突時に物が飛び出し、思わぬケガをするおそれがあります。

運転席コインポケット

運転席コインポケットについて

⚠ 注意

- 運転席コインポケットを開けたまま走行しない。
急ブレーキ時や衝突時に物が飛び出し、思わぬケガをするおそれがあります。

カップホルダー／ボトルホルダー

カップホルダー／ボトルホルダーに関する注意事項

⚠ 警告

- 運転中に飲物を出し入れしない。
運転中に飲物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転中は信号待ちなどの停車中に飲物を出し入れしてください。
- ビンなどの硬いものは入れない。
側面衝突などの事故のとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 熱い飲物を置かない。
熱い飲物をカップホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、飛び散ったりして、乗員がやけどを負うおそれがあります。
- 飲物をこぼさないように注意する。
飲物の容器の形によっては、確実に固定されないおそれがあります。
- 車室内のスイッチや画面などに飲物をこぼさないようにする。
故障や火災のおそれがあります。

パーソナルテーブル

パーソナルテーブルについて

⚠ 注意

- テーブルを操作するときは、手などを挟まないように注意する。
- テーブルの上に乗ったり、足で蹴ったりしない。また、席を移動するときは、テーブルを格納してから移動する。
転んで思わぬケガをしたり、テーブルが破損するおそれがあります。
- 急発進、急ブレーキに注意する。
テーブルに置いた物が落ちてきて思わぬケガにつながるおそれがあります。また、カップホルダーに熱い飲物を置いているときは、こぼれてやけどをするおそれがあります。
- 3kg以上の物をテーブルに置かない。
テーブルが格納してしまい、物が落ちたりして思わぬケガをするおそれがあります。また、カップホルダー部に熱い飲物を置いているときは、こぼれてやけどをするおそれがあります。
- カップホルダー部でも入れ物によっては確実に固定されないことがあるため、こぼさないように注意する。

オーバーヘッドコンソール

オーバーヘッドコンソールの使いかた

⚠ 警告

- 炎天下で駐車するときは、サングラス、メガネ、ライターなどを入れたままにしない。

室内装備

炎天下での駐車は大変高温になるため、サンングラスやメガネが変形したり、ライターが爆発したりするおそれがあります。

⚠ 注意

- オーバーヘッドコンソールを開けたまま走行しない。また、重いものを入れない。収納物が落下して思わぬケガをするおそれがあります。開閉は停車中に行い、重いものを入れないでください。

その他の室内装備

先進事故自動通報システム

先進事故自動通報システムの使いかた

⚠ 警告

- <SOSコールスイッチ>を押すときは、安全な場所に停車してから行う。走行中に運転者がスイッチを押そうとすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- SOSコールは無線通信機能を利用しています。心臓ペースメーカーなどの医療用電気機器を使用している場合は、当該の医療用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波の影響について必ず確認してください。

ドライブレコーダー★

microSDカードについて

⚠ 警告

- microSDカードはお子さまに触れさせない。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害につながります。また最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ヒーターシート

⚠ 注意

- 長時間の連続使用はしない。低温やけどの原因になります。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方、眠気をもよおす薬を服用された方、深酒や疲労の激しい方は注意してください。
- 硬くて重い物や突起がある物をシートに載せたり、ピンや針などの鋭い物でシートを突き刺したりしない。

ベンチレーションシート★

⚠ 注意

- 長時間の連続使用はしない。長時間の連続使用は冷やしすぎの原因となります。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方、眠気をもよおす薬を服用された方、深酒や疲労の激しい方は注意して使ってください。
- 硬くて重い物や突起がある物をシートに載せたり、ピンや針などの鋭い物でシートを突き刺したりしない。

電源ソケット

電源ソケットの使いかた

⚠ 警告

- 電源ソケットを使うときは、次のことを守る。電源ソケットの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどにつながるおそれがあります。

合、車両火災ややけどのおそれがあります。

- 複数の電源ソケットを持つアダプターを使用して、一度にたくさんの機器を接続しないでください。
- 消費電力120W以下のものを使ってください。
- 相手プラグをソケットの奥まできちんと挿入してください。
- 使用中や使用後はソケットやプラグの取り扱いに十分注意してください。
- シガーライターをソケットに差し込まないでください。
- ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしないでください。

USB電源ポート

USB電源ポートの使いかた

⚠ 警告

- SRSエアバッグの作動を妨げるような場所に、モバイル機器や接続用のケーブルを設置しない。SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、SRSエアバッグの作動時にモバイル機器が飛ばされたりして、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。
➡ WEB
- USB電源ポートを使用するときは、次のことを守る。USB電源ポートの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどにつながるおそれがあります。
- 複数のUSB電源ポートを持つアダプターを使用して、一度にたくさんのモバイル機器を充電しない
- 消費電力15W（セカンドシート助手席側以外）／60W（セカンドシート助手席側）以下のものを使用する

室内装備

- ケーブルはしっかり奥まで挿入する
- ポートに水をかけたり、指や金属などを入れたりしない
- ポートの向きに注意し、無理な接続や取り外しをしない

⚠ 注意

- モバイル機器または接続用のケーブルは、運転の邪魔にならない場所に固定する。運転に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

100V AC電源 (1500W) ★

100V AC電源 (1500W) について

⚠ 警告

- 換気の悪い場所では、100V AC電源 (1500W) を使用しない。
排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。
- 駐停車中に100V AC電源 (1500W) を使用するときは、シフトポジションを確実にPに切り替え、パーキングブレーキをかける。
万一シフトポジションがP以外だと、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お客さまが接続される電気製品の取扱説明書や製品に記載の警告・注意事項を守って使用する。
火災、感電、ケガ、やけどのおそれがあります。

- 故障した電気製品や破損した電源プラグ、水没や浸水した、またはそれらのおそれのある電気製品は使用しない。
火災、感電、ケガ、やけどのおそれがあります。
- 電気製品は確実に固定する。また、調理機器などは、内容物を入れたまま走行しない。
振動・急停止などにより電気製品が転倒・落下したり、内容物が飛び出したりするおそれがあります。
- アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子を備えたコンセントにプラグを差し込み、アース線をアース端子に接続して使用する。
使用する電気機器のプラグ形状が、車両側コンセントのプラグ形状と一致しない場合は、市販の変換アダプタを使用してアース線を接続してください。
- 使用する電気製品のプラグ形状と車両側のコンセント形状が一致しない場合は、市販の変換アダプタを使用してアース線を接続する。

⚠ 注意

- お子さまだけで100V AC電源 (1500W) のコンセントを触らせない。
- 車室内で蒸気が出る電気製品を使用しない。
窓ガラスがくもり、運転する際に視界を妨げるおそれがあります。

100V AC電源 (1500W) の使いかた

⚠ 警告

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電するおそれがあります。
- コンセントに水がかからないようにする。
感電するおそれがあります。

- コンセントに金属製の鋭利なもの（ピン・針金など）を差し込まない。
感電するおそれがあります。
- 100V AC電源 (1500W) の分解・修理・改造をしない。
感電するおそれがあります。
- 車外で電気製品を使用しているときに、雷が鳴ったらすぐに電気製品の使用を中止してコンセントから抜く。
感電、火災のおそれがあります。
- 100V AC電源 (1500W) を家屋内のコンセントや配電盤などに接続し、電気を供給する電源として使用しない。

⚠ 注意

- 各コンセントに接続できる電気器具は1つだけです。
- 100V AC電源 (1500W) を使用するときは、車両から離れない。
- e-POWERシステム警告灯が点灯しているときは100V AC電源 (1500W) を使用しない。
- 100V AC電源 (1500W) をONにするときは、接続する電気製品の電源がOFFになっていることを確認する。
電源がONになっていると、電気製品が突然作動するおそれがあります。
電気製品の電源スイッチがないものについては、先に100V AC電源 (1500W) をONにしてからコンセントに接続してください。
- 車室内で電気製品を使用するときは、落下や転倒などしないように安定した場所で使用する。
ケガをするおそれがあります。
- 100V AC電源 (1500W) のコンセントを使用して、電気自動車やプラグインハイブリッド車などへの充電はしない。
- 接続する電気製品のプラグを、確実にコンセントの根元まで挿入して使用する。

室内装備

- **100V AC電源 (1500W)** を使用して、車外で電気製品を使用する場合は、ドアや窓にコードを挟まない。
- **100V AC電源 (1500W)** を使用しない場合は、コンセントのふたを閉める。コンセントにゴミ、ほこりがたまるとショートするおそれがあります。
- コンセントに電気製品のプラグを差し込んだときに、緩いと感じた場合は日産販売会社に問い合わせる。
- タコ足配線をしない。
- **ACアダプター付プラグを直接コンセントに取り付け**ない。
ACアダプターの重さにより、プラグが抜けかかり、場合によっては発熱のおそれがあります。

ワイヤレス充電器

ワイヤレス充電器の使いかた

⚠ 警告

- 充電エリアとスマートフォンの間にコインなどの金属物を置かない。
車両火災ややけどにつながるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器 (ICD)、またはそれ以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。
ワイヤレス充電器の電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。
- 充電中はスマートフォンに布などをかぶせない。
車両火災ややけどにつながるおそれがあります。
- スマートフォンが濡れた状態で充電しない。

故障、火災または感電のおそれがあります。

- 金属物やキー (インテリジェントキー)、メモリードライブなどを充電エリア内に置かない。
- 充電エリアに水や飲料などの液体をこぼさないように注意する。
故障、火災または感電のおそれがあります。

⚠ 注意

- 充電エリアにほこりや汚れが付着した状態で使用しない。
- 充電エリアの表面を叩かない。
- 充電エリアの清掃にはグリース、オイルを使用しない。

ロールサンシェード

ロールサンシェードの使いかた

⚠ 注意

- ロールサンシェードを使用しているときは、窓ガラスを開けた状態で走行しない。
風にあおられてロールサンシェードがフックから外れてケガをしたり、シェード部分にしががけたりするおそれがあります。

フロアカーペット

固定のしかた

⚠ 警告

- この車 (年式) 専用のフロアカーペットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用する。
フロアカーペットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりブレーキが効

きづらくなったりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

- 運転席にフロアカーペットを敷くときは、次のことを守る。
 - ー 日産純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアカーベットは使用しない。
 - ー フロアカーベットでペダルを覆わない。
 - ー フロアカーベットを重ねて敷かない。
 - ー 運転席専用のフロアカーベットを使用する。
 - ー フロアカーベットを前後さかさまにしたり、裏返しにしたりして使用しない。
- 運転する前にフロアカーベットが正しく固定されていることを定期的に確認し、洗車後は必ず確認する。
- 運転に支障がないことを確認する。
運転する前、＜パワースイッチ＞がOFFの状態では各ペダルをいばいに踏み込み、フロアカーベットと干渉しないことを確認してください。
- タバコの火種をフロアカーベットなどに落とさない。
火災につながるおそれがあります。

アシストグリップ／コートハンガー

アシストグリップ／コートハンガーの注意事項

⚠ 注意

- アシストグリップに手をかけて乗り降りしない。
アシストグリップは、走行中などシートに座った状態で身体を支えるために使用してください。乗降用ではないため、手をかけて乗り降りしないでください。万一、アシストグリップが外れた場合は、思わぬケガをするおそれがあります。

室内装備

- コートハンガーにハンガーなど先のとがった物を掛けない。
SRSエアバッグが作動したときに飛ばされて、思わぬ傷害につながるおそれがあります。

アクティブ・ノイズ・コントロール

警告

- 運転中にアクティブ・ノイズ・コントロールの操作をする場合は、操作に集中しすぎないようにする。
走行中に操作に集中しすぎると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

メンテナンスの前に

点検整備について	P.126
----------	-------

工具・ジャッキ

工具・ジャッキについて	P.127
-------------	-------

点検と整備

エンジンルーム	P.128
ウォッシュャー液の補給	P.130
寒冷時の取り扱い	P.130
タイヤ	P.131
タイヤ空気圧警報システム	P.134
冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.135
ワイパー	P.136
インテリジェントキーの電池交換	P.138
12Vバッテリー	P.139
エンジンオイル	P.140

清掃・お手入れ

外装のお手入れ	P.141
内装のお手入れ	P.145

サービスデータ

点検値	P.147
交換油脂類	P.147
車両仕様	P.150
イベントデータレコーダ（EDR）	P.151

車両状態記録機能

P.152

点検整備について

道路運送車両法により、定期点検と日常点検が義務付けられています。正しい点検整備を行いお車を安全にお使いください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

点検整備の種類

- 点検・整備および保証の内容は、別冊のメンテナンスノートに詳しく記載されていますので、必ずお読みください。
- **日常点検**
走行距離や使用時の状態から判断し、適切な時期にお客さまご自身で行う点検です。
いつもと違うことに気がいたら日産販売会社で点検を受けてください。（音、振動、におい、水漏れ、油漏れなど）
- **定期点検**
1年ごとに実施する点検です。12か月点検および24か月点検があります。
- **その他の点検**
新車時の無料点検や、厳しい使われかたをしたときに必要な点検があります。

車検、点検整備のとき

- 車検、点検整備については、日産販売会社にご相談ください。

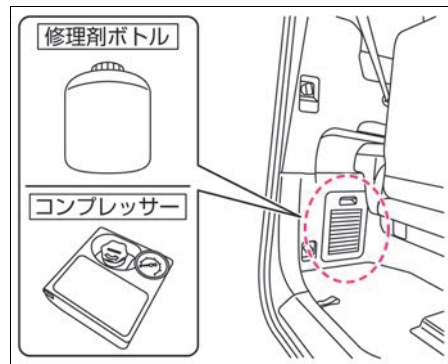
工具・ジャッキについて

この車両には、ジャッキ、ハンドルレバー、ハンドル兼ホイールナットレンチが搭載されていません。

車両の仕様変更または装備変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

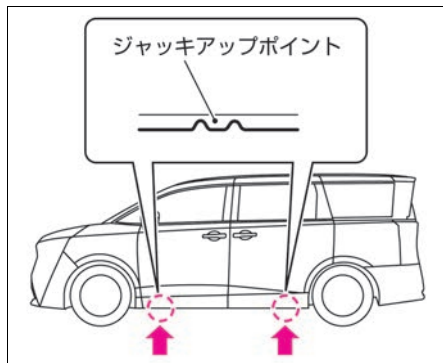
タイヤ応急修理キットの格納場所

- 停止表示板（停止表示灯）、輪止めは標準で搭載されておりませんので必要に応じて準備してください。
- タイヤ応急修理キットは、ラゲッジルーム内に格納されています。
 ⑨ WEB



ジャッキアップポイント

- 矢印の位置がジャッキアップポイントです。



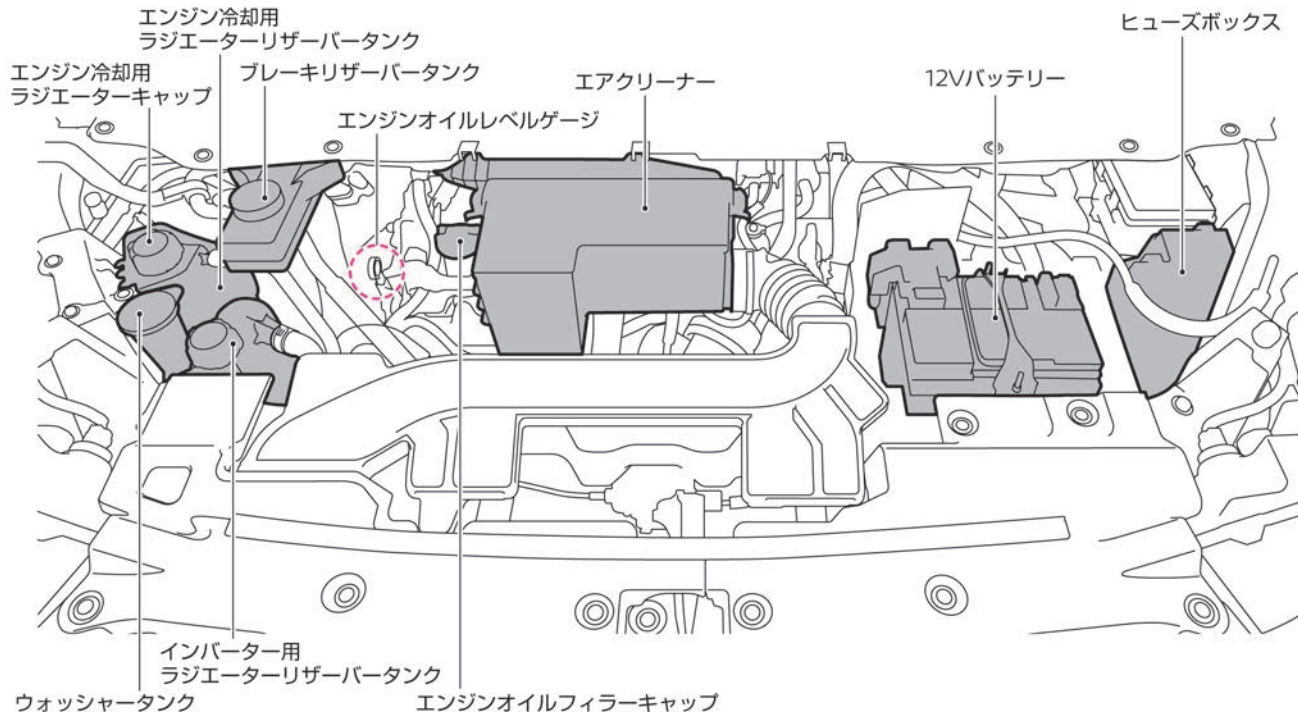
🚗 アドバイス

- ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体に変形するおそれがあります。

エンジンルーム

エンジンルーム内を点検するときは安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけた状態でボンネットを開けます。

エンジンルーム内の配置図



点検と整備

⚠ 警告

- 点検や整備に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れない。故障や車両火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- エンジンルーム内の作業をするときは、＜パワースイッチ＞をOFFにする。
e-POWERシステム作動中に手、衣服、工具などを入れると思わぬケガをするおそれがあります。

🚗 アドバイス

- 点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

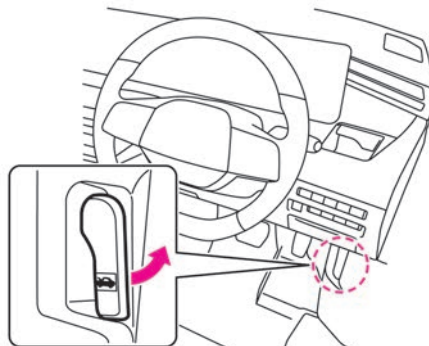
ボンネットの開けかた、閉めかた

⚠ 警告

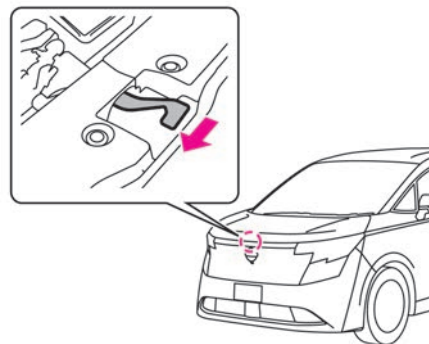
- 走行前、ボンネットが確実に閉まっていることを、必ず確認する。
ロックされていないと、走行中にボンネットが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 風が強いときは、ボンネットをしっかり持ってゆっくりと開ける。
- ステーを持つときは、必ず操作部を持つ。
e-POWERシステム停止直後はステーが高温になることがあるため、やけどをするおそれがあります。
- ボンネットを開けたときは、ボンネットに頭などをぶつけないよう注意する。

- ラジエーターなどの高温部には触れない。
やけどをするおそれがあります。
- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意して降ろす。

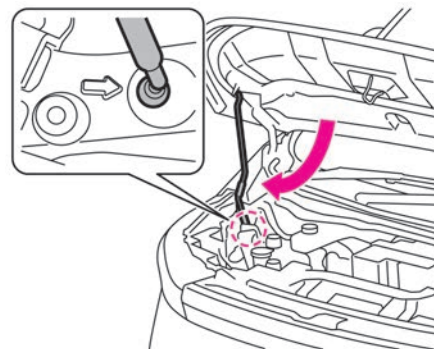
1. 運転席の右下にあるオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。



2. ボンネット先端のすき間に手を入れ、レバーを横に押しながらボンネットを持ち上げます。



3. ボンネット裏側に付いているステーの操作部を持ってフックから外し、車体の穴（ステー差し込み位置）に確実に差し込みます。



4. 閉めるときはステーをフックに戻し、ボンネットを20cm～30cmの高さまでゆっくり降ろしてから、手を離して落としてロックします。ロック

点検と整備

クでできなかったときは、レバーを操作してボンネットをもう一度持ち上げてから再度落としてください。ボンネットを上から押して閉めようとしないでください。

アドバイス

- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ボンネットやワイパーを損傷します。
- ボンネットを閉めるときに、ボンネットに体重をかけて強い力で押すと、ボンネットがへこむおそれがあります。

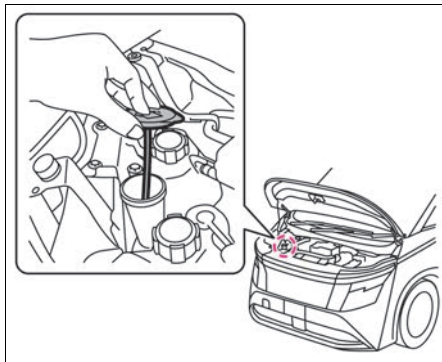
ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

補給のしかた

注意

- ウォッシャー液を補給するときは、液を高温部にかけない。出火するおそれがあります。
- フロントワイパーとリヤワイパーのウォッシャータンクは兼用です。
- ウォッシャータンクのふたの穴を押さえて引き抜くと、スポイト式にウォッシャー液の残量が確認できます。
- ウォッシャー液の残量を確認したとき、ウォッシャー液がチューブ下端にしか入らないと、ウォッシャータンクはほぼ空の状態です。



- 日産純正ウインドウォッシャー液をおすすめします。ウォッシャータンク容量については、 WEBをお読みください。
- 減っているときは、ウォッシャータンクのふたを開け、ウォッシャー液を補給してください。
- ウォッシャー液は、必要に応じ水で薄めてください。希釈割合はウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にします。

アドバイス

- ウォッシャー液の代わりに石けん水などを入れないでください。塗装面がしみになるおそれがあります。

寒冷時の取り扱い

寒冷時に備えて、準備や点検などを正しく行ってください。

冬の前の準備

■ 冷却水の濃度点検

- 冷却水の凍結を防ぐため、冷却水の濃度を点検してください。

冷却水の濃度	凍結温度
50%	約-35℃

- 冷却水を補充・交換するときは、日産純正スーパーロングライフクーラント（50%希釈品）をお使いください。

 WEB

アドバイス

- 冷却水の点検・補充・交換は日産販売会社にご相談ください。

■ 12Vバッテリーの液量、比重の点検

- 別冊のメンテナンスノート「日常点検整備のしかた」をお読みください。

■ 冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

- 冬用タイヤに交換するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。
- タイヤチェーンは、タイヤサイズにあった日産純正品をおすすめします。

■ ウォッシャー液の濃度点検

- ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の容器に記載してある凍結温度を参考に外気温に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

運転する前に

⚠ 警告

- **ルーフに積もった雪は落とす。**
窓ガラスに雪が滑り落ちると視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーなどが凍結したときは、無理に開けたり動かしたりせず、凍った部分にお湯をかけて氷を溶かしてください。溶けたらすぐに水分をふき取ってください。
- 寒冷時にドアミラーが正常に作動しない場合は、ドアミラー内部が凍結している可能性があります。無理に動かしたりせず、ドアミラー本体にぬるま湯をかけて凍結を溶かしてください。溶けたらすぐに水分をふき取ってください。
- ガラスに雪や霜が積もっているときは、プラスチックの板などを使って、ガラスを傷つけないように雪を取り除いてください。
- 足まわり（ブレーキ周辺、フェンダーの裏側など）が凍りついているときは、部品を破損しないように注意しながら、付着した氷塊を取り除いてください。
- 車室内に乗り込むときは、靴についた雪を取り除いてください。



アドバイス

- ドアなどの開閉部分を無理に開けないでください。ゴムがはがれたり損傷したりするおそれがあります。

- ワイパー、ドアミラー、パワーウインドーなどを無理に動かさないでください。装置が損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結するおそれがあります。
- ドアミラーが凍結するような寒冷時は、ドアロック連動格納機能をOFFにしてください。凍結したまま作動を繰り返すと、故障の原因となります。
- ルーフから雪を落とすときは、アンテナに強い力をかけないようにしてください。アンテナが破損したり、車体がへこんだりするおそれがあります。

雪道の走行のしかた

■ 滑りやすい路面に注意

- 滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離を取り、ゆとりある運転をしてください。
- 雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。
➡ WEB
- 雪道を走行するときは、ドライブモードセレクター（➡ WEB）をSNOWに切り替えます。

■ 走行中の雪の付着に注意

- ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。と

きどきブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。

- フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき確認して雪を取り除いてください。

■ 駐車するときの注意

- シフトポジションをPにし、パーキングブレーキをかけずに輪止めをしてください。パーキングブレーキをかけると、ブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。
- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。落雪で車が損傷するおそれがあります。
- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ブレードと窓ガラスが凍結し、破損するおそれがあります。

タイヤ

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができず乗り心地も損なわれます。

日常的に点検を行ってください。

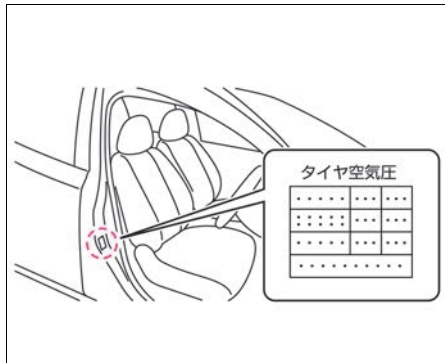
タイヤの点検項目

安全な走行のため、タイヤの点検は次の項目を点検してください。

詳細は別冊のメンテナンスノートをお読みください。

タイヤ空気圧

- すべてのタイヤの空気圧を点検してください。
- タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開閉部に表示してあります。



- タイヤ空気圧の調整後は、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。リセット操作後、メーター内のタイヤ空気圧警告灯〔(!)〕と警告表示が消灯します。

WEBC

- タイヤの空気は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用して点検してください。
- タイヤ空気圧の点検は、走行前のタイヤが冷えているときに点検・調整してください。
- タイヤ側面の厚みが薄いタイヤは、空気圧が減っていることを目視で確認することが困難なため、必ずタイヤエアゲージを使用して点検してください。

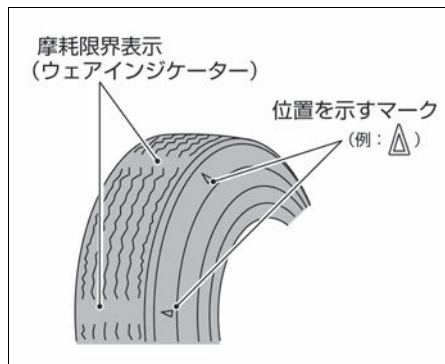
- 走行直後はタイヤ空気圧が約1割上がる場合があります。

タイヤの亀裂・損傷の有無

- タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷および針などの異物が刺さっていないか点検してください。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

- タイヤの溝の深さが十分であるか、ウェアインジケーター（摩耗限界表示）が表れていないか点検してください。
- タイヤが摩耗して接地面とウェアインジケーター（摩耗限界表示）が同じ高さになったらタイヤを交換してください。



タイヤ・ロードホイールを交換するときは

- タイヤやロードホイールを交換するときは、日産販売会社にご相談ください。
- タイヤを交換するときは、4輪とも同時にに行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、

パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。

- タイヤサイズは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧表示を参照してください。
- ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。
ロードホイールのサイズは巻末のサービスデータに記載してあります。

アドバイス

- ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車のものは使えない場合があります。お手持ちのものをご使用になるときは、日産販売会社にご相談ください。
- ロードホイールには荷重制限があるため、交換するときは日産販売会社にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実に取ってください。
- バルブキャップは日産純正品を使用してください。日産純正品以外のバルブキャップを使用すると腐食して固着し、外れなくなる場合があります。
- バルブキャップは工具などを使用して締め付けると、破損するおそれがあります。
- ホイールナットの締め付けトルクは、108N・m (11kg・m) です。

タイヤ空気圧警報システムについて

- タイヤ空気圧センサーが付いていないロードホイールを装着すると、タイヤ空気圧警告灯〔(!)〕が約1分間点滅後、点灯します。元のタイヤ空気圧セ

点検と整備

ンサーが付いているロードホイールを取り付けたあとは、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。リセット操作後、タイヤ空気圧警告灯は消灯します。

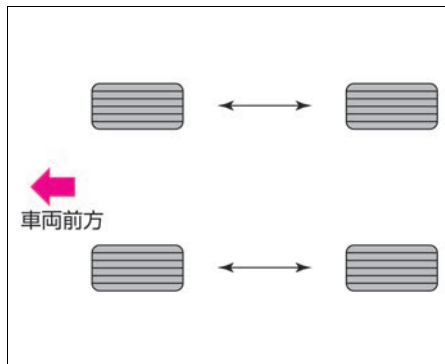
- 新しいタイヤ空気圧センサーを取り付けた場合は、専用のIDコードを登録する必要があります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

➡ WEB

- タイヤ空気圧センサーのシールゴム、コア、キャップはセンサーの付け替えと一緒に交換してください。シールゴムが摩擦などで劣化すると、タイヤのエア漏れの原因となります。
- タイヤ空気圧の確認や調整をするときは、バルブを曲げないでください。バルブや空気圧センサーを破損するおそれがあります。
- バルブキャップを正しく取り付けてください。バルブキャップがないと、バルブや空気圧センサーを破損するおそれがあります。
- ホイールを保管するときや、ホイールに別のタイヤを取り付けるときは、バルブや空気圧センサーを傷つけないように注意してください。

タイヤローテーションのしかた

左右それぞれで、前後タイヤの交換を行ってください。タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を延ばすために、約5,000kmごとにタイヤのローテーション（位置交換）を行うことをおすすめします。



🚗 アドバイス

- タイヤの位置交換と同時に空気圧も点検してください。
- タイヤの位置交換については、日産販売会社にご相談ください。

タイヤに関する注意事項

⚠ 警告

- **タイヤの空気圧が不足したまま走行しない。**
気温や高度の変化により、タイヤの空気圧は変化します。タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **タイヤ空気圧警報システムのリセット操作後も警告灯が点灯する場合は、日産販売会社で点検を受けてください。**

⚠ 注意

- **5～7年を目安に必ず点検する。**
タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。引き続き使用の場合は安全走行を確保するため、必ず点検を受けてください。点検については日産販売会社へご相談ください。
- **指定サイズ以外のタイヤ・ロードホイールは絶対に取り付けない。**
不適合なタイヤ・ロードホイールを取り付けると、安全性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付ける。**
特にe-4ORCE（4WD）車は、径が異なるタイヤを装着すると車の機構に無理がかかり、重大な故障につながります。また、VDCシステムが正常に作動しないことがあります。次のようなタイヤの装着はしないでください。回転差を吸収する機構に無理がかかり、過熱し火災につながるおそれがあります。
 - 摩耗差の大きいタイヤの装着
 - 前輪または後輪だけに冬用タイヤを装着
 - サイズや種類の異なるタイヤを個々に装着
- **著しく摩耗差のあるタイヤや空気圧が規定値と著しく異なるタイヤを装着しない。**
車の性能が十分に発揮できなくなり、安全性を損なったり故障の原因になります。

タイヤ空気圧警報システム

タイヤ空気圧警報システムは、タイヤ空気圧が不足していることを知らせるシステムです。

タイヤ空気圧警報システムについて

⚠ 警告

- **タイヤ空気圧警告灯〔(!)〕が点灯し、警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、タイヤを確認する。**
放置して走行し続けると、タイヤがバースト（破裂）したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **タイヤ空気圧警告灯〔(!)〕が約1分間点滅したあとに点灯を続けたときは、日産販売会社で点検を受けてください。**
- **パンク修理剤を使用する場合は、必ず日産純正品を使用する。**
- 25km/h以上で走行したときに、作動します。
- タイヤ空気圧が低下すると、メーター内のタイヤ空気圧警告灯〔(!)〕が点灯し、警告を表示します。
- 4輪すべてのタイヤ空気圧を正しく調整したあと、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。リセット操作後、タイヤ空気圧警告灯〔(!)〕と警告表示（WEB）が消灯します。

- 気温や高度の変化により、タイヤの空気圧が減少し、タイヤ空気圧警報システムが作動する場合があります。
- バースト（破裂）や急激な空気圧低下をした場合は、メーター内の警告表示がすぐに作動しないことがあります。
- システムに異常があるときは、タイヤ空気圧警告灯〔(!)〕が約1分間点滅したあとに点灯を続けます。なお適正な空気圧に設定しない限り、その後e-POWERシステムを始動するたびにこの動作が繰り返されます。
- 走行中にタイヤ空気圧警告灯〔(!)〕が点灯した場合は、急ハンドル・急ブレーキを避け、車速を下げた安全な場所に回避し、できるだけすみやかに停車してください。
- 温度による空気圧の変化や自然に空気圧が減少したときにもタイヤ空気圧警告灯〔(!)〕が点灯しますが、適切な空気圧に調整して消灯すれば故障ではありません。
WEB
- 高速走行時はタイヤ空気圧警告灯〔(!)〕が約1分間点滅したあとに点灯することがありますが、減速して消灯すれば故障ではありません。
- 走行するとタイヤ空気圧は指定空気圧よりも上昇しますが、運転後にタイヤ空気圧を下げないでください。
- 外気温が低いとタイヤ内部の空気温度が低下することで、タイヤの空気圧が指定空気圧よりも低下する可能性があります。

アドバイス

- タイヤ空気圧警報システムは、日常点検を補助するものです。必ず日常点検でタイヤの空気圧を点検してください。
- タイヤ空気圧が不足すると、燃費悪化やタイヤ寿命の低下、ハンドル・ブレーキ性能に悪影響を与えることがあります。
- タイヤ空気圧センサーは、日本の電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。
 - ー 日本国内のみで使用する。
 - ー 正しい使用方法以外では使用しない。
 - ー 分解や改造はしない。（分解や改造したものを使用することは法律で禁止されています。）
- タイヤ空気圧センサーにはお客さまの車に適合する固有のIDコードが登録されています。他の車のタイヤ空気圧センサーを使用すると、システムが作動しません。
- タイヤを修理・交換するときはタイヤ空気圧センサーの取り付けやIDコードの登録をする必要があるため、日産販売会社へご相談ください。
- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しない場合があります。
 - ー タイヤ交換後や空気圧調整後に、タイヤ空気圧警報システムのリセットを行っていないとき
 - ー タイヤチェーンを装着しているとき
 - ー 日産純正品以外のロードホイールを使用したとき
 - ー 日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用したとき

- 近くに同じような無線周波数を使っている施設や器具があるとき
- 車両、特にロードホイールハウスの周りに多くの雪や氷などが付いたとき
- タイヤ応急修理キットを使用したとき
- タイヤ空気圧センサーのIDコードがシステムに登録されていないとき
- この車両の指定の空気圧センサーが取り付けられていないとき
- タイヤ空気圧センサーが装着されていないホイールを装着したとき
- タイヤ空気圧センサーの電池が消耗したとき
- 窓ガラスに金属性の部品を装着しているとき
- タイヤ空気圧センサーには、車両と通信するための電池が内蔵されています。走行中は、常時車両と通信しているため電池を消耗しており、電池が切れると、タイヤ空気圧警告灯〔(!)〕が約1分間点滅後、点灯します。電池が消耗したときは、日産販売会社にご相談ください。電池単品での交換はできません。
- 凹凸のある道路を走行するときは注意して走行してください。タイヤ空気圧センサーを破損させるおそれがあります。
- 次の場合は、電波の障害を受けるため正しく作動しない場合があります。
 - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備があるとき
 - 無線機や携帯電話などの無線通信機器と一緒に携帯しているとき

- 近くで電波式リモートコントロールエントリーを使用しているとき
- パソコン（または同様の装置）やDC/ACコンバータなどの電化製品が、車室内または車両の近くにあるとき
- 近くに本システムと同じような周波数を使っている施設、器具がある場合、または地域にいるとき
- 同じような周波数を使った無線機や器具を使用しているとき
- 電子情報機器を車室内で使用しているとき

タイヤ空気圧警告システムのリセットのしかた

1. 安全な場所に停車します。
2. パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにします。
3. 4輪すべてのタイヤを指定の空気圧に調整し、タイヤエアゲージを使用して確認します。
4. ブレーキペダルを踏まずに<パワースイッチ>を押して、ONにします。e-POWERシステムは始動させないでください。
5. アドバンسدドライブアシストディスプレイで設定〔〕⇒〔TPMS設定〕⇒〔TPMSリセット〕を選択し、ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとリセット画面が表示されます。〔はい〕を選択し、再度ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとタイヤ空

気圧警告システムをリセットできます。

6. リセット操作後、タイヤ空気圧警告灯〔(!)〕と警告表示が消灯します。その後、しばらく走行することでデータが更新されます。

アドバイス

- 次の場合はタイヤ空気圧警告システムのリセット操作が必要となります。
 - タイヤ空気圧を調整したとき
 - タイヤまたはホイールを交換したとき
 - タイヤの位置交換（ローテーション）をしたとき
 - リセット操作後も警告灯が点灯する場合は、日産販売会社で点検を受けてください。
-  WEB

冬用タイヤ・タイヤチェーン

雪道や凍結した道路を走行するときは、冬用タイヤやタイヤチェーンを装着してください。

冬用タイヤについて

注意

- タイヤチェーンを不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものを使用しない。ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

点検と整備

- 冬用タイヤを装着するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。

タイヤチェーンについて

タイヤチェーンを装着するときは、次のことを守ってください。

- タイヤチェーンを装着するときは、安全に作業できる平坦な場所に停車し、＜パワースイッチ＞をOFFにして作業してください。
- タイヤチェーンは必ず前2輪に装着してください。
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書で指定された速度で走行してください。
- お客さまのタイヤサイズに合ったタイヤチェーンでも使用できない場合があります。
- タイヤチェーンはお客さまの車に適合した日産純正品をおすすめします。
- 適合するタイヤチェーンについては日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- タイヤチェーンを装着すると、ホイールカバー★やロードホイールに傷をつけるおそれがあります。
- 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなります。また、e-4ORCE（4WD）車は車の性

能が十分に発揮できなくなる場合があります。

- タイヤチェーンを装着しているときは、突起しているところや穴の上を走行しないでください。また、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

ワイパー

ワイパーゴムが傷んでいると、きれいにふき取れなかったり、窓ガラスを傷つけたりします。

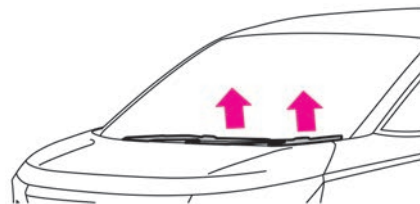
定期的に点検し、傷んでいるときは次の手順に従って交換してください。

ワイパーブレードの交換のしかた

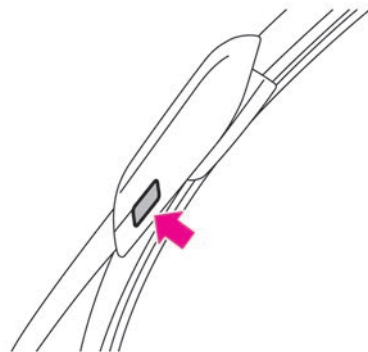
注意

- 交換するときは、ワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないよう注意する。
ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。

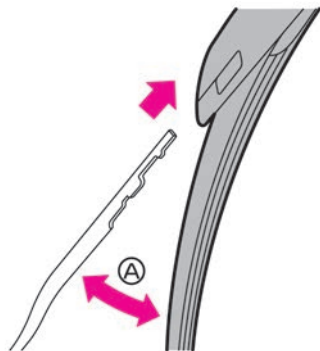
1. ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを少し傾けます。



2. ワイパーブレードのロック解除ボタンを押したままにします。



3. ワイパーアームとワイパーブレードの間隔①を広げた状態で、ワイパーブレードを矢印の方向に動かして取り外します。



4. 新しいワイパーブレードを取り付けます。取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。この時も①の間が開いた状態でブレードを差し込みます。ブレードを差し込んだあとは確実に固定されていることを確認してください。

🚗 アドバイス

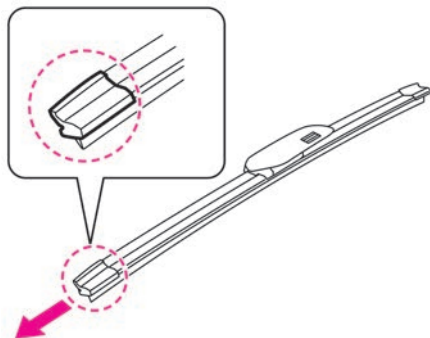
- 交換するときは、ワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないよう気を付けてください。ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。
- ワイパーブレードに大きな力を加えて変形させないでください。ふき取りにくくなったり、破損するおそれがあります。

ワイパーゴムの交換のしかた

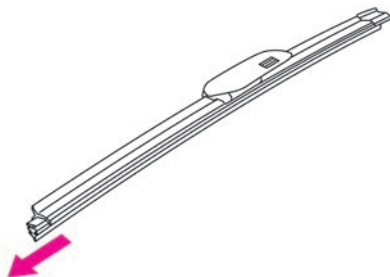
- ワイパーゴムに石けん水を塗ると脱着しやすくなります。

- ワイパーゴムの交換が必要なときは、日産販売会社にご相談ください。

1. ワイパーアームからワイパーブレードを取り外します。
2. ワイパーブレード先端のキャップを外します。



3. ワイパーゴムを矢印方向にスライドし、取り外します。



4. 取り付けるときは、取り外した時と逆の手順で行います。

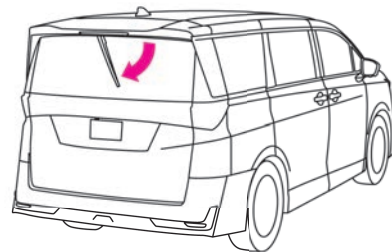
リヤワイパーブレードの交換のしかた

⚠ 注意

- 交換するときは、リヤワイパーアームおよびリヤワイパーブレードがガラスに当たらないよう注意する。ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。

1. <パワースイッチ>をOFFにしてから1分以内にワイパースイッチを2回連続ですばやく車両前方に押し、リヤワイパーアームを格納位置から出します。

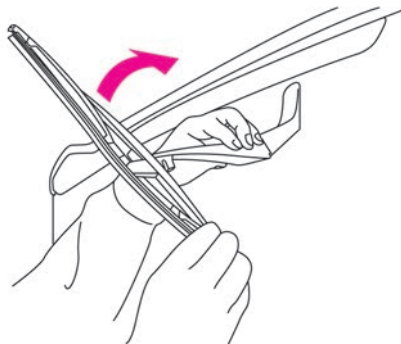
🔗 WEB



2. リヤワイパーアームを手前から起こしてから、リヤワイパーブレードを

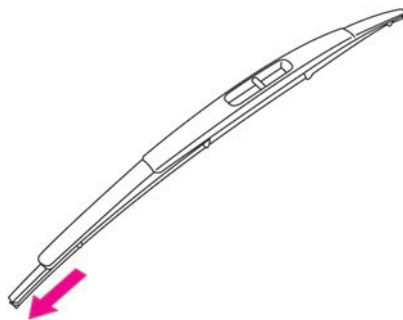
点検と整備

矢印の向きに回転させて取り外します。



3. 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。

2. リヤワイパーゴムを矢印の方向にスライドし、取り外します。



3. 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。

🚗 アドバイス

- 交換するとき、リヤワイパーアームおよびリヤワイパーブレードがガラスに当たらないよう気を付けてください。ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。
- リヤワイパーブレードに大きな力を加えて変形させないでください。ふき取りにくくなったり、破損するおそれがあります。

リヤワイパーゴムの交換のしかた

- リヤワイパーゴムに石けん水を塗ると着しやすくなります。
1. リヤワイパーアームからリヤワイパーブレードを取り外します。

インテリジェントキーの電池交換

キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗が考えられます。次の手順に沿って、電池を交換してください。

電池交換のしかた

⚠ 警告

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。インテリジェントキーには、ボタン電池が使用されています。誤って電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。新しい電池および取り外した電池は、

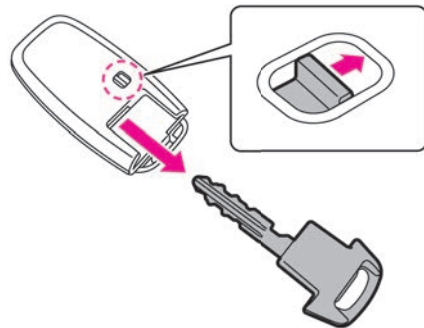
お子さまの手の届かない場所に保管してください。

- 電池を飲み込んだり、体内に入れてしまった場合は、直ちに医師の診察を受ける。

⚠ 注意

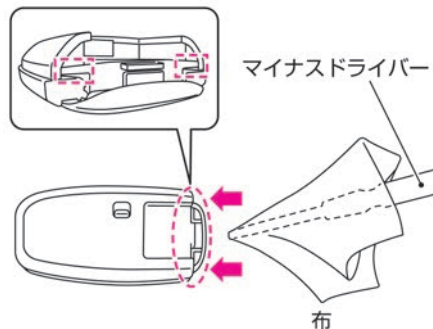
- カバーがしっかりと閉まらない場合は、インテリジェントキーの使用を中止する。インテリジェントキーをお子さまの手の届かない場所に保管し、すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

1. キー裏側のロックを外しながら、内蔵キー（メカニカルキー）を引き抜きます。

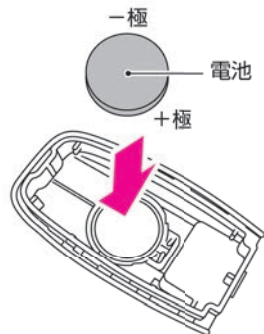


2. 左右のすき間にマイナスドライバーを差し込み、ひねってカバーを取り外します。（カバーが傷つかないように、マイナスドライバーに布を巻いてください）

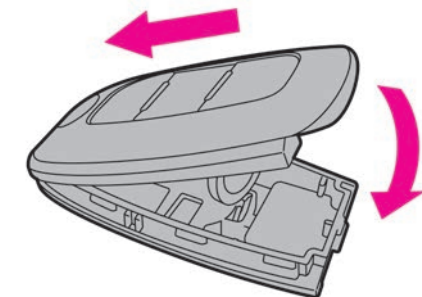
点検と整備



3. 消耗した電池を取り外し、新しい電池をはめ込みます。(新しい電池は、+極を下にして取り付けてください)
使用電池：CR2032



4. カバーの先端を合わせて上下のカバーを組み付けます。確実に取り付けられたことを確認してください。



アドバイス

- 電池交換の際、キーを破損するおそれがあります。日産販売会社での交換をおすすめします。
- 内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 電池交換の際は、必ず同じタイプの電池と交換してください。
- 電池交換後は、キーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。正常に作動しないときは故障が考えられますので、日産販売会社にご相談ください。

12Vバッテリー

12Vバッテリーのメンテナンスについては、メンテナンスノートをお読みください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

12Vバッテリーに関する注意事項

警告

- 12Vバッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけない。12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診断を受ける。バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

- 12Vバッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、12Vバッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。
- 12Vバッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ(型式)に交換し、動かないようにしっかりと固定する。しっかりと固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 12Vバッテリーを交換するときは、次のことを確認し、その後運転席ドアを

点検と整備

閉めた状態で5分以上待ってから60分以内に実施してください。

- 一度<パワースイッチ>をONにし、その後<パワースイッチ>を2秒以上長押ししてから<パワースイッチ>をOFFにする
- ソフトウェア自動更新が作動していない

エンジンオイル

エンジンオイルの交換時期は別冊のメンテナンスノートをお読みください。

また、指定のエンジンオイルについては、巻末の🔗WEBをお読みください。

エンジンオイルに関する注意事項

⚠ 注意

- オイルの点検後は、オイルレベルゲージを確実に差し込む。
オイルレベルゲージが根元まで差し込まれていないと、オイルが噴き出し火災の原因になるおそれがあります。
- エンジンオイルフィラーキャップは確実に閉める。
走行時にキャップが外れてエンジンオイルが噴き出すと、火災の原因になるおそれがあります。

アドバイス

- 適切にオイル交換が行われないと、エンジンの破損や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

外装のお手入れ

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

洗車のしかた

- 塗装面に付着した汚れをそのままにすると、変色やサビの原因となります。次のような場合は、すぐに洗車してください。
 - ばい煙、虫の死がいや鳥の糞、樹液、鉄粉、コールドタールなどが付着したとき
 - 海岸地区、凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ほこり、汚れがひどいとき

■ 水洗いするときは

- 水をかけながら下回りの汚れを洗い流します。
- 水をかけながら塗装面の高い位置から低い位置の順にセーム皮や柔らかいスポンジなどで汚れを落とします。汚れがひどいときは、ボディシャンプーなどを使い、その後十分に水で洗い流します。
- はん点が残らないように水をふき取ります。

洗車時の注意



注意

- 下回りを洗うときは、ケガをしないように注意する。
- エンジンルームを水で洗ったり、洗剤やワックスなどを直接スプレーしたりしない。

エンジンの始動不良や不調などの原因になるおそれがあります。また、電装品などに水がかかると、故障したり電気部品のショートにより車両火災につながるおそれがあり危険です。

水や洗剤、ワックスなどの製品、もしくはその他シリコンを含む製品を使用する場合は、布に塗布してからエンジンルームをふいてください。

- 洗車、ワックス掛け、整備を行うとき、ボディカバーを付け外しするとき、ハンズフリーセンサー周りに水を掛けるときなどは、＜オートドアメインスイッチ＞をOFFにする。（ハンズフリーオートスライドドア付車）

ハンズフリーセンサーが反応してスライドドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。



アドバイス

- ケミカル用品などは用途により使い分けが必要です。用途にあった物をお使いください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使用しないでください。変色やしみの原因となります。
- 硬いブラシや、たわしなどは使用しないでください。塗装面を傷つけるおそれがあります。
- 寒冷時に洗車をするときは、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるおそれがあります。

- 洗車をするときに、車体に体重をかけるなどして、強い力で押したときに、場所によっては車体がへこむおそれがあります。

洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納してください。
 WEB
- 燃料補給口を完全に閉めてください。
 WEB

アドバイス

- 洗車機の種類によってはスポイラーが引っ掛かり、洗車できないことがあります。
- 自動洗車機で洗車すると、ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めたりすることがあります。
- 高圧洗浄機を使用するときは、高圧ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。高圧ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、塗装の劣化を早めたりすることがあります。
- ドアガラスのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。車室内に水が漏れるおそれがあります。
- アンダーカバーを外した状態で高圧洗浄機を使用しないでください。電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。
- 高圧洗浄機を使用するときは、シャークフィンアンテナのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。シール部が変形、破損するおそれがあります。



ワックスをかけるときは

- ワックスがけは1か月に1回程度、または水はじきが悪くなったときに行ってください。かけかたは普通塗装車、メタリックおよびパール塗装車とも同じです。

ワックスのかけかた

- ① 塗装面の汚れを洗車などで取り除きます。
- ② 塗装面が冷えているとき（体温以下が目安）にワックスをかけます。かけかたはワックス容器に記載してある説明に従ってください。

ワックスの選びかた

- コンパウンド（研磨剤）の入っていない、塗装に適したワックスをご使用ください。日産純正カーワックスをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 塗装されていないバンパー、スポイラーなどの樹脂部品には、ワックスを使用しないでください。ムラになることがあります。
- コンパウンド（研磨剤）の入ったワックスを使うと、塗装面の光沢や水をはじく特性が失われることがあります。
- カメラのレンズ部にワックスを付けないでください。ワックスが付いた場合は、中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、ふき取ってください。

ロードホイールのお手入れ

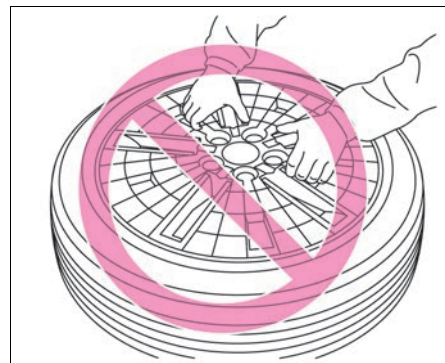
- 中性洗剤を含ませたスポンジなどを使い、汚れを落としてください。日産純正クリーナーをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 変色やしみの原因になったり、傷をつけたりするおそれがあるため、次のことをお守りください。
 - ー 強酸性、強アルカリ性の洗剤は使用しない
 - ー 洗剤はホイールの表面が冷えているときに使用する（体温以下が目安）
 - ー 洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流す
 - ー 硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使用しない

樹脂加飾付ホイールの取り扱いについて

- ホイールに装着されている樹脂加飾を取り外さないでください。ホイールや樹脂加飾を損傷するおそれがあります。樹脂加飾の取り外しが必要な場合は、日産販売会社にご相談ください。
- 樹脂加飾を持ってホイールを持ち上げたり、持ち運んだりしないでください。



- ホイールの樹脂加飾にガタつきがあったり、走行中にホイール周辺から異音が聞こえたりするときは、日産販売会社で点検を受けてください。

軽い補修のしかた

- フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺以外は、塗装面の小さい傷はタッチアップペイントを使い、早めに傷部を補修してください。サビの発生を防ぎ、塗装面を長持ちさせます。
- フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺はタッチアップペイントを含め塗装修理はできません。塗装する場合は日産販売会社にご相談ください。



レーダーセンサー／カメラ類の取り扱い注意

⚠ 警告

- センサー、カメラ部に強い衝撃を与えない。
精密機器のため高圧洗車など、強い衝撃を与えないでください。故障、火災、または感電のおそれがあります。
- レーダーセンサーの技適認証について
以下の装置は日本の電波法（電波法）に基づいて認可されています。本製品の改造は禁止されています。（適合証明番号などが無効となります。）



フロントレーダー



サイドレーダー

⚠ 注意

- フロントグリル、フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺に誤った塗装修理を行うと、本来の機能を発揮できなくなる可能性があります。
適切な修理を行うため、日産販売会社にご相談ください。

🚗 アドバイス

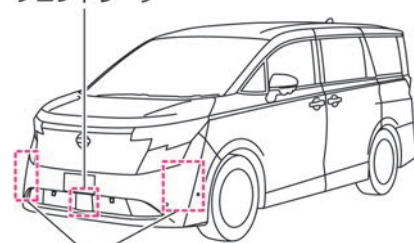
- カメラレンズ部に泥、雨滴、雪などが付着すると、モニター画像の映りが悪くなりますので、濡れた柔らかい布で汚れをふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- カメラ部には傷をつけないでください。映像へ影響が出ることがあります。
- カメラレンズをアルコール、ベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色などの原因になります。

レーダーセンサーの取り扱い

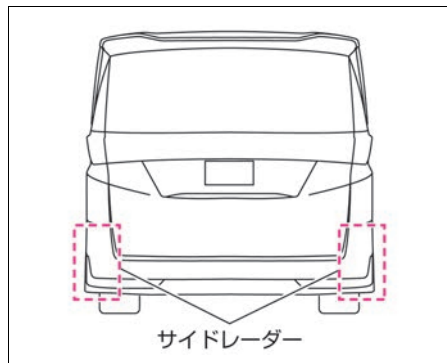
システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- 以下の状態の場合レーダーセンサーの性能が発揮できない可能性があります。取り付けた部品の除去、洗車、修理、もしくはバンパー交換を推奨します。
 - ー レーダーセンサー周辺へのステッカー貼り付け、後付け部品の取り付け
 - ー お客さまの手による補修
 - ー レーダーセンサー周辺の傷つき、鳥糞、虫、泥、雪などの付着
 - ー 衝突などでレーダーセンサー周辺を破損したとき
- フロントバンパー、リヤバンパーを改造、脱着したり、塗装したりしないでください。塗装する場合は日産販売会社にご相談ください。

フロントレーダー



サイドレーダー★

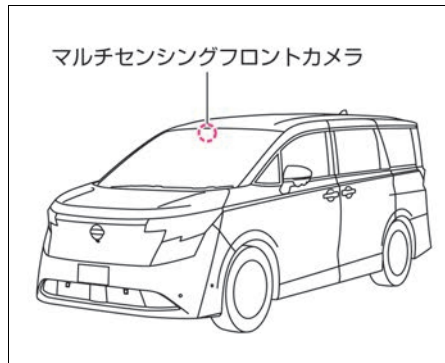


マルチセンシングフロントカメラの 取り扱い

システムを正しく作動させるため、次のことをお守りください。

- カメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。
中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- カメラ前方のフロントガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。
- インストールメントパネル上に鏡や白い紙などの光を反射しやすいものを置かないでください。太陽光が反射し、カメラの検知性能に影響が出るおそれがあります。
- カメラを取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでカメラ周辺部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。

- フロントガラスが汚れていたり、マルチセンシングフロントカメラの前が障害物でふさがれていたり、カメラが前方を撮像できないとき、アドバンスドドライブアシストディスプレイにヘッドランプ警告の警告メッセージ（ WEB）が表示されることがあります。カメラの前の障害物を取り除き、汚れを清掃してください。

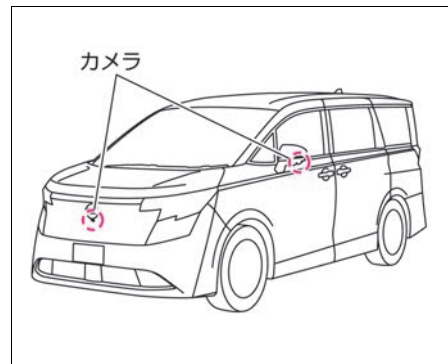


フロントビューカメラ／サイド ビューカメラの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふいてください。

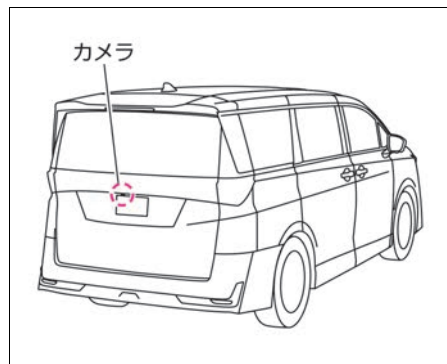
- 衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。



リヤビューカメラの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

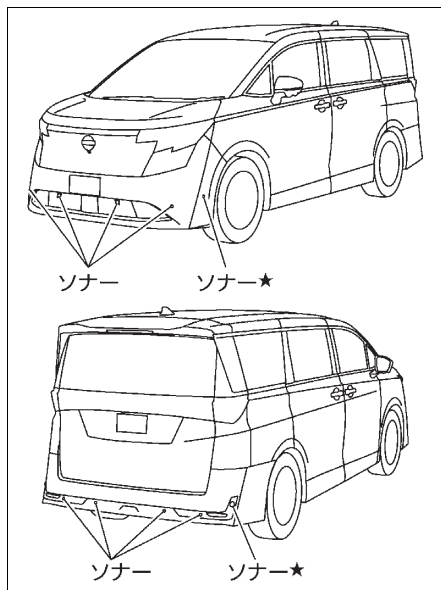
- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふいてください。
- 光が反射するため、ナンバープレートにアクセサリを取り付けないでください。
- 衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。



ソナーの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- ソナーはいつもきれいにしておいてください。汚れているときは、柔らかい布で傷つけないように注意してふき取ってください。
- ソナーまたはその周辺に強い衝撃を与えないでください。またソナーの取り外し、分解などをしないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでソナーの取り付け部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。
- ソナーまたはその周辺にステッカー（透明なものを含む）を貼ったり、アクセサリなどを取り付けしないでください。故障、誤作動の原因になります。



内装のお手入れ

内装のお手入れについて

アドバイス

- 車室内に水をかけないでください。オーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤を使用しないでください。変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあります。

ります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがあるため、確認してからご使用ください。

- オーディオやスイッチ類などの電装品、ブレーキペダル周りにシリコン（シリコン）を含むケミカル用品（スプレー、グリース、オイルなど）を使用しないでください。電装品の故障につながるおそれがあります。
- 消臭剤・芳香剤、化粧品・日焼け止めなどは、容器からこぼしたりしないでください。また、吊り下げタイプの消臭剤・芳香剤などは、内装部品に接触しないようにしてください。含まれる成分によっては、内装部品に付着すると変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあるため、付着した場合は、すみやかに柔らかい布でふき取ってください。
- 塩素系（二酸化塩素や次亜塩素酸）の洗浄液を使用しないでください。塗装はがれやサビなどの原因となるおそれがあります。やむをえず洗浄（除菌）する場合は、エタノール75%以下をご使用ください。エタノールを乾いた布に含ませ、内装部品をふいてください。エタノールがなくなるまでふき取ってください。ふき残しがあると塗装はがれや色落ちなどの原因となるおそれがあります。エタノールは、引火性ですので、火気に注意してください。
- 内装部品を固いもので擦ったり引っかいたりしないでください。傷がつき、破損するおそれがあります。

カーベットの汚れ取り

- 電気掃除機でほこりを取り除き、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。フロアカーベットを取り外したときは、敷き直すときにフロアカーベットがずれないように固定クリップで正しく確実に固定してください。

🔗WEB

布、合成皮革の汚れ取り

- 中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。汚れがひどいときは、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。

メーター表面やその他光沢のあるプラスチック部品の汚れ取り

- 塵、ほこりを取り除き、柔らかい布を真水に浸して、固くしぼってから軽くふき取ります。硬いブラシや布、ティッシュでこすると、傷がつくことがあります。

アドバイス

- 乾いた布やウェットティッシュなどを使用しないでください。傷がついたり、変色したりする原因になります。
- ワックスやコーティング剤、油などが付着した布ではふかないでください。変色の原因になります。

ガラスの汚れ取り

- ガラスの内側を清掃するときは、水を含ませた柔らかい布で軽くふいてください。熱線やアンテナ線がある場合は、線に沿って切らないように注意しながら軽くふいてください。
- ガラスクリーナー、洗剤などは使用しないでください。

インテリジェントルームミラーのお手入れ

- ミラーやカメラ部は常にきれいな状態にしておいてください。汚れなどが付いていると見えにくくなるおそれがあります。
- ミラーやカメラ部を清掃するときは、乾いた柔らかい布などでそっとふいてください。
- 清掃するときはアルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品でミラーやカメラ部をふかないでください。変色、劣化、故障の原因となります。汚れがひどいときは、まず濡れた柔らかい布でふいてから乾いた柔らかい布でふいてください。
- カメラ前面のバックドアガラスはいつもきれいにしておいてください。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた布でふき取ります。油膜が付いているときは、油膜取りを使用して清掃してください。
- カメラ前面のバックドアガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。

点検値

項目		点検値
補機ベルト		調整不要※1
ブレーキペダル※2	床板とのすき間 エンジン回転中、約490N（50kg）で踏んだとき	95mm以上

※1：補機ベルトは、ストレッチベルト（張力調整無し）を採用しているため、ベルトの張力調整は不要です。また、電動パワーステアリングおよび冷却ファンは、ベルト駆動ではないためベルトの張力調整は不要です。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

※2：ブレーキが正常に作動しないときは、必ず日産販売会社で点検を受けてください。また、ブレーキペダルの高さの調節が必要なときも、日産販売会社にご相談ください。

交換油脂類

お車の性能を適正に保つため、弊社指定銘柄のご使用をおすすめします。指定銘柄以外をお使いになる場合、指定銘柄に相当する品質のものをお使いください。記載の規定量は目安です。実際の量とは異なることがあります。交換時期については別冊のメンテナンスノートをお読みください。

エンジンオイル

適用		規定量（ℓ）	指定銘柄
ZR15DDTe	オイルのみ交換	4.4	日産純正SPストロングセーブ・X 0W-16 （API：SP、SAE：0W-16）
	オイルとオイルフィルター交換	4.5	

■ 指定銘柄以外のエンジンオイルについて

指定銘柄以外をお使いになる場合は、下記に適合したエンジンオイルをお使いください。

グレード：API規格SPをお使いください。ILSACマークのついたものをおすすめします。



APIマーク



ILSACマーク

粘度：SAE規格0W-16をご使用ください。

エンジン冷却水

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	10.6※1	日産純正スーパーロングライフクーラント※2、※3

※1：リザーバータンクの容量を含みます。

※2：走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水には、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。

※3：日産純正スーパーロングライフクーラントと日産純正ウインドウォッシャー液の色が似ているため、誤注入しないようにご注意ください。冷却回路にウォッシャー液が混入すると、内部が腐食したり、冷却水が変色したりするおそれがあります。

インバーター冷却水

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	8.8※1	日産純正スーパーロングライフクーラント※2、※3

※1：リザーバータンクの容量を含みます。

※2：走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水には、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。

※3：日産純正スーパーロングライフクーラントと日産純正ウインドウォッシャー液の色が似ているため、誤注入しないようにご注意ください。冷却回路にウォッシャー液が混入すると、内部が腐食したり、冷却水が変色したりするおそれがあります。

ギヤボックスオイル

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	1.63	日産純正マチックフルードS※

※：必ず日産純正マチックフルードSを使用してください。日産純正マチックフルードS以外のフルードを使用するとギヤボックスが損傷するおそれがあります。

サービスデータ

リヤファイナルドライブオイル

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	0.98	日産純正マチックフルードS*

※：必ず日産純正マチックフルードSを使用してください。日産純正マチックフルードS以外のフルードを使用するとリヤファイナルドライブが損傷するおそれがあります。

ブレーキフルード

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	-	日産純正ブレーキフルードNo.2500（DOT3）

ウォッシャー液

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	2.0	日産純正ウインドウォッシャー液*

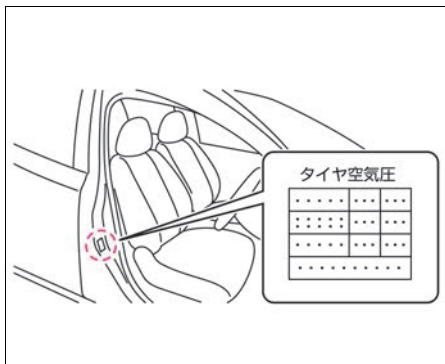
※：外気温に応じて濃度を調節してください。

車両仕様

タイヤ・ロードホイールサイズ

タイヤサイズ	ロードホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D.	インセット
235/60R18	18 × 7.5J	114.3mm (5穴)	45mm

タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してあるため、確認してください。



外装ランプ

- 次の外装ランプはすべてLEDです。
 - 前照灯（ヘッドランプ）
 - 前部霧灯（フォグランプ）
 - 後部霧灯（リヤフォグランプ）★
 - 車幅灯／アクセントランプ
 - イルミネーションエンブレム
 - 番号灯
 - 尾灯
 - 制動灯
 - ハイマウントストップランプ
 - 後退灯
 - 方向指示器 兼 非常点滅表示灯

イベントデータレコーダ（EDR）

車両データの記録・蓄積について

- イベントデータレコーダは一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声は記録しません。
- 氏名、性別、年齢などの個人情報には記録しません。

この車両に装備されている以下システムの各コンピューターはイベントデータレコーダ機能を備えています。

以下システムの各コンピューターは正常に作動しているかどうかを常に診断し、イベントデータレコーダで車両が衝突したときなどの車両データを記録・蓄積しています。

■ SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に次の車両データを記録・蓄積します。

- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報
- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 車速などの車両情報

■ プロパイロット／プロパイロット（ナビリンク機能付）★システム

プロパイロット／プロパイロット（ナビリンク機能付）★システムは次の車両データを記録・蓄積します。

- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 先行車やレーンマーカーなどの検知状況

- 車速などの車両情報
- プロパイロット／プロパイロット（ナビリンク機能付）の作動に関する情報
- プロパイロット／プロパイロット（ナビリンク機能付）の故障診断情報
- マルチセンシングフロントカメラの画像情報（SRSエアバッグ、インテリジェントエマージェンシーブレーキ作動時）

■ プロパイロット2.0★システム

プロパイロット2.0★システムは車両データを記録・蓄積します。

🔗 WEB

データの扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、イベントデータレコーダに記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性の向上を目的として、取得・利用することがあります。

なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

車両状態記録機能

車両状態の記録・蓄積について

車両状態記録機能は、次の車両データを記録・蓄積します。

- 車輪速などの車両走行情報

車両状態記録機能

- 車両状態記録機能は一般的なデータレコードとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

車両状態記録機能は品質維持を目的として、車両の運行状態を記録・蓄積します。

車両状態記録機能から得られたデータを元に的確なサービスを提供することができます。

データの取り扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、車両状態記録機能に記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。

なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合